

SGRA REPORT

SGRAレポート No. 100

NO.100

ISSN 1346-0382

第20回 日韓アジア未来フォーラム
進撃のKカルチャー
——新韓流現象とその影響力

한국어 버전

제 20 회 한일아시아미래포럼

진격의 K-컬쳐——신한류현상과 그 영향력



日本語版

한국어 버전 p.53

第20回日韓アジア未来フォーラム

進撃のKカルチャー —新韓流現象とその影響力

■ フォーラムの趣旨

BTSは国籍や人種を超え、一種の地球市民を一つにしたコンテンツとして、グローバルファンダムを形成し、BTS現象として世界的な注目を集めている。一体 BTS の文化力の源泉をなすものは何か。BTS現象は日韓関係、地域協力、そしてグローバル化にどのようなインプリケーションをもつものなのか。

本フォーラムでは日韓、アジアの関連専門家を招き、これらの問題について幅広い観点から議論するため、日韓の基調報告をベースに討論と質疑応答を行った。

日韓同時通訳付き。

SGRAとは

関口グローバル研究会（Sekiguchi Global Research Association / SGRA）は、良き地球市民（Global Citizen）の実現に貢献することを目標に2000年に設立されました。渥美国際交流財団の所在地、東京都文京区「関口」に因みます。SGRAは日本の大学院で博士号の取得を目指して研究を行い、渥美奨学生として共に過ごした外国人および日本人の研究者が中心となり、現代の課題に立ち向かうための研究や提言を、フォーラムやレポート等を通じて社会に発信しています。幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動が狙いで、多国籍の研究者が広汎な知恵とネットワークを結集し、多面的なデータを用いて分析・考察を行います。

SGRAかわらばん

SGRA フォーラムなどのお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週木曜日に電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料でご購読いただけます。購読ご希望の方は、ホームページから自動登録できます。

http://www.aisf.or.jp/sgra/entry/registration_form/

進撃のKカルチャー

—新韓流現象とその影響力

日 時 | 2022年5月14日（土）午後3時～5時
 方 法 | オンライン
 主 催 | (公財) 渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA)
 共 催 | (財) 未来人力研究院 (韓国)

司 会 | 金 雄熙 (仁荷大学教授)

【開会の辞】 今西淳子 (渥美国際交流財団常務理事・SGRA代表) 4



【第1部】	<p>[報告1] 文化と政治・外交をめぐるモヤモヤする「眺め」 小針 進 (静岡県立大学教授)</p> <p>[報告2] BTSのグローバルな魅力—外的、環境条件と内的、力量の要因— 韓 準 (延世大学教授)</p>	6 20
【第2部】	<p>[ミニ報告] ベトナムにおけるKポップ・Jポップ チュ・スワン・ザオ (ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員)</p> <p>[講演者と討論者の自由討論] 討論者：金 賢旭 (国民大学教授) 平田由紀江 (日本女子大学教授)</p>	32 28
【第3部】	<p>[質疑応答]</p> <p>進行：金 崇培 (釜慶大学日語日文学部准教授) 金 銀恵 (釜山大学社会学科准教授)</p> <p>回答者：小針 進 (静岡県立大学教授) 韓 準 (延世大学教授) 平田由紀江 (日本女子大学教授)</p>	41
<p>【閉会の辞】 徐 載鎮 (ソ・ゼジン：未来人力研究院院長) 47</p> <p>講師略歴 49 あとがきにかえて 50</p>		

開会の辞

今西淳子

渥美国際交流財団常務理事・SGRA代表



みなさん、こんにちは。

渥美国際交流財団常務理事、関口グローバル研究会代表を務める今西と申します。

本日は、昨年に引き続きオンラインで開催する日韓アジア未来フォーラムに200名を超える方々にお集りいただきました。ありがとうございます。

おかげさまで、本フォーラムは、今回めでたく20周年を迎えました。

今、私が居る、東京都文京区の関口から、グローバルに発信していくこうという意味で名付けた関口グローバル研究会、SGRAですが、立ち上げて間もなく、本日司会を務めてくださっている金雄熙先生を通して、韓国の未来人材研究院の李鎮奎先生から、マッチングで研究交流事業をしようというお話をいただき、私どもとしては初めての海外拠点プロジェクトが始まりました。

1回目は、2001年10月にソウル郊外のヤンピョンにあった未来財団の交流館で、未来財団と渥美財団の若手研究者が集まってセミナーを開催した後、サムギョプサルと爆弾酒の懇親会ということで、最初から非常に濃い交流事業が始まりました。その後毎年交互に韓国と日本を行ったり来たりして、時にはグアム島やオーストラリアにまで行ったこともあり、メディアで報じられる最悪の日韓関係とは関係なく、順調に研究交流プロジェクトが続いています。

コロナ禍が始まってからは、オンラインのおかげで同時通訳をお願いしやすくなり、今までにはできなかった言語と空間を超えたイベントに世界各地からたくさんの方に参加していただけるようになりました。

本日は、「進撃のKカルチャー」をとりあげ、政治学と社会学の先生方から分析していただくことになりました。また、韓国と日本のポップカルチャーの世界的な影響の一端を、ベトナムから報告していただきます。感染症や戦争など暗いニュースばかりの毎日ですが、少し明るいテーマで20回目の日韓アジア未来フォーラムをお楽しみいただければ幸いです。

Zoomウェビナーという方法は、一般参加の皆さまはお顔を拝見できませんし、発言もしていただけないので申し訳ありませんが、是非ともQ&Aの機能で質問やコメントをお寄せいただきたいと思います。時間が限られているため、いただいたご質問の全てをフォーラムの中でとりあげることはできないと思いますが、フォーラム後に講師と討論の先生方にお送りさせていただきます。

また、本日の講演会の内容は日本語と韓国語の合冊版のレポートにまとめて紙とデジタルの両方で発行いたしますので、後日お読みいただけますと幸いです。

それでは、フォーラムを始めましょう。

ソウルの金雄熙先生、よろしくお願いします。

【第1部】

報告
1

文化と政治・外交をめぐる モヤモヤする「眺め」

小針 進 静岡県立大学教授

1. 国境を超える大衆文化と韓流

本日は、以下の四つのパートに分けてお話ししたいと思います。

- 国境を超える大衆文化と韓流
- 日本の韓流ブームと韓国の「親日フレーム」
- 文化と政治をめぐる日本の大学生の葛藤事例
- 懸念と希望

最初のパートは「国境を超える大衆文化」です。大きな流れで考えますと、60年代以降ずっと、日本のアニメを始めとして、国境を超えて東アジア各地で広がりを見せるものはありませんでした。(スライド1)。

では、最近の韓流の現象とこれまでの違いというのには何が違うのでしょうか。それは東アジアの域を超えたものになっているというのが、特徴的だといえます。

日本の次に文化輸出国として韓国が出てきた後、BTSもそうですし、あるいはNetflixで配信されているドラマのいくつかもそうですが、東アジアの域を超えて受け入れられています。

大衆文化なり情報が国境を超えるとき、そこにどういう要素があるのか。石井健一氏（文教大学情報学部教授）は、文化・情報の流れを決める要素は三つあると分析しています(スライド2)。

1番目は、「国内の市場規模」です。規模が大きければ大きいほど、いいものがつくれるという点です。たとえばアメリカには3億人いるから、ハリウッド映画は良質なものができます。けれども、韓国は5千万人ですから非常に不利なわけですが、もともと世界市場を意識した戦略をしているからではないかと思います。

2番目は「人的資本」があるかどうかという点です。これは大きな要素で、韓

東アジアにおける大衆文化の波及

- ・1960年代～ アジア各地で
日本のアニメの普及
- ・1980年代半ば アジア各地で(一部は域外へ)
NHKドラマ「おしん」の流行
- ・1990年代 台湾で
日本のテレビ番組が大人気、「哈日族」の出現
- ・1998年～ 韓国で
日本大衆文化 段階的開放措置、映画「Love Letter」などヒット(99-2000年)
- ・1999年前後～ 中国・台湾・香港で
韓国のテレビドラマ が大人気
- ・2003年～ 日本で
KBSドラマ「冬のソナタ」など韓国ドラマ大ブーム、「ヨン様」現象(2004年)
- ・2010年～日本などで
「KARA」「少女時代」など韓国発のK-POPガールズグループ大ブーム
- ・2014年～BTSが日本でもデビュー。韓国からアジアをめぐる初のツアー
2020年～ NiziU、「愛の不時着」 2021年～「イカゲーム」…
韓流の台頭は、域内で①大衆文化新輸出国の出現、②一方向から双方向へ東アジア域外への伝搬(特にBTS)

スライド1

文化・情報の流れを決める3要素と韓流

1. 「国内の市場規模」

国の規模が大きいほど、ひとつのソフトから多くの収入を得ることができ、それだけ高い製作費をかけることができ、高水準の作品製作が可能→本来は韓国に不利。韓流は市場規模が大きくなかったからこそ、当初より世界市場を意識した戦略が奏功

2. 「人的資本」

ソフトの作り手が優秀でなければ高い水準は生れない。ノウハウ、技術、センスある人材がどれだけいるか→韓国は宝庫

3. 「文化的類似性」

受け手と送り手の文化がどの程度、類似性があるかどうかの問題である。コンテンツによって異なるが、送り手国と受け手国との「文化的類似性」が高いほうが流れやすい→日韓の類似性

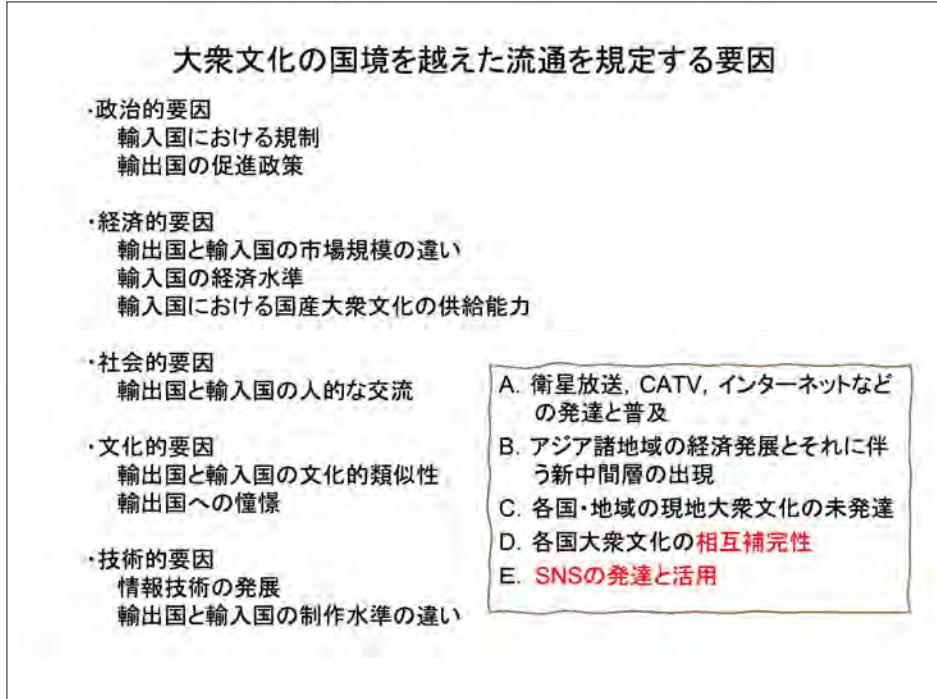
(注)3要素は、石井健一「文化と情報の国際流通」、石井健一編『東アジアの日本大衆文化』(蒼齋社、2001年)を参照。

スライド2

国は人材の大きな宝庫になっている。これは事実だと思うんですね。

3番目は「文化的類似性」です。送り手・受け手を考えたとき、文化的類似性があるほうが受け入れやすいという点です。日本における韓流現象、中華圏における韓流現象はこれで説明がつきます。ですが、最近の BTS などは、少しここからは理解を超えているのではないかと思っています。

国境を超えた流通を規定する要因には、今お話ししたようなことのほかに、政



スライド3

政治的要因、経済的要因、いろいろな要因があるわけです（スライド3）。日本にしても韓国にしても政治的な文化の輸入規制（ただし、韓国は未だに日本大衆文化の全面開放には至っていない）／輸出規制はありません。これは輸入規制がある北朝鮮などとは違うわけです。あとは技術的要因というのがすごく大きいといえます。Netflix にしても、BTS の現象にしても、これは近年のSNS の発達によるところが大きいのかなと思っています。

日本において、実は韓国の大衆文化は、80年代90年代から受け入れられていました。つい1週間前でしょうか。姜受延さんがお亡くなりになったという非常に残念なニュースがありました。アジアの女優として初めてベネチア国際映画祭で主演女優賞を受けた方で、日本でも非常に人気がありました。日韓文化交流にもとても積極的に取り組まれ、20年以上前になりますが、「日経流通新聞」のインタビューに答えて、大きな記事になりました（1999年3月6日付「銀幕と生きる韓国の華 アジア合作の必要説く」）。

記事の中で姜さんは、例えば、「（日本映画の開放について）国内では賛否両論あるが、私自身は歓迎している。これまで見られなかったことのほうがおかしい」「韓国には個性的で才能ある人材が豊富だし、日本には進んだ技術がある。協力すれば必ずいい映画が撮れるはずです」などと話されていました。その後、両国の映画人の協力が進み、良い作品が多く誕生しています。この場をお借りして改めてご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、今の韓流ブームについては、実は日本のなかでもジャーナリズム、あるいは学問の世界でいろいろな分析がなされています。スライド4に示したのは菅野朋子さん（ジャーナリスト）と、桑畠優香さん（ライター・翻訳家）の分析ですが、このなかでとくに菅野さんの③のデジタル化であったりとか、桑畠さんの

⑤の発信力、これはSNSを通じてのものを含めて、これがだいたいポイントではないかと思います。このあたりのことはソウル大学教授の洪錫敬先生が分析しておられます（スライド5）。日本でも訳書（『BTS ON THE ROAD』洪錫敬著・桑畑優香訳、玄光社、2021年）が刊行されていますので、興味のある方は一読をお薦めします。

今日は韓準先生が、このあたりの事情について詳しくお話しされると思いますので、私は省略しますが、洪先生はご著書のなかで、とくに経済効果・非経済効

韓流の発展分析

A. 韓国エンタメ産業発展の理由

- ①1980年代末の韓国の民主化による「表現の自由」の獲得
- ②1997年のIMFショックによる韓国の産業構造の転換
- ③世界のデジタル化社会
- ④政府の韓国文化支援策という下支え
(菅野朋子『韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか』文春新書、2022年)

B. 世界がBTSに“沼る”理由

- ①ダンスのうまさ
- ②音楽性
- ③知的好奇心を刺激するMVや歌詞
- ④メンバー7人の仲の良さ
- ⑤発信力
(翻訳家の桑畑優香、『毎日新聞』夕刊2022年4月11日付)

スライド4

BTSの影響・効果分析 洪錫敬『BTS ON THE ROAD』

- BTSは経済的価値を生み、[国家イメージを改善させた](#)。
- BTSは時に、国際関係や政治的な偏見とも向き合わなければならない。
- K-POPやBTSファンが韓国語を学ぶ大きな動機のひとつである。
- K-POPは欧米ポップカルチャーと同様に、[麻薬、セックスなどの問題も](#)。
- 本来、韓国のファンは、スターの政治関与に賛成しなかった。ファンダム自体がひとつの政治的立場でないからだ。[韓国のBTSファンは、BTSに疑問を投げかけたり\(ミソジニー問題、黒人文化に対する問題\)、チャリティー活動したり\(メンバーの誕生日に植樹するなど\)、圧力をかけたり\(秋元康氏とのコラボレーションが発表されたときに反対運動をした\)など、BTSの名を活用してSNSにうねりを起こす](#)。
- BTSが作り出した東アジア人像は、大国である中国や日本ではなく小さな国、韓国、しかも首都ソウルではなく地方出身の7人の若者たち。
- 韓国のK-POPファンの一部は、海外のファンを「ウェキイ(외기、"外国")と"ゴキブリ"の合成語)と呼び、露骨に敵対感情を表している。

スライド5

輸出国から見た大衆文化流通の影響・効果

1. 経済効果

- ・直接的効果

メディア、制作会社などの文化産業の売上増大

- ・間接的効果

観光産業の売上増大(関心の高まりによる観光客の増加)

工業製品等の売上増大

(大衆文化人気によるイメージアップ、存在感の増大)

2. 非経済効果

親近感の醸成、好感度の上昇

⇒ 関係改善・友好関係の構築？

スライド6

果を挙げておられました（スライド6）。私自身は非経済効果、とくにこれが日韓両国の関係改善に役立っているかどうかについて、非常に関心があります。

それでは、そろそろ次のパートにいきたいと思います。

2. 日本の韓流ブームと 韓国の「親日フレーム」

今の日本における韓流ブームと時を同じくして、一方の韓国での日本に対する「眺め」はどうかというと、日本の大衆文化ファンというのはそれなりのプレゼンスはありますが、私が気に入っているのは、むしろ「親日フレーム」（日本寄りというレッテル貼り）のような言い方なんですね。

日本においてですが、若者の流行語などには韓流がらみのものが本当にたくさんあるんです。株式会社AMF（女子中高生向けのマーケティング支援などを手がける会社）が2021年12月15日に発表した「JC・JK流行語大賞2021」によると、「ヒト部門」「アプリ部門」「モノ部門」「コトバ部門」の、各上位5位までの計20項目のうち、7項目が韓流とかかわりのある言葉でした（データを提示。掲載略）。たとえば「渡韓ごっこ」は、コロナで韓国に行けないかわりに、韓国フードを買ったり、韓国風の場所に行ったりするなどして、韓国に行った気になっているなどを意味する言葉です。

一方、韓国においては残念なことに、大衆文化とナショナリズムの問題がいくつか浮かび上がってきてています。たとえば日本の大衆文化のアニメ『鬼滅の刃』など非常にヒットしたものもありますが、（主人公の耳飾りのデザインが旭日旗に似ているなどの）ナショナリズムがらみの問題が指摘されています。

また、韓国の中堅政治家のフレームでは、いわゆる「親日」という用語がかなり出

金大中・盧武鉉政権による日本大衆文化の段階的開放措置は 李明博、朴槿恵、文在寅各政権下では進展なし

- ・ 金大中政権期の1998年10月（第1次）、1999年9月（第2次）、2000年6月（第3次）、盧武鉉政権期の2004年1月（第4次）と、分野別に段階的に部分開放した。
- ・ ①一般映画上映、②アニメ映画上映、③ビデオ販売、④大衆歌謡公演、⑤音盤販売、⑥ゲームソフト販売、⑦放送、⑧マンガが分野区分で、**放送ではバラエティー番組の放映および地上波でのドラマ放映が未開放のまま。**
- ・ 李明博、朴槿恵、文在寅の各政権下では**第5次の措置は一切とられず、全面開放に至っていない。**

※主流の地上波テレビ局がメイン時間帯で行う効果
 ⇒中国で80年代に人気ドラマ『赤い疑惑』『おしん』『燃えろアタック』をCCTVで放映→当時は良好な対日感情

スライド7

てきています。これは韓国内の内政の話ではあるのですが、「土着倭寇」（日本へ宥和的な姿勢を示す自国民に対して、「似非日本人」と揶揄する呼称）とか、そういう言葉が聞こえてくるのは、日本人としてはあまり面白くない側面ではあります。

同時に、大衆文化の側面からみると韓国においては日本の大衆文化は、100%は開放されていないんですね。とくに韓国の地上波におけるテレビ局で、日本のテレビドラマ、バラエティ番組はまだ流せないという状況になっていまして、残念ながら金大中・盧武鉉政権のときは段階的に開放しましたが、李明博・朴槿恵・文在寅政権下ではまったく進展がありませんでした（スライド7）。

中国では80年代に人気ドラマ『赤い疑惑』『おしん』『燃えろアタック』がCCTV（中国中央テレビ）で放映されていて、この時期の対日感情は非常に良好なものでした。地上波であるメインの放送局で、番組が流されることによる影響力は計り知れません。

3. 文化と政治をめぐる日本の大学生の 葛藤事例

さて、ここから三つ目のパートに入ります。

私は今、静岡県立大学と慶應義塾大学で教えているのですが、韓国に関心がある大学生たちにとって文化と政治をめぐる問題は、まさに「モヤモヤ」という感情がぴったりなんですね。このモヤモヤという感情は、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナールが刊行した本のタイトル『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』（大月書店、2021年）にも使われていますし、毎日新聞の大貫智子記者が「記者の目 若者と日韓関係」（2021年12月15日付）という記事でこのモヤモヤとい

う言葉を使っておられます。記事の内容は、例えば、K-POP やドラマを通じて韓国に関心を持ったものの、日韓関係という課題にぶつかっていく。こういうことに悩んでいる学生が多い、といったお話をしました。

実際の具体例として、静岡の学生や慶應の学生にレポートを書いてもらっているなかで、私が感じたモヤモヤの例をここで紹介したいと思います（詳細は p 18~19 参照）。

a. 政治と文化を切り離せない葛藤

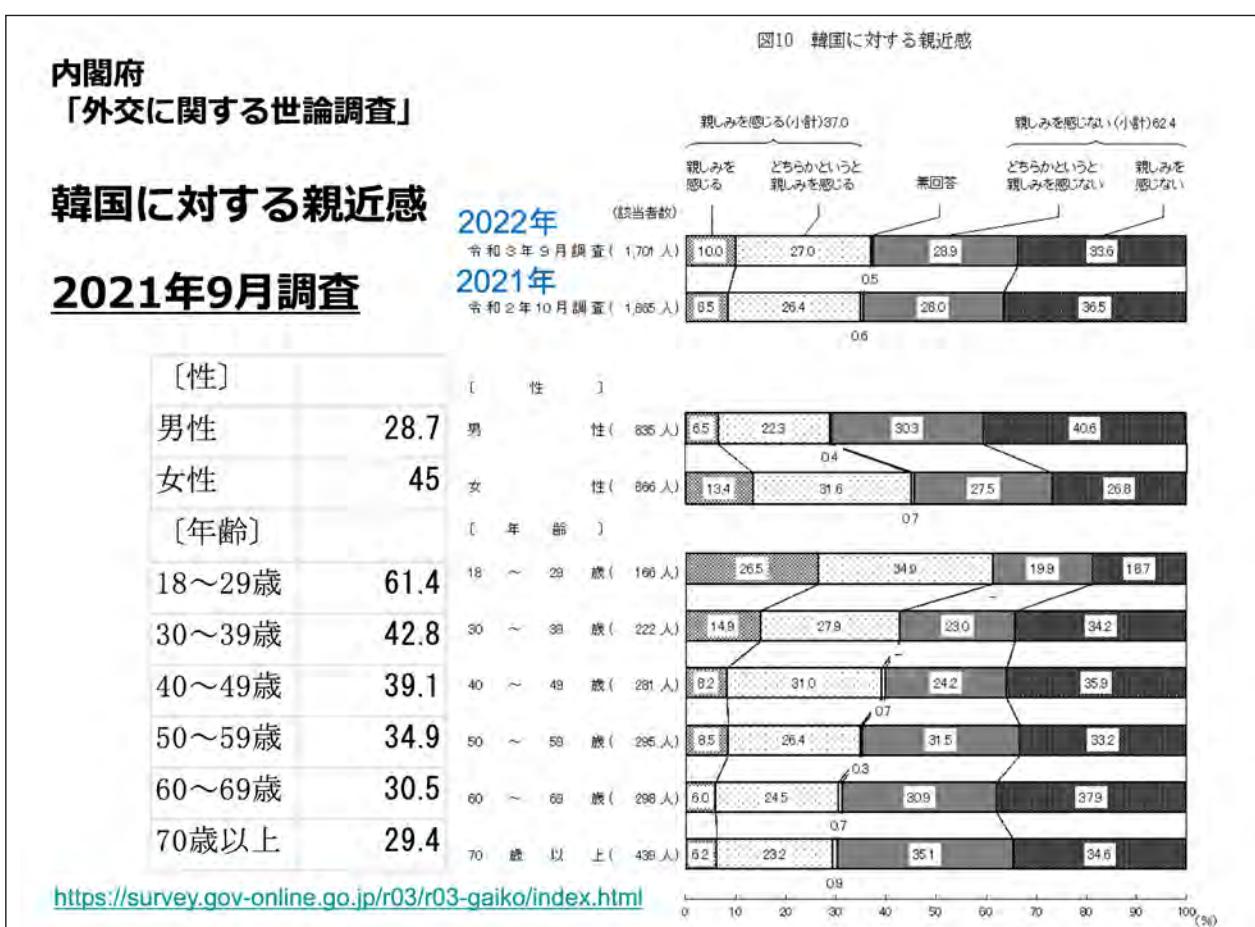
とくに家族との間で政治の話題が出たときに、どう捉えればいいのかという葛藤ですね。

b. 政治ニュースの韓国とInstagramの韓国のギャップへの葛藤

政治のニュースで出てくる韓国と、インスタグラムに出てくる非常に魅力的な韓国とのギャップがあまりにも大きく、理解できない。このへんのモヤモヤです。

c. 文化消費と政治的価値観・世代間の差への葛藤

それから、例えば自分自身は韓国の文化を楽しんでいるわけですけれども、嫌韓なお父さんが何か嫌な顔をする。つまり世代差みたいなものです。たとえば今、ご覧いただいているのは、日本の外交に関する韓国の世論調査で「親近感」、



昨年9月のデータなんですが（スライド8）、男性よりも女性のほうが17ポイントぐらい高いんです。さらに年齢差。調査によると、大学生の年代は60%ぐらい親近感を持っている。ところが60代以上になると30%しか親近感をもっていないこのあたりの世代間のギャップに疲れる学生たちが多くいます。

d. BTSと朴槿恵～魅了する文化と不安定な大統領の国に対する葛藤

具体的にいうと、たとえば日本では2018年ぐらいからBTSが流行り出しましたが、魅惑的なBTSと、信頼度が揺らいだ朴槿恵さん、この二つの間の葛藤ですね。

e. 反日・親日騒動と嫌韓助長への葛藤

それから、韓国の芸能人の些細な言動が「反目的だ」「親目的だ」といわれて騒動になる事例ですね。「親日フレーム」騒動だったり、あるいは逆に日本国内では「あのスターは反日なんじゃないか」といわれたり、そういうものが持ち上がる。それに応じて、日本のなかの嫌韓感情が助長されていく、このへんに対する葛藤を抱えているわけです。

f. 政治的表明とその反発への葛藤

BTSに関していえば、原爆のTシャツを着ていたという騒動がありました。これはBTSのほうから謝罪がありましたので、決着がついていると思うのですが、このときに東京ドームでの公演中止を求めるハッシュタグが、かなりありました。

g. 政治の文化への介入と「推し」の反日疑惑への葛藤

日本語では「推し」という言葉が流行っていますが、「自分が好きなアイドルが反日なのではないか。こんなに自分は好きなのに、あの人は日本を嫌っているんじゃないかな」と、そういったことの葛藤ですね。これもあるということです。

BTSの話題でいうと、原爆のほかにもうひとつ、秋元康氏とのコラボレーションをめぐる問題がありました（スライド9・p14）。秋元氏が安倍首相と交流があるということが主な理由です。もちろん若干女性蔑視的な歌詞があるということもあったのでしょうか、このときにARMYと呼ばれるファンダムの皆さんのSNSでの発信があって、中止になったことがあります。このときに在日韓国人の慎武宏さん（ライター）が、ARMYの行動を非常に残念だったと記事にしています。反韓とか嫌韓とかいわれますが、秋元さんに限っていえば、韓国の理解者かそうじゃないかといったら、韓国へ好意的な理解者なんですよね。なので、このへんのところは若干不寛容さがあったのではないかと思います。

たとえば韓国のなかではファンダムといいくつかの例でいいますと、綾瀬はるかという有名な女優さんがいますよね。彼女も出演した映画作品をめぐって右翼という烙印を韓国で押されました。右翼とは対極にある日本共産党の機関紙「しんぶん赤旗」日曜版の芸能ページには、多くの芸能人のインタビュー記事が載りますが、この女優さんも登場したことがあります。100万部近く発行されている新聞ですので、ビジネス的にも有用なわけです。政治色などない。この方は大手家

BTSをめぐる日韓間の騒動

2018年9~11月

①解放万歳を叫ぶ人々の模様と原爆投下が描かれたTシャツ着用と日本のテレビ番組出演のキャンセル

②秋元康氏とのコラボレーション企画中止騒動

「韓国では「右翼」は「ナショナリズム」と同義語となり、さらに拡大解釈が働くことで反韓・嫌韓層だというレッテルまで貼られてしまう。そうした負のイメージが痛手になって今回のコラボが中止になってしまったようだが、秋元氏のこれまでの仕事をしっかり調べれば氏が決して韓国に否定的ではなく、むしろ好意的であることはすぐに気づくはずだ」(慎武宏[在日韓国人のライター]「BTSと秋元康コラボ中止騒動に違和感。韓国で“右翼判定”されてしまう日本の芸能人たち」<<https://news.yahoo.co.jp/byline/shinmukoeng/20180927-00098378>>、2018年9月27日)

※ 2020年 6・25朝鮮戦争発言(中国への刺激)

スライド9

電メーカーのCMにも出ていますし、実は日本の芸能人はそれほど政治との連関性はなく、右翼とか左翼とか、政治や理念からは無色で、自由な人たちです。韓国社会とは異なる状況を、韓国のファンダムは理解すべきです。

ただ、BTSの発信のなかで私が感心するのは、人間の安全保障（貧困、飢餓、感染症、災害、環境破壊、薬物、人権侵害など）に絡むようなことに対する発言です。これを私は発信すべきだと思います。例えば、アジア人がヘイトクライムで苦しんでいる、こういうときに発信をしました。非常に立派だったと思います。したがって、どこまでどういう発言をしてもいいか悪いかという議論もあり得るのでないかと思います。

h. ファンダムのSNS投稿と素直に楽しめない葛藤

これは韓国国内ですが、あるK-POPアイドルとして活躍する日本人が、日本の元号が令和に変わったときにお祝いのツイートをしたところ、多くの韓国人から批判のコメントが寄せられたと。一部韓国人による日本文化への無理解を知った日本人が、それまで韓国の文化を楽しんでいたが、こういう状況をみると様々な日韓問題が存在していることに目を向けざるを得なかった、韓国の文化を素直に楽しめないのかと嘆く声もありました。

i. アーティスト批判の嫌韓論への葛藤

それから逆に日本国内では、韓国が嫌いな人たちから「K-POPのアーティストなんて、日本のことなんて何も考えていないよ、お金を稼いでいるだけですよ」という声が出てくる。それに対してK-POPファンの若い子たちが非常に悩むわけです。

なぜこのようなことが起こってくるかというと、今日韓関係に限らず、いろい

ろな問題で情報の双方向性、詳報性あるいは速報性があるわけです。2019年のバーニングサン事件であったり、パクユチョン麻薬事件であったり、ソルリ、クハラの自殺であったり、そういう事件が本当にすぐ、日本語で報道されます。韓国嫌いな人からすると、こうしたニュースが「ほら、みろ」ということになっているのだと思うんですね。

ただ、韓国社会の中で自浄作用があるなど感じことがあります。たとえばSBSのカン・ギュンウン記者は「私たちの社会では韓流という名前ですべてを許し、監視と批判を怠ったのではないか」と発言していて、韓流というか、すでに韓国は文化大国なわけですね。批判にさらされて当然だという意識を、韓国の中まで持っているというのは、すばらしいと思います（カン記者のスクープ報道に関しては、菅野朋子さんが今年出した『韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか』（文春新書）で書いています）。

j.以前は日本が韓国の手本だった葛藤

最後にもうひとつ。日本では、若者から見ると、今の韓国は日本より勝っている面が多いように見えるが、年配者には日本のほうが一歩進んだ国だったという思いがある。これはその世代間にある葛藤です。

4. 懸念と希望

残り5分で懸念と希望について少しお話をして終りたいと思います。

今ご覧いただいているのは、日本の中学生・高校生が海外に修学旅行に行くとき、どの国が何位だったかというものです（スライド10・p16）。実は2012年までずっと、韓国は日本の修学旅行生たちの海外渡航先のトップでした。ところが、2012年以降、外交関係が悪くなりまして、ずっと下がっています。2015年には12位まで下がりました。

これはひとことでいうと、外交関係が悪い、反目的な動きがある、そんなところに自分の子どもを行かせたくないという保護者の声が勝っているんですね。

では2019年はどうなったか。これはコロナ前の日本修学旅行協会の調査結果ですが、1位は台湾の25.2%でした（スライド11・p16）。韓国は2位3位とか6位どころじゃなくて、なんと全体のたった1%余りです。416件のうち4~5件しかないわけです。

修学旅行というのは、その国の文化を理解するための非常に重要なものなんですけれども、政治・外交が悪くなると、文化その他の交流に影響を及ぼすひとつの一例じゃないかと私は思っています。だから政治・外交はよくあるべきだと考えます。

先ほど韓国が日本への「眺め」をめぐることをやや批判的に言いましたけれども、韓国社会の食の世界では最近、日本語の「おまかせ」（店側に委ねる意味）がちょっとした流行語になっているそうです。これは私からすると非常にうれしい、面白いことです。

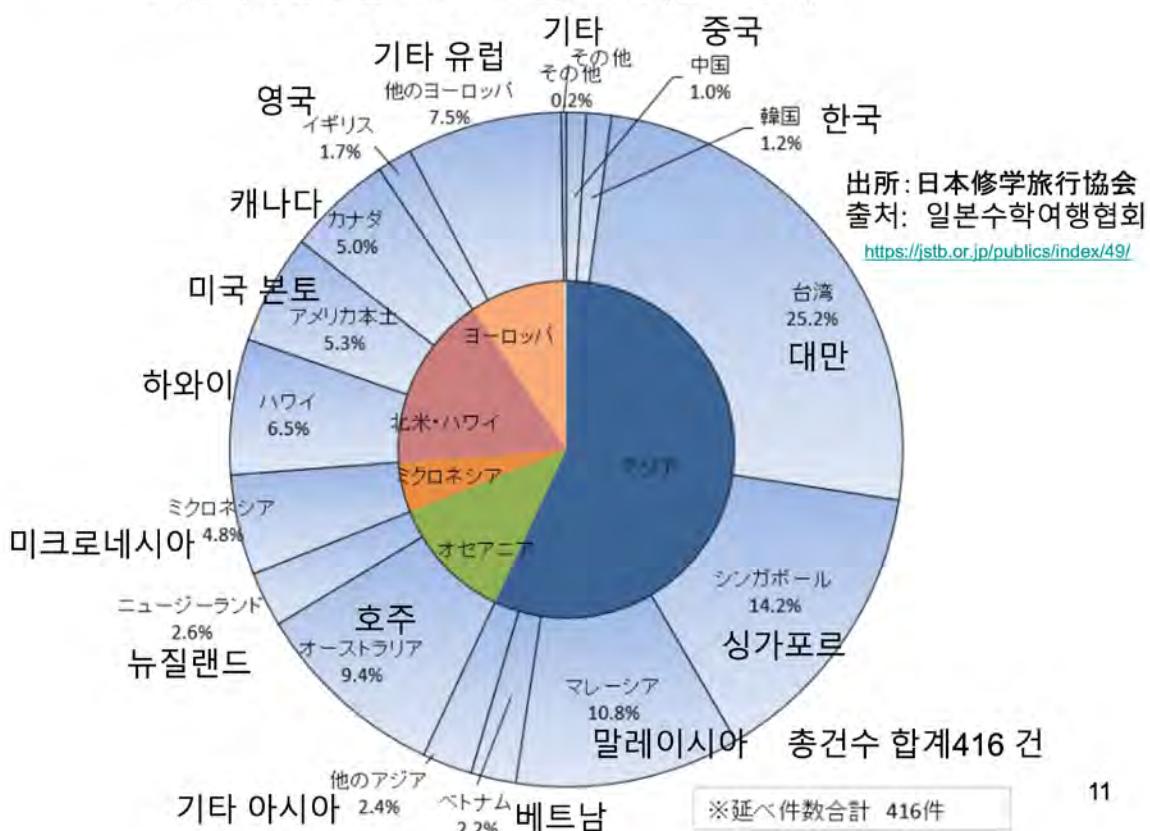
韓国を訪問先とする修学旅行が日本で激減 한국에 가는 수학여행이 일본에서 격감



	2011	2012	2013	2014	2015
Korea	1	1	6	8	12
Australia	2	2	3	2	3
Singapore	3	3	1	3	2
Taiwan	8	6	2	1	1

スライド 10

2019年 海外修学旅行の訪問国・地域別割合（件数比） 해외수학여행 방문 국가·지역별 비율(건수 대비)



スライド 11

一方日本においては、韓国語学習者が非常に増えています。なぜ韓国語を勉強するのかというと、BTSが好きだから、Netflixで字幕なしでみたい、というのが多いですね。たとえばN H Kの語学テキスト売り上げ順位（富士山マガジンサービス調べ）を見てみると、1位から12位までのうち七つは英語ですが、韓国語が三つ入っています。その他は10位にフランス語、11位に中国語です。私が勤務する大学では、国際関係学部の新1年生が選択する第2外国語のうち、韓国語が初めて履修登録者数でトップになりました。他の大学でも、同じような現象が起きていると聞きます。

それからチョ・ナムジュさんの著作『82年生まれ、キム・ジョン』は、日本でも大ベストセラーになりました。これを契機に韓国の文学作品が非常によく売られています。金承福さん（出版社クオン社長）の調べによると、日本で翻訳された韓国文芸分野の本は、2011～2017年までの7年間で83冊しかなかったものが、2018～2021年の3年4ヶ月で136冊刊行されたという現象がありました。これはとくにフェミニズムに関するものが多いのですが、たとえば、これは慶應の学生ですが、「韓国文学の沼に落ちた」といっているんですね。2000年代初めのヨン様ブームだとか、いくつかの韓流ブームのときには、あまりなかった現象なんです。音楽や映像と違って韓国文学、活字を読むというのは大変なことですよね。能動的な行動です、文学を理解するわけですから。文化を理解しようとする気持ちが、だいぶ生まれているのではないかと私は思います。

フェミニズムという部分は日本でも共通する課題があるわけで、これも非常に有名なオンライン（東洋経済オンライン）でも「『韓国フェミニズム』知られざるその後」などといった特集ができていたり、あるいは「本屋大賞」という影響力のある大賞においても、翻訳部門で韓国小説が上位を占めているということが起こっています。

今日はトップバッターでの報告でしたので、少しテーマを広げて発表させていただき、大学の教員という立場から見えるいくつかの具体例も紹介させていただきました。

韓流のメカニズムをどうとらえるかということと、政治・外交がこれまでいいのかというと、私はよくないと思います。やはり文化交流に対する影響もあるわけです。またファンダムの影響力というのも、SNSの発信でのやりとりによって極めて魅力的ですし、スターとかファンの社会参加の在り方など、掘り下げたい部分もあります。文化は今、「消費」になっていますが、その国の文化を「理解」するところにつながっているのか、そのあたりがポイントなのではないかと思います。

今日は20分以内ということでしたから、非常に早口の発表になり、同時通訳の方には本当に申し訳ありませんでした。ご理解いただければ幸いです。

ご静聴ありがとうございました。

参考：静岡県立大学および慶應義塾大学の学生レポートにみるモヤモヤの例

a. 政治と文化を切り離せない葛藤

a. 정치와 문화를 분리할 수 없는 갈등

日本の歌謡番組にK-popアーティストが出演すると動画を回し、熱心に視聴した。しかし、私が盛り上がっている一方で母はそんな私を懐疑的な目で見ていた。母の眺めを変えたのが2020年の夏、「Dynamite」で大ヒットしたBTSであった。今までK-popに自発的に触れようとした人にも嫌でも耳に入るようになり、K-popに触れる機会が多くに人に訪れた。そこで、その良さに気がついた大勢の中の一人が母である。母は BTSに興味を持ったことをきっかけに新大久保に行ったり、自宅でかなりの頻度で韓国ドラマを視聴したりするようになった。

私としては自分の好きなものを家族に理解してもらえて、非常に嬉しいことである。しかし、私も母も共通して韓国を政治と文化を切り離して見ていく。もちろん、これから先政治と文化を切り離し続けることは困難だろう。いつかは向き合わなければ前に進めない日がきてしまうことも認識している。だが、少なくとも、今の私の韓国に対する眺めは、「大衆文化は非常に魅力的だが、政治においてはややこしい国」というものだろう。(慶應 Cさん)

b. 政治ニュースの韓国とInstagramの韓国のギャップへの葛藤 b. 정치뉴스 한국과 인스타그램 한국 캡에 대한 갈등

幼い頃から、ニュースで見る韓国は、「少し怖い国」であり、「よく分からぬ国」でした。日本と領土や歴史の問題で揉めているイメージで、良いニュースを見た記憶はほとんどありません。(中略)

しかし、私が高校生や大学生になってInstagramを使うようになると、日本の若い世代は韓国に大変いい印象を持っているようでした。まるで、テレビで観た国とは違う国の方が話題になっているかのように、SNS上の韓国は洗練されていました。これは、私にとって韓国への新しい「眺め」でした。そして、いったん韓国に対するいい「眺め」を意識すると、韓国のファッショナやアイドル、ドラマなど、今まで注目してこなかったものが、一気に目に入ることになり、生活の中で韓国を意識する機会ができました。

そのような魅力的な韓国と、ニュースの中の韓国には、やはり開きがあり、このギャップによって、韓国に対する「よく分からない」というイメージは強くなりました。(静岡 Bさん)

c. 文化消費と政治的価値観・世代間の差への葛藤

C. 문화소비와 정치적 가치관·세대간의 차이에 대한 갈등

高校2年生の時韓国のアイドルのミュージックビデオやコンサート映像を見るようになってからは、それ以前に韓国に対して抱いていたマイナスなイメージはかなり薄れていった。むしろ、芸能やファッショ、美容など当時の自分がちょうど興味を持ち始めた分野において日本とは違うスタイルを持っている韓国のこと、進歩的な国としてかなり極端な高評価をしていた時期もあった。

しかし、あくまで趣味として消費していくうちに段々と日韓の政治的な関係や立ち位置、価値観の違いについてモヤモヤを抱えることが多くなっていった。自分の父親が韓国の政治や文化、そこに住む人間のことさえも毛嫌いしていることもモヤモヤの一因としてあるかもしれない。(静岡 Cさん)

d. BTSと朴槿恵~魅了する文化と不安定な大統領の国に対する葛藤 d. BTS와 박근혜~매료하는 문화와 불안정한 대통령의 나라에 대한 갈등

私が韓国文化を身近に感じるようになったのは、中学2年生の時だった。クラスメイトに韓国アイドルグループBTSや、TWICEを推す人が現れた。韓国文化がどれだけの日本人を魅了し、愛されていたかは言うまでもない。しかし、私自身は、韓国に特別な思い入れがあったわけではなかった。だからこそ、何が世間をそこまでさせているのかは当時から気になっていた。

一方で「政治」はどうだろうか。私は日韓関係にあまり良い印象を持っていない。それ以前に韓国という国の安全性が信用できなかった。私が韓國の大統領と言われて一番に思い浮かべるのは、朴槿恵元大統領だ。彼女は、私が小学生の頃の大統領だった。現在、彼女は逮捕されている。國のトップに立っていた人間が捕まるとは日本では考え難い。彼女だけではない。歴代の大統領には殺された人もいる。(静岡 Dさん)

e. 反日・親日騒動と嫌韓助長への葛藤 e. 반일·친일 소동과 혐한 조장에 관한 갈등

日本では、か弱く清楚に演出されがちである女性が、韓国では意見を持った強い姿で描かれていることが多いなど、韓国のエンターテインメントを通じて初めて知る、日本が見習うべき点も多くあり興味深く感じている。

一方で、韓国の芸能人の些細な言動が反日的だ親日的だといつて騒動になる事例も何度も目の当たりにしてきた。現在の私が持つ眺めのひとつに、韓国人の方が日本人よりも政治や歴史に関心があり、個々が強く意見を持ち発信しているというのがある。だからといって韓国人が何を言っても受け入れるというわけではないが、その国民性の違いが日本人の嫌韓意識を必要以上に加速させているのではないかと考えている。政治においても文化交流においても、互いを理解し合い、ネガティブな眺めを是正しようと努力することが必要だろう。(慶應 Eさん)

g. 政治の文化への介入と「推し」の反日疑惑への葛藤 g. 정치 문화에 대한 개입과 「최애」의 반일 의혹에 대한 갈등

「文化と政治は別問題」と言う人もいる。しかしながら、時に日韓の政治的問題は日韓の文化交流に介入していく。日韓関係が悪化した時、KPOPアイドルの来日が困難になったり、自分の好きなアイドル“推し”が反日かもしれない、と不安になったりと、日韓の政治的問題によって、心置きなくアイドルを応援することができない人がいる。政治的問題に関係なくお互いの文化を愛することは簡単であるように見えて、実際にはこれらは切り離すことのできないものなのである。私は学生時代そのような経験を何度もした。「韓国の文化が好きだ」「KPOPが好きだ」と言つただけで一部の大人からとても嫌な顔をされたりするたびにとても悲しい気持ちになった。その時から私は、日韓関係が一刻も早く改善されることを願っている。(慶應 Gさん)

i. アーティスト批判の嫌韓論への葛藤 i. 아티스트 비판의 혐한론에 대한 갈등

私はKPOPとともに、韓国の言語、食べ物、ドラマなど様々な韓国文化にも興味を持つようになり、ネット上で韓国文化に関する記事や動画を見るようになった。

すると、記事や動画のコメント欄に、韓国に対する批判コメントが多く載っているのを見て、私は衝撃を受けた。KPOPが日本の若者の間で大流行し、KPOPアーティストが日本でライブやテレビ番組への出演など大活躍しているという記事に対してのコメントである。そのコメントとは「彼らは、日本にいるファンのことは考えていない。日本にお金稼ぎをしに来ているだけであり、彼らも日本のこと嫌いである」というものである。

私はこのコメントにファンとして怒りを覚えたが、他にも同じようなコメントがあり、この考えが少数ではないことを知り、より衝撃を受けた。(静岡 Iさん)

f. 政治的表明とその反発への葛藤 f. 정치적 표명과 그 반발에 대한 갈등

2018年の冬のことだった。忘れもしない原爆Tシャツの騒動だ。BTS初の日本ドームツアーを目前に控えた、11月のことだった。テレビをつければ、朝も昼も連日報道を目にしたことを覚えている。当時の私は、政治と文化をここまで結びつける必要はあるのか、と疑問に感じていた。しかし、それが日韓関係の現実だと気づくまでに時間はかからなかった。BTS初の東京ドーム公演当日、東京ドーム前でヘイトスピーチをする男性を見てしまったからだ。ネット上でも、BTSの東京ドーム公演中止を求める、というハッシュタグが連日トレンド入りしていた。

日本で韓国について批判する人を見かけるたびに、疑問は大きくなかった。本当に韓国や韓国人がすべて悪いのか。そもそも、日本人はしっかりと歴史教育を受けたのか。どちらの疑問にもはつきりした答えが出せなかつた私は、大学で学ぶことにした。

(静岡 Fさん)

h. ファンダムのSNS投稿と素直に楽しめない葛藤 h. 팬덤의 SNS 투고와 솔직하게 즐길 수 없는 갈등

幼い頃から韓国の文化が身近にあった私たちにとって、韓国文化を楽しむことは自然なことであり、常に新しいムーブメントを巻き起こす韓国に憧れをもっていたに違いない。

一方、韓国の文化を楽しむ中で、様々な日韓問題が存在していることに目を向けるを得なかった。あるK-POPアイドルが、日本の元号が令和に変わったことを言及したSNSの投稿には、多くの韓国人から批判のコメントが寄せられた。日本のテレビ番組に韓国人が出演したことに対する言葉を浴びせる人も、ネット上で目にする機会があった。また、私自身、韓国の文化が好きだということに対して、周りの人に嫌な顔をされたこともあった。好きなことを素直に楽しむことのできない状況に、葛藤を感じていた。(静岡 Hさん)

j. 以前は日本が韓国の手本だった葛藤 j. 이전에는 일본이 한국의 본보기었던 갈등

私は何かと日本は韓国に比べ劣っていると考えがちだった。正確に現実を捉えているかはさておき、私の中での日韓の「眺め」はこうなのである。しかし「昔前は日本が韓国の手本のような存在だった」と聞く。経済的にも、技術的にも日本が一歩進んでいたと。文化もそうだったらしい。この間年配のプロの方にメイクをしてもらった時、彼女はこんな風に言っていた。「今はなんでも韓国っぽくするね。昔は日本が真似されていたのに」。文化について優劣などないと思うが、エンタメを考えた時、どちらが世界を席巻しているかは明らかである。ここで奇妙なのが、私の中で、例えば日本とヨーロッパ諸国を比較した時と、韓国とでは生まれる感情が違うのである。どちらも羨望の意が強い。しかし韓国は同じアジア圏であり、かつては発展途上であったことから、一層酷く日本への落胆を感じる。(慶應 Jさん)

【第1部】

報告
2BTS のグローバルな魅力
—外的、環境条件と内的、力量の要因—

韓準 延世大学教授

[原文は韓国語、翻訳：尹在彦（立教大学）]

こんにちは。発表資料が見られるように、まず画面をシェアしてから発表させていただきます。本日の私のテーマは「BTS のグローバルな魅力」です。去年、韓国の東アジア研究院で「BTS のソフトパワー」の概念との関連性について国際関係と文化の側面から他の学者たちと研究したものを単行本として出版しました。それに基づいて発表したいと思います。まず「果たして BTS はどんなグループなのか」についてお話しします。グループの名前はよく聞くと思います。BTS に関する代表的な事実をいくつか紹介した上で、BTS がどのようにしてこんなに人気になったのかについて説明させていただきます。

1. BTS って誰？

—BTS がグローバルに成功したことの意味—

BTS は 2013 年、7 人で結成されたヒップホップグループです。韓国では直ぐに人気を集めましたが、海外へ進出したのは 2017 年度ビルボードチャートに初めて登場してからのことです。その後、アメリカのビルボードやイギリスのオフィシャルチャート、日本のオリコンチャートで 1 位を記録します。2020～21 年のコロナ下では毎年、アメリカのビルボードホット 100 の 1 位に 3 曲が登録されます。最近、最も多くの人が音楽を聴いているストリーミングサービス、iTunes や Spotify、アップルミュージックでもやはり 1 位に上がります。2020～21 年には新曲が一日で 1 億回も再生されるという世界記録も残しています。

音楽賞受賞から見ると、ビルボードミュージックアワード、アメリカンミュージックアワードで受賞し、2020 年には売上高で世界 1 位だったと、「国際レコード・ビデオ製作者連盟」の公式レポートが伝えていました。まさに名実ともにグローバルスターになり、韓国だけでなく、欧米でも多くの芸能人が好きな芸能人

として脚光を浴びています。私の画面の背景でも BTS メンバーの顔がご覧になれると思います。

さて、「BTS のグローバルな人気はどんな意味を持っているか」、「韓国にとつてどのようなところが重要か」について見てみると、韓流について渥美財團と未来人力研究院が共に開催したセミナーで「冬のソナタ」のようなドラマを中心にお話した時には「中華圏から始まった韓流が日本に広がる、アジアでの韓流だった」との話が出たと記憶しています。

実際に 2010 年代前半まで少数の韓国映画やドラマを除くと、大衆文化の韓流はアジア圏に限られていました。その後、大衆音楽の韓流が海外に広がり人気を集めめた時、「アイドルグループは大手芸能事務所（訳注：韓国では「企画社」という）」が中心になって過酷な訓練を通じて画一的に作り出されたのではないか」といった批判もありました。多くの方々が覚えていらっしゃると思いますが、2012 年、PSY の「カンナム・スタイル」がビルボードトップ 100 で 1 位にはならずとも 2 位にまで上がり、グローバルな成功を収めました。しかし、それは一回きりで終わりました。

これを BTS が受け継ぎ、2017 年から毎年グローバルなヒット曲、1 位の曲を作っています。これはある意味、持続可能なグローバル舞台での成功を意味していると思います。一言付け加えますとそれまでの韓流、K-POP のグローバルな成功は大手芸能事務所の画一化した、工場で作られたような音楽といった批判も受けました。しかし、BTS は多くの「ARMY（アーミー）」（訳注：BTS のファンダム）が主張するように「中小規模の芸能事務所出身の奮闘するアイドルのサクセスストーリー」で、「彼ら自身の声がより反映されている」点で意味があるのではと考えます。BTS の歌ですぐにビルボード入りを果たした初のアルバムの曲「Love Yourself」を見ると、そんな歌詞が出てきます。自分たちの物語もしくは無名芸能人の立場からやっと抜け出した頃、大手ではない中小規模の芸能事務所のアイドルとしての自らの気持ちをありのままに話していました。

2. BTSのグローバルな成功はなぜ可能だったのか

さて、これからは「BTS のグローバルな成功がどのようにして可能となったか」、二つに分けて説明させていただきます。まずは外的かつ環境的な要因です。二つ目は内的かつ力量的な要因です。

①外的かつ環境的な要因

外的かつ環境的な要因からお話ししますと、中心と周辺に分かれていたグローバル文化の序列の構造が弱体化もしくは解体している現象があります（スライド 1・p22）。画面の一番下のところを見ていただくと、2012 年、東大で韓流の大衆化に関する討論会があったのですが、私も交流のある園田茂人先生が「韓流音

中心-周辺グローバル文化の弱化又は解体

- ・欧米至上主義に基づいた保守主義及び土着的・自生的文化を強調する批判的な切り口で見ると、BTSの成功は不可能
- ・20世紀後半から始まった多文化主義やそれによるグローバル文化の中心-周辺関係の弱化は偏見を減らし、BTS成功の好条件を提供
- ・欧米/非欧米文化間の自由な交流、異文化に対する相手主義の立場を強調する自由主義観点は、BTSの歌詞と相応
- ・構造的な制約や社会的固定観念から離れ、本当の自分を探し求めよ、というのがBTSの自由主義的メッセージ
- ・2012年東大討論会において、韓流を米国中心の大衆文化に対するアジア的代案追求と見た園田茂人教授の発言

スライド1

文化的ヒエラルキーの弱化とオムニボアの登場

- ・19世紀後半、20世紀に登場した高級・大衆文化のヒエラルキーの区分は、文化資本伝承を通じて維持されたが、20世紀後半に入って弱化
- ・20世紀にかけてグローバルな文化交流でもヒエラルキー趣向の影響が明らかで文化的なプライドは高級文化を中心とする。
- ・欧州で初めて登場し、19世紀末米国を経て20世紀前半非欧米社会にまで拡散された文化的ヒエラルキーは、全般的に弱化した。
- ・文化的ヒエラルキーに代わって多様な文化や芸術を楽しむ文化的オムニボア（文化的雑食）趣向が優勢になり、ポップカルチャーファンの裾野を広げた。

スライド2

「樂がアメリカ中心の大衆文化に対するアジア的オルタナティブではないか」と発言された記事を読んだことがあります。

ところが、日本や韓国を見ると、私が20代の頃、実はアメリカのポップソングをもっと聴いていました。アジアや外国の曲がアメリカで人気になることは非常に稀でした。グローバルな人気はますます難しかったわけです。ところが、20世紀後半、1990年代から始まり、2000年代に強まった欧米の多文化主義が、ある面で外国の歌手に対する拒否感をだいぶ低減させたと思います。自由主義的な観点から見ると、欧米と非欧米の文化間の自由な交流や相対主義的な立場が文化を理解しようとする努力を支え、最後には受容性を高めたのではないかと見ています。

二つ目は各々の社会の文化で高級文化や大衆文化に対する偏見がなくなり、それに次いで「雑食（omnivore）」の嗜好が増えたということです（スライド2）。海外を見ると、BTSファンダムのARMYには単に青少年だけでなく、非常に教育水準の高いエリートの女性や一部の男性もいます。これらの方々にとっては、BTSが大衆音楽をやっているとはいえ、それが決して価値が低いわけでは

文化的価値としてのハイブリッドと真正性結合

- ・21世紀融合時代に多様なハイブリッドが登場。特に、脱植民主主義の産物として文化的ハイブリッドは、20世紀半ば以降文化的創造の原動力となる
- ・韓国でトロット（韓国演歌）と関連した＜倭色論争＞は、移植・自生の二分法を克服するハイブリッド論によって克服された
- ・BTSは、ヒップホップを中心としたダンス音楽をしているが、韓国的な要素が強い言語や内容の歌詞を含んでいるハイブリッドな形態
- ・強固な中心-周辺、高級-大衆のボーダーが弱まった状況において、BTSのハイブリッドを通じた革新が真正性という武器によってグローバルに共感を得た

スライド3

個人化したデジタル媒体がマスメディアを代替

- ・PSYとBTSのグローバル人気の急上昇は、YouTubeを通した動画の素早い拡散によるものが多い
- ・YouTubeは、文化芸術界において、大衆の選択によって専門家のゲートキーパー(gatekeeper)の役割を代替する急進的な変化をもたらした
- ・ビートルズの1964年エド・サリヴァンショーへの出演が米進出のきっかけとなった反面、非欧米圏のアーチストたちにとって、マスメディアの壁を乗り越えることは簡単ではない。
- ・YouTubeと共にBTSは、SNSを通じて従来のマスメディアを超えてファンと直接コミュニケーションを取ろうと試みた

スライド4

なく、むしろ大衆文化を通じて感動を受け、自分の人生に多くのインスピレーションをもらえるということがもう一つの重要な要因ではないかと思います。

三つめは「ハイブリット」の問題です（スライド3）。韓国でヒップホップをやるというのは、欧米人から見ればとてもおかしく映るかもしれません。韓国でもヒップホップをやるというのは何か韓国的ではないという偏見を持たれるかもしれません。ところが、そういうことはもはや大事ではなくなり、BTSのようなアジア出身のヒップホップ・アーティストたちは黒人のヒップホップとはまた違う新しい音楽として認知されています。

韓国でも日本の演歌と似たようなトロット（訳注：演歌と類似した音楽ジャンル）に関する論争がありました。私は「日本から移植されたのか、それとも自生的なのか」というような問題意識は間違っており「トロットはまさに植民地下で始まり韓国で自主的に発展してきた、日本と並行して発展してきた新しいハイブリッドの文化」と捉える観点が正しいと考えます。ということで、BTSのハイブリッドへの試みが自分たちの深くて固有な問題意識と結びつき、「真剣」とい

う印象と共に深い感動を与え得ると思います。

最後に、小針先生がおっしゃったように、SNS等のデジタルメディアがテレビのようなマスコミを代替しています（スライド4）。PSYの人気がYouTubeから拡散されたように、外国のARMYたちも BTSの曲をYouTubeから先に見ているそうです。YouTubeは文化的に、いわゆる「ゲートキーパー」、つまり専門家や批評家のコントロールを弱め、実力のある歌手なら誰でも自分を検証してもらえる機会を提供することで有名です。まさに1960～70年代のビートルズが、イギリスと似たような文化的な背景のアメリカで「エド・サリバン・ショー」に出てからようやく人気を集めたこととは異なる新しい機会です。

②内的かつ力量的な要因

それでは、BTSの内的かつ力量的な要因についてお話しします、先ほどお話しした外的かつ環境的な要因は実は BTSにだけ当てはまるというより、韓国において K-POPで成功を収めようとするアイドルやバンドにも該当する問題です。BTSの持つ固有の強みは何かというと、やはり芸術的な能力です（スライド5）。

音楽スタイルとパフォーマンス能力の卓越性

- 欧米ではボーイズグループの系譜を継ぐ者が少なくなり、親近感のあるヒップホップリズムに洗練されたメロディやキレのあるダンスを結合させて魅力をアピール
- EDM、ヒップホップ、ブラックミュージックなど、最近のトレンドを取り入れた K-popスタイルを保ちながら、メンバー各自がラップやダンスで卓越したパフォーマンスを披露
- 従来のK-popグループとの差別化では、K-popの典型的な特徴から脱却し、グローバルトレンドにより集中してユニバーサルを目指した
- 世界中の若者がYoutubeを通じてカバーダンスを踊るほど魅力的な群舞を披露

スライド5

真正性とアイデンティティの結合を通じた共感の拡大

- 音楽やダンススタイルがグローバルトレンドに合っているから好きになる背景となるなら、歌詞の内容は共感を極大化させる要因だ
- BTSヒップホップ音楽の歌詞が持つ魅力的な特徴は、次の通りだ
 - (1) 成長と成功に対する自伝的叙事の構築
 - (2) 共感、慰労、応援を通して優しい連帯意識の共有
 - (3) 向上心を刺激するメッセージの発信
- 成長と人気の段階によって悩みや省察、苦しみや誓いなどを歌詞に込めて真正性を示し、韓国人としてのアイデンティティも示す
- 肯定と希望、努力と改善のメッセージでグローバルに共感を得る

スライド6

グローバルファンダムとしてのアーミーの強力なサポート

- ・2017年米国マスコミのBTSに対する関心の主な理由は、Twitterで最も多く言及されたミュージシャンだったから
- ・韓国においてアイドルのファンダムは、2000年代初頭少女ファン中心の過熱した様相から進化し、多様な年齢層に分化・組織化された
- ・BTSのファンダムであるアーミーは、年齢層の多様化と共にグローバルに分布しており、韓国以外では米国が同規模である。
- ・新曲リリース、公演、BTS関連の論争などに即反応し、事務所に対しても自分たちの立場を主張するなど、強い影響力を発揮
- ・BTSは、様々なデジタル媒体を通じてアーミーと持続的に接触を維持

スライド7

音楽スタイルの面から見ると、先ほどお話ししたハイブリッドとしてのBTSはEDM（エレクトロニック・ダンス・ミュージック）、ヒップホップ、黒人音楽など、最近のトレンドを総合的に捉え、自分たちだけのメッセージ及び悩みと、同じ若者としての仲間に伝えたい真剣な内容と結びつき、斬新さを示しています。彼らの多くはもともと立派なダンサーであり、大手芸能事務所で過酷な訓練から作り出された人為的なアイドルではなく、自らが楽しんで啓発したクリエイティブなコンテンツを持っていました。

二つ目は音楽、メロディー、ダンスだけでなく、彼らが伝えようとしている歌詞の内容です（スライド6）。彼らの真剣さと関わるところです。BTSの歌詞を分析した同僚の学者の話を紹介しますと、「青春だから」、「若者だから」と、成長と成功に関する自らの経験をナラティブとして表現しています。また、先ほどの小針先生のお話にもあったように、共感と慰め、応援を通じて連帯はするが、それを強くするのではなく、柔らかくする連帯意識、そして向上心、より良い人になりたいという希望のメッセージが人類の多くの若者に対し共感を呼び起こしているのではないかと思います。特に、国連の場で自分たちの話を堂々と述べられるほど、彼らの考えは相當に深みのあるものであるという話もよく聞きます。

三つめが、グローバルなファンダム（fandom）としてのARMYの強力なサポートです（スライド7）。韓国でのアイドルのファンダムはかなり歴史のある現象です。2000年代前半、韓流が始まったばかりの頃には、韓国のアイドルグループに対するファンダムによるかなりの人気と関心がありましたが、その副作用も少なくありませんでした。なぜかというと、勉強すべき女子学生たちがアイドルにはまって親を悩ませていたのです。今のファンダムは、ARMYはもちろん、幅広い年齢層で構成されています。ARMYは国際的に分布しており、ある意味、事務所とアイドルグループの関係だけでなく、事務所とファンダム、アイドルグループが緊張関係を持ちながら、互いを良い方向へ導き合うように牽制する役割も果たしています。

3. BTS以降のK-popと韓流の現状・見通し

もう5分しか残っていませんが、このような「BTS現象」について、また最新の韓流について私の個人的な経験をいくつか、特に韓日関係を中心にお話して終わりにしたいと思います。小針先生もおっしゃったように、韓日関係が2010年代半ばから非常に厳しくなっています。

個人的な話を二つすると、私は今料理教室に通っていますが、先生は結婚で韓国に来られた日本の方です。ところが、韓日関係が悪化すると熱心な受講生の中で「やめる」と言い出す人たちが出てきました。私はそれを見て非常に悲しいと思いました。国家間の関係が外交的な側面もしくは政治的な理由から悪くなることはあり得るけれども、急にそれで親しかった人と距離を置くというのは最も不幸なことで、胸が痛む、多くの人々を傷つけることではないかと思います。

韓国では近年、政治的に立場の違う人との人間関係が悪くなることもあるのですが、そういう経験をしてから、我々がよりお互いを寛容に見つめ合い毅然として、政治外交の問題とはまた違う民間レベルの交流をすることがとても重要だと感じています。

私は今年、韓国社会学会の会長を務めています。3年前には副会長だったのですが、当時韓日関係が悪くなり、日本社会学会と共に当時の会長と東京で韓国と日本の文化的交流を通じて今の厳しい状況を改善すべきだという共同宣言を出した経験があります。そのような観点から見ると、これからもより多くの努力を通じて、我々は韓日関係の悪化を克服しなければならないと考えます。小針先生のお話にあったように、時にはBTSの発する一言一言が刺激にもなり得る一方で、基本的なメッセージはグローバルで、人間のレベルにおいて人権的であり、価値を共有しようというメッセージですから、私は望ましいと捉えています。

最後に韓国の立場からBTSが人気であること、そして多くのアイドルグループがグローバル市場を狙っていることについて懸念の声も存在します（スライド8）。その一つが最初から英語で曲を作り海外で活動するうちに、結局はアイドルたちが外国のスターになってしまうというジレンマです。ですから、彼らの

BTS以降のK-popと韓流の現状・見通し

- BTS以降、グローバルK-popスターへと飛躍したいアイドルグループが急増
- 同時期に『寄生虫』、『ミナリ』などの韓国映画や『イカゲーム』などの韓流ドラマもグローバルに人気を得て映画祭で受賞
- K-pop制作システムにおいて変化がなければ、BTSに続くようなグローバルスターは誕生しにくい可能性あり
- グローバルスターになろうとするアイドルに対して、韓国のファンダムは「来韓公演に来る」アイドルとして拒絶反応を示すこともある
- 東アジアの先鋭化した国家間感情的対立の中で困難な状況も発生

スライド8

ファンダムの間では冗談で「訪韓コンサートのアイドル」との表現も出てきています。

私は BTS を通じて日本でも韓国への興味や愛情がたくさん生まれることを望んでいるわけですが、また私自身、日本映画やドラマがとても好きで、韓国の若者は日本文化や日本との交流に対しオープンマインドでいると思います。韓日間の航空便がこれから増えるとも聞いています。私の周りでも早く日本へ行きたいという方がたくさんいます。私は本日のようなイベントがこれからも引き続き開催され、より多くの理解と交流が続けられることを期待しています。ご清聴、ありがとうございました

【第2部】

ミニ報告



ベトナムにおける Kポップ・Jポップ

チュ・スワン・ザオ ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員

こんにちは、ベトナムのチュ・スワン・ザオです。私はベトナム社会科学院文化研究所で上席研究員として勤めています。元渥美財団の奨学生です。

本日の報告は、以下の3点に絞ってお話ししようと思います。

- ベトナムにおけるKポップ・Jポップ
- ベトナムからのKポップ・Jポップ
- 文化研究的視点からの若干の考察

1. ベトナムにおけるKポップ・Jポップ

ベトナムという国は、1990年代からドイモイ政策を実行しています。以前は戦争ばかりでしたが、統一後は社会主義共和国となって、ドイモイ政策を実行しました。つまり解放されて、市場経済の国となり、とくに国際交流も盛んになっています。まずは、ベトナムから見た東アジアの主な国のイメージを述べたいと思います（スライド1）。

まず、中国ですが、中国製品は安いので歓迎されています。中国映画も大好きです。最初のころは中国映画ばかり観ていました。その後、中国語教育も盛んになりました。けれども、中国音楽と中国のPOPは全然ありません。そういう文化はないですね。

日本はというと、日本の製品はベトナム人からみると丈夫な製品なので大好きです。映画はベトナム人からすると少しあまりづらい点が多いので、あまり好きではないですね。漫画のほうが人気です。日本の企業が進出したことで、日本語教育も盛んになりました。現在は日本の音楽のJ-POPも盛んになっています。

韓国の場合は、ベトナムで一番人気になった韓国製品は化粧品です。とくに女性用化粧品が大人気でした。その後、韓国映画がもっと人気になりました。それをきっかけに韓国語教育も盛んになって、現在は音楽K-POPが、若者の間でとても人気があります。

自分の国ベトナムは、まず米輸出国であるということ。また全世界に労働者を

ベトナムにおけるKポップ・Jポップ - 1

- 1990年代：ベトナムのドイモイ政策（解放・市場経済・国際交流）
- 中国： 製品・映画・中国語教育
- 日本： 製品・映画・漫画・日本語教育・音楽・J-POP
- 韓国： 化粧品・映画・韓国語教育・音楽・K-POP
- ベトナム：米・出稼ぎの労働者・ベトナム語教育（V-POP）

スライド 1

ベトナムにおけるKポップ・Jポップ - 4

- ファン：若者(小学校・中学・高校生・大学生)
- ベトナムの若者にはK-POPの方がより人気。理由：格好いい、楽しい、わかりやすい。
- Vポップ：K-POP、J-POPの影響を受けながら、国内のアイドルグループが増え「V-POP」が徐々に人気になっています。

スライド 2

出している国もあります。世界でもベトナム語教育が盛んになって、国内ではベトナムのポップ V-POP というものも出ています。

ベトナムで知名度が高い J-POP は、AKB48、BiSH、乃木坂 46、EXILE、ももいろクローバー Z、back number、とかですね。若者たちはこういったミュージシャンたちの、MV（ミュージックビデオ）をよく見てています。

K-POP の場合もいろいろありますが、なかでも人気が高いのは BLACKPINK、TWICE、ITZY、BTS などです。私の子どもたちも彼らのMVをよく見てています。

J-POP も K-POP もともに、ベトナムのファンは若者が中心です。小学生から中学生、高校生、大学生です。J-POP と K-POP を比べると、ベトナムの若者にとっては、K-POP のほうがより人気です。その理由は「格好いい」「楽しい」「わかりやすい」の3点です（スライド2）。

2. ベトナムからのKポップ・Jポップ

ベトナムはJ-POPとK-POPの影響を受けながら、最近は国内のアイドルが増えて、ベトナム独特のV-POPも徐々に人気になっています。代表的なベトナムの男性アイドルはSon Tung-MTPさんですね。今大人気です。女性の代表的なアイドルはHoang Thuy Linhさんという歌手です。私自身もこの方が好きです。彼女は民間的なもの、ベトナム独特的の文化を使っている方です。

最近はK-POP、J-POPのグループに参加したり、共演したりしているベトナムアイドルも多くなっています。例えばNgoc Hungさん。彼には「Hanbin」という韓国名もあります。2022年3月に韓国のTEMPESTというグループに参加して、「Bad News」というMVにも登場しています。若い世代にとても評価されています。J-POPでいえば、2017年から日本のBUZZ-ERというバンドに参加しているHauさんという男性もいます。

ベトナムからの発信も受け入れられ、先ほど紹介した女性アイドルのHoang Thuy LinhさんのMVは、日本でも韓国でも人気を集めています。韓国の若者も、日本の若者もHoang Thuy LinhさんのMVのダンスを真似した動画をネットにアップしたりしています。

3. 文化研究的視点からの若干の考察

最後に文化研究者としての立場から、考察を述べたいと思います（スライド3）。

まず、文化産業について話します。全体像としては、コンテンツ産業は、まず日本と韓国が先発しています。その後中国が追い付いて、一番遅れたのがベトナムです。

文化研究的視点からの若干の考察

- 文化産業：
- コンテンツ産業：韓国と日本（先発）----中国----ベトナム（一番遅れる）
- K-POP & J-POP：韓国（大衆化・国際化の重視）---日本（日本らしさの重視）
- 先鋭的民間企業：今なおベトナムの政界は「文化産業」のことをまだ考え中、政策を出していないまま。しかし、民間企業は大胆に先に「文化産業」を試している。

文化資源としてのV-POPの可能性を政界はまだ疑問視している。

スライド3

ベトナムの目から見ると、韓国のはうは大衆化・国際化を重視し、日本のほうは日本らしさを重んじているように思います。これはベトナム人の私のイメージです。

次にベトナム民間企業のことについて話します。今、ベトナムの政界は「文化産業」ということについては、討論中です。はっきりとした政策はまだ出していません。しかし、これまでお話ししてきたように、若者たち、特に若者たちを支える民間企業は、先行して果敢に文化産業に力を入れています。政界にしてみると、文化資源としてのV-POPの可能性をまだ疑問視していますが、民間企業は大胆に文化産業をやっています。

時間となりましたので、終わります。ご清聴ありがとうございました。

【第2部】

講演者と討論者の自由討論

司会：金 雄熙（仁荷大学教授）

講演者：小針 進（静岡県立大学教授）

韓 準（延世大学教授）

チュ・スワン・ザオ（ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員）

討論者：金 賢旭（国民大学教授）

平田由紀江（日本女子大学教授）

（発言は母国語）



■ 金 雄熙 ザオ先生、ご発表ありがとうございました。ベトナムでのK-POPやJ-POP、そしてV-POPの現状についてとても分かりやすい写真をもとに、素晴らしい分析をしてくださいました。最後にV-POPの可能性と文化交流の観点からK-POP、J-POPを比較してくださいました。

引き続き、韓国の金賢旭先生と日本の平田由紀江先生からコメント及びご質問をいただきます。まず、金先生からお願いします。

■ 金 賢旭 こんにちは。国民大学日本学科の金賢旭です。私は日本の伝統芸術文化の中で「能」を専攻としている者です。今日のフォーラムに最もふさわしくない人かもしれません。ですから、金雄熙先生からご依頼いただいた一月前から、昔のことをやっている人が大衆文化について何を言えばいいかで悩み、この1か月間夜も眠れませんでした。今西さんと金雄熙先生が責任を取るしかないと思います。



今日のテーマにはあまり詳しくないため私からの質問は、勉強している分野から着眼点を見つけ、「BTSのグローバルな魅力」というところに一つでも補える要素、もしくは連関性を見出そうとして、少し勉強をしました。勉強というよりも、私の分野から見つけようとした。韓先生の発表の「BTSのグローバルな魅力」に関連する話になると思います。特に韓先生のお話の中で「内的要素と

しての共感、慰め」、「応援を通じた連帯意識の共有」といった点について一番耳を傾けて聞いていました。大衆芸術であれ、伝統芸術であれ、「文化的にはどんな価値を持っているか」、または「文化の中で注目される地位を獲得できるか否か」が重要であり、BTS の魅力または人気の背景を、私の専攻、能を通じて着眼点を見出す形でアプローチしてみました。ここから BTS 人気の背景という点で連関性、共通点を見つけられるのではないかと考えたわけです。

能の場合、例えば、1920 年代生まれで 1940 ~ 70 年代に活躍した観世寿夫という「観世流」勃興の重要な役割を担った方がいます。能にはもちろん、日本の芸術界に非常に大きな影響を与えた方です。武士政権の江戸時代の後、やや人気が落ちていた能の世界に再びブームを起こしたと言える方です。一人の活躍によりそのような時代を迎えたと言っても過言ではない芸術家です。観世寿夫という芸術家が「訴えかけ」という語をインタビューで使いながら能の特徴について語った記事があります。この部分が今の BTS 人気の背景にも当てはまるかと思います。

観世寿夫は 1967 年のインタビューで、世界のお芝居の中で能が持つ特徴は「訴えかけ」だと言い、それが独自の特徴だと話しています。観世の言う訴えかけは、ドラマであれ、音楽やダンスであれ、どんな分野でも踊って、歌って、演技する主人公と、観客の自分が一体になったような状況を指します。同化した気持ちでその世界に自分が組み入れられていくように感じながら、その魅力と面白みを感じるということです。

13 ~ 14 世紀に発生した芸術の能は仮面劇で、強い生命力からこれまで継承されている最も古いお芝居と言えます。「訴えかけ」といった点から考えると、この武士たちが持っていた「人生のはかなさ」を役者はもちろん、一般の観客も共感できた点は重要です。役者の訴えかけとそれによる共感が、能を非常に長い間日本に生き残らせた要因だと思います。現代においても災害や災難が起こると、能のグループが進んで、日本人の鎮魂や慰めのため、公演を開き積極的な活動を行います。これもまた能の役者たちが自分たちだけの世界に閉じこもっていないことを示しています。

韓先生の本を買って熱心に読んだのですが、この本にもお話をあったように、自分たちだけの世界に閉じこもっておらず、常に社会とコミュニケーションを取っていることを BTS の魅力の一つとして挙げてくださっています。能の人たちもまさに自分たちだけの世界に閉じこもって公演を行うわけではなく、社会の困難の中で、「あなたとコミュニケーションを取っていること」を示しています。時代的な距離感が感じられるかもしれません、こういった点からも能のパフォーマンスが持つ魅力を訴えかけという言葉で表現できるのではないか、大衆の感化という点で能と BTS を比べてみました。

そしてもう一つは、能の芸術家たちが素人の教え子を率いており、今は若い教え子さんが減ってはいるものの、その教え子さんにより経済的に助けられ、同時にその教え子さんたちが「忠誠度の高いファン」でもあります。これが能の芸術家たちを支える原動力です。公演会場に駆け付け常に応援しています。このようなファンを、BTS の ARMY と直接的に比較することは適切でないと現代文化

の先生方はおっしゃるかもしれません。ところが、私の立場からすると、そういうたった共通点があるのではないか、それがまさに長い人気の秘訣、生き残る秘訣、これと関連付けて考えられるのではないでしょか。

最後に、非専門家からの感想に近い発言になりそうですが、世代を包括するパフォーマンスという点は多くの評論家も指摘していると思います。ですから、今回のロサンゼルスコンサートを調べてみたところ、BTSのコンサートへおばあさん、娘さん、お孫さんが飛行機チケットを買って、旅行がてら来られました。例えば、ジャスティン・ビーバーのような人気のアーティストはむしろ若い人々に人気で、私たちがよく知っているレディー・ガガは大人と言いますか、そのやや上の世代、というようにファンの世代が分かれているのに対し、BTSは3世代が楽しめる芸能だということです。PSYのコンサートでもPSYが「10代、手挙げて、20、30代、手挙げて」と叫んで、皆熱狂します。この場面からも見られるように、BTSもまた世代を包括する魅力、全世代が共感し同時に参加させられる魅力を持っていると言えます。非専門家の立場からの感想です。

私は能の世界での訴えかけと感想を交えてお話をしました。質問というより知識不足でここまで自分の考えを述べさせていただきました。

金 雄熙 はい、ありがとうございました。主に BTS に関する韓先生の発表に対する感想、コメントでした。韓先生のご答弁をお待ちします。後ほどその他に、もう一度発言の機会を作りますので、小針先生の発表に対してご質問ありましたらまたお願いします。次は、平田由紀江先生、コメントお願いします。

平田 こんにちは。平田由紀江と申します。主に日韓のポピュラー文化、最近はもっぱらドラマについて研究しております。小針先生、韓準先生のご講演、そしてこうした一連の韓流現象を別の角度から概観なさったザオ先生のミニ報告、すべて大変興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。各先生のご発表について、コメントという形で応答させていただきたいと思います。



まず、小針先生のご発表は、日本から K-POP 現象を通じて文化と政治の関係を考察するといった大変興味深い内容でした。タイトルの「モヤモヤ」というところから、少しコメントを述べさせていただきたいと思います。

先生が発表の中で取り上げていらっしゃった加藤圭木ゼミナール編の『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』については、私も興味深く読ませていただいて、学生にも薦めたりしています。かつて私が大学生だった1990年代に、すでにこのモヤモヤというのは私自身、体験済みで、おそらく2000年代初めのペ・ヨンジュンのファンなども含めて、ずっとこのモヤモヤ問題というのはあるのです。そして、韓国のポピュラー文化にはまるドキドキというのと、歴史問題や周囲の発言などからくるモヤモヤとの間のどこかで、日本のファンのアイデンティティが形成される側面もあるのではないかと考えます。

ただし、このドキドキ部分については、ジェンダー化され、あまり重要視されない風潮があったわけですが、実は最近ますます、最も重要な部分として浮上しているのではと思っています。そしてこのドキドキとモヤモヤの間にいる人たち

というのが増加し、その層が多様化するとともに、低年齢化してきたというのが現在の状況なのではないかと、小針先生のご発表を伺いつつ、感じたところです。

もちろん一方で、こうしたモヤモヤとはあまり関係のないところにいる、別のところに関心をもったファンも確実に存在感を増しているということも、もちろん言えると思います。

ここで一つお伺いしたいのは、先生がまとめの中で示されていた、「政治・外交と文化、このままでよいか」という部分と、「文化消費は文化理解につながるか」という問い合わせについてです。先生なりのご意見をお聞かせいただけたらと思います。

続いて韓準先生のご発表は、K-POPアイドルグループであるBTSのグローバルな成功要因について、内と外から分析なさった非常に重要なものだと思います。その中でもとくに神聖性とアイデンティティの結合を通じた共感の拡大について、私なりのコメントをさせていただきたいと思います。

これと大きく関連してくるのは、やはり韓先生も指摘していらっしゃる「個人化したデジタル媒体がマスメディアを代替している」という部分ですが、一方で「花様年華（かようねんか）」や「LOVE YOURSELF」など、BTSの物語性のようなものが大きくかかわって、共感拡大へつながっていると思います。そしてそれにはデジタル媒体の役割が欠かせません。Twitterなどのファンの発信やつながりの重要性は言うまでもないことですが、日本から眺めてみると、これはBTSだけではなくて、K-POPアイドルの多くに言えると思いますが、韓国発のWebtoon（ウェブトゥーン／デジタルコミック）やWebドラマ的なものも、その独自の物語を拡散させるツールとなっているのだと考えます。

BTSの場合、Webtoonでは「花様年華」〈SAVE ME〉などの作品が公開されています。ミュージックビデオなどと共に、これは明らかにグローバルに流通しやすい特性を持っているコンテンツだといえるわけですね。デジタル媒体を通じて物語を見せることによって、物語があちこちに点在するということが起きていて、それらをファンが渡り歩いていくという構図になっています。

ここで韓準先生に一点、お伺いしたいのですが、このマスメディアから個人化したデジタル媒体へという変化プロセスの韓国的な特徴とK-POPとのつながりについて、少し詳しく教えていただけたらと思います。

最後に、ザオ先生のご発表ですが、K-POPとベトナムに関するいえば、ご発表にあったハンビンがメンバーとなっているTEMPESTは、中国を拠点として韓国に支社を置くウイエファ・エンターテインメントに所属しており、また数年前ですけれども、韓国のRBWなどのプロデュースによる、メンバーが全員ベトナム人でベトナムを拠点としたD1Verseというボーイズグループのデビューなどもありました。K-POPという言葉自体、2018年あたりからトランスナショナルな展開によって、Kという文字の意味の変容というのが指摘されてきたわけですが、それを示す事例が、ザオ先生のご発表だったのではないかと思います。

Kがもたらす副作用なども含めて、グローバルな観点から引き続き分析していく必要をあらためて感じました。

私からは以上になります。ありがとうございました。

■ 金 雄熙 はい、ありがとうございました。私が聞き逃したところがあって、韓先生へのご質問を平田先生、もう一度、手短にまとめていただけますでしょうか。韓国メディアと韓国的特点に関してのお話だったと思いますが、K-POPと関連してその点についてもう一度、ご質問お願ひします。

■ 平田 マスメディアから、個人化したデジタル媒体へという変化のプロセスがあったのだと思うのですが、韓国のメディア状況において、その変化プロセスのなかでの韓国的な特徴のようなものということと、そことK-POPの広がりの関係について、少し詳しく教えていただけたらという質問でした。

■ 金 雄熙 はい、承知しました。ありがとうございます。それから金賢旭先生、追加のご質問、コメントありますか。

■ 金 賢旭 基礎的な質問だったので、小針先生に対しては失礼かなと。たとえば、ARMYというファンクラブに対して、日本の普通の人たち、韓国にあまり興味のない方々の反応はどうなのかなということについて、個人的にずっと知りたいと思っていました。小針先生がお調べになった内容ですとか、そこから受けた感じなど、何かご存知のことがあれば教えていただけたらと思います。

■ 小針 すみません、ご質問の前半がちょっと聞こえにくかったのですが、ファンクラブというのは韓国にあるファンクラブですか、それとも日本の？

■ 金 賢旭 日本人のファンクラブです。日本人のARMYに対して、ほかの日本の方々はどう思っていらっしゃるのかという質問です。

■ 小針 はい、わかりました。

■ 金 雄熙 追加のご質問、ありがとうございました。それでは、いくつかいただいたご質問に対して韓先生、まずコメントと質問に対してご答弁をお願いします。

■ 韓 準 金賢旭先生、そして平田先生、大変ありがとうございました。金賢旭先生がおっしゃったように、多くの大衆へ共感を呼び起こす芸術は、人の心を動かすことが重要だと思います。芸術の内容が人の心を動かすには、その人と共有している内容がまず前提にならなければいけないと思います。そういう点から、良い事例、新しい事例を教えてくださってありがとうございました。

平田先生がおっしゃったことを考えてみると、2000年代前半、韓国のアイドルたちには、当時パソコン通信という極めて初歩的なITコミュニケーションはあったのですが、マスコミュニケーションを代替するレベルには至りませんでした。ところが、韓国の今のK-POPアイドルが試みていることで、BTSからよく見られることがあります。ツイッター等でARMYに向けてメッセージを発信しユーチューブで自分たちのミュージックビデオをアップするだけでなく、「Vラ

イブ」と言ってネイバー（NAVER）のようなインターネットプラットフォームと共に自分たちの日常生活をファンと密着して常に見せ続ける努力です。

もっと大きな文脈から見ると、ARMYは韓国にもいますがその次にアメリカに沢山います。日本もその次に多いと分かっています。彼らとコミュニケーションを取るのは実はそれほど簡単ではないようです。自分たちの歌がいつ世に出るか、そして自分たちが今どんなことを考えており、日常生活がどうなっているかということを、間断なく見せることがK-POPアイドルの日常になっているのではないかと思います。

平田先生も社会学を少し勉強されたと思いますが、社会学にはアーヴィング・ゴッフマンという学者がいます。1950～60年代に活動した人物で、ゴッフマンが言っているのは、私の方から見せる姿ではなく、他人が見る私をどのようにマネージするかを「印象管理」、つまり「インプレッション・マネジメント」と言いますが、私は今のK-POPアイドルたちにとってはこれが非常に重要なことになっていると見ています。ですから、一つのミスが大きな危機をもたらすこともありますし、時には感動を与える一言や表情、言動が大きな反響を呼び起ることもあります。

ドラマや映画、K-POP、特にBTSの場合に共通しているKカルチャーの特徴の一つが、「シンパ（新派、訳注：お涙頂戴のように家庭内の悲劇を内容とする近代朝鮮の芸術ジャンルの一つ。歌舞伎からの借用と言われる）」と言えます。日本語の訳語はなかなか見つけられませんでしたが、英語では「メランコリー」に近くともまた違う意味です。感情を刺激しつつも、同時に個人的で、本当に「訴えかけ」のあるジャンルを韓国ではシンパと言います。

「イカゲーム」というドラマや「パラサイト」という映画、またはBTSの多くの歌を見ると、私はシンパの要素を感じます。なぜならば、非常に残酷な内容のイカゲームでも人々は生き残って安心せずむしろ涙を流します。同僚が消えたからです。パラサイトでも敵対的に見える大家さんと賃借人の間で極めて微妙な情感が飛び交っています。BTSの歌では、自分のことを話しているようでも、それを通じて相手に話しかけようとしており、痛かったり、しんどかったりしても、希望的なことを目指します。それが実は欧米では「クールではない」と映るかもしれません。

ところが、世界の若者たちは今「クールではいられない」、非常に大変な人生を送っているのではないか、その大変さをそのまま語ることをリアルタイムで、極めて個人化したSNSなどメディアから直接的かつ共に感じようという物語に共感しているのではないか、これが私の個人的な感想です。ありがとうございました。

■ 金 雄熙 ありがとうございます。それでは小針先生にお願いします。

■ 小針 私から発言してよろしいですか。金先生、平田先生、ご質問ありがとうございました。

まず最初に平田先生の質問からお答えします。平田先生からモヤモヤのほかにドキドキという言葉が出てきて、ちょっとドキドキしました。これはちょっと使

わせていただきたいなと思ったのですが、そのなかで、これまでずっとモヤモヤがあったのではないかというお話をありましたよね。

確かに自分自身、韓国のこと調べ始めてから、このモヤモヤ感というのはずっとあったんですね。ただ、おそらく多くの人にとって、韓国の政治と文化に接するようになった期間は非常に限られていたり、それほど深く考えてなかった時期が長かったから、あまり一般化された言葉ではなかったかもしれません。

先ほど、司会の金先生から、韓国でもモヤモヤがあったんだという話が出ましたけれども、ちょうど私、90年代に韓国にいたのですが、そのときの韓国のかなり多くの人たちが持っていた日本文化、例えば安室奈美恵だとX-Japanなどに対しての熱狂的な関心事というのは、実は今の韓国が日本に対する大衆文化よりも強かった感じがするんですよ。その人たちからしてみると、昔の植民地時代だとか、いろんな意味での日本との絡みのなかで、モヤモヤがあったと思うんですね。ですからおっしゃるとおり、モヤモヤというのは今に始まったことではないのかもしれません。

最初のご質問の「政治と外交の関係、このままでいいのか」ということでいうと、もちろんこのままでいいわけがない。では、何が足りないのかなというときに、文化は文化として純粋に楽しんでいいんだというような、共通の概念といつたらいいのかな、そういうものが日本も韓国も少し足りないような感じがするんですね。何か事が起きると、その文化を楽しむことに対しての違和感だとか、異議申し立てだとか、それからあとひとつは政治家の発言などで、先ほど「親日フレーム」という言葉を使いましたけれども、そういうものが韓国でかなり簡単に出てくる。日本においても嫌韓に便乗するような発言などを感じたりします。そういうものを無くすようなことを考えなければいけないということですね。

それからもうひとつ考えなければならないのは、商業ベースのものというのは、そのまま放置しておけばいいと思うんです。ただ一方で、商業ベースにならない重要な交流というのがいくつかあると思うんですよね。敢えてやる青少年間の交流などですね。今心配なのは、コロナ下でいったんこの交流がなくなってしまったことです。前はもしかしたら惰性でやっていたかもしれません、1年か2年に一回の交流自体がなくなってしまう可能性がありますよね。そういうものはもう少し支援したりだと、意識的にやったりといいますか。

今まで問題がおきると、文化交流や青少年交流といったものが、つぶれることがありましたよね。そういうときに、たとえば、韓国の自治体が日本の自治体と交流しているときに、何か問題が起こった際、韓国なら韓国の大統領府が、「こんなのは政治・外交と文化関係は関係ないから、文化交流はやりなさい」と、ひとことでも言ってくれるだけで、影響が違うと思うんですよね。

そういう意味でいうと、政治・外交と文化は違うんだけども、政治を悪化させないための管理というものを、もう少し政治がやることで変わってくるのではないかと思います。

もうひとつのご質問、「消費が文化理解につながるか」ということなのですが、これに関しては、先ほどお話しした90年代における韓国における日本文化消費は、なかなか理解につながらなかったと私は見ているし、ヨン様ブームのころの

文化消費がイコール韓国の理解につながったかというと、そうではなかったと思っています。

そこでジェンダーの問題とか、そういうものでとらえると、たとえば日本においても、「韓国って、日本で感じられているような問題が共通課題なんだな」ということがわかった人が多かったと思うんですね。たとえば、私のいる大学であれば、「あんた女なんだから、東京の大学に行かないで地元の大学に行きなさい」と言わされたという学生がいたとしますよね。それって、『82年生まれ、キム・ジョン』の中でも同じような場面が出てくるわけですよ。

何を言いたいかというと、日本と韓国の国力がかつては垂直的な関係だったのですけれども、だんだん水平的な関係になってきた。その水平というのは、経済面でもあるし、国際社会における影響力もあるし、何よりも先ほど BTS からの発信についての話のところで「人間の安全保障」という言葉を使いましたが、ジェンダーなども含めて、かなり共通課題がある。課題先進国の部分でかなり重なっている部分があるので、そうするとお互い何か、全然かけ離れた国ではない。発達しきった国でもないし、遅れた国でもないという意味で言うと意外と理解できる、理解しようとする側面が出てくると思います。

先ほどの金先生の BTS のファンダムについての質問ともつながるのですが、これは少し言葉の表現に気をつけなければいけませんが、BTS のファンの人たちって、オピニオンリーダーみたいな人が堂々と「沼にはまりました」などと言っていたりするんですね。これはあまり、ヨン様のときには見られなかつたことだと思います。きちんと調査したわけではないのではっきりとはわかりませんが、そういう層の方のなかから、何かもう少し踏み込んで勉強してみたいという人たちが出てくるかもしれません。

ただ、韓国から日本を見た場合、今の韓国には日本の大衆文化ブームが起きているわけではないので、何かのきっかけで日本に対する大衆文化に関心を持ってもらって、もっと日本を理解しようというような空気が生まれるかというと、それには時間がかかるのかなという感じがいたしました。

ということで先ほどの平田先生のご質問に対しては、ひとまず答えとします。

次に金先生のお話なのですが、日本国内における一般の人と BTS ファンの動きですね。これに関する限り、もちろん細々としたことはいろいろありますけれども、それは先ほどお話しした原爆 T シャツのような、微妙な問題に対して触れた T シャツを着たことに対する反発はすごくあって、私も非常に不適切な行動をするなと思いました。ただ、ほかのいくつかの側面はそんなに反発もないようなイメージがあるんですね。目立って何かすごく反発になったり、それが何か大きな運動になったりとか、目に見えるような形でいうと、原爆以外はないように思います。今はこれぐらいの答えにさせてください。

■ 金 雄熙 小針先生、ご答弁ありがとうございます。最後に時間が少しオーバーしましたが、ザオ先生のコメントがあったので、簡単に一言お願いしてから、第 2 セッションを終わりにしたいと思います。

■ チュ・スワン・ザオ 先ほど平田先生からいろいろコメントをいただきました。ありがとうございます

した。Hanbin さんのことについては、実は僕はあまりわかっていません。今回は突然、発表の機会をいただきましたので、不勉強の点が多いです。先ほど先生がおっしゃったように、今後いろいろ新しい情報を集めて、これからもっと Hanbin さんをはじめ、ベトナムのアイドルのことを勉強したいと思います。

どうもありがとうございました。

〔金 雄熙〕 はい、ありがとうございます。ということで、第2セッションはここまでにさせていただきます。ご講演の先生方、ご討論の先生方、感謝申し上げます。続いて、第3セッションの質疑応答に移りたいと思います。第3セッションの質疑応答はお二人の先生方に進めていただきます。釜慶大学日語日文学部の金崇培先生、釜山大社会学科の金銀恵先生、お願いします。

【第3部】

質疑応答

司会：金 雄熙（仁荷大学教授）

進行：金 崇培（釜慶大学日語日文学部准教授）

金 銀恵（釜山大学社会学科准教授）

回答者：小針 進（静岡県立大学教授）

韓 準（延世大学教授）

平田由紀江（日本女子大学教授）

(発言は母国語)



■ 金 崇培　ここからはQ&A機能をつかって視聴者から寄せられたご質問やコメントを中心にお答えいただければと思います。いただいた順番に読み上げていきたいと思います。

最初は韓国の方からのご質問です。

日韓は軍事的紛争状態にないにもかかわらず、政治外交関係や、偏見、歴史認識あるいは教育の歪み、SNS上の偏った特異な発言や差別的言動などによって両国の文化交流が阻害されているのは悲しいことです。日本は韓国、大陸からさまざま文化的恩恵を受けてきており、それが日本の文化的、精神的、思想的、政治的、経済的進歩に大きく寄与してきたのです。決して扉を閉ざしてはならないと思います。

皆さんにご質問ですが、こうした大切な隣国である両国の発展のために、今、とりわけ文化的側面で日韓両国民は互いに何をすべきか、どういう行動が必要だとお考えでしょうか？

というものです。「皆さんにご質問」とありますが、時間の都合で申し訳ありません。私の独断ですが、韓準先生にお伺いしたいと思います。韓準先生、どのようにお考えでしょうか。

韓準 私は、1990年代に長い間続いた日本の大衆文化や文化的交流への規制が撤廃されたことが、非常に大きな意味を持っていると思います。そのような刺激が韓国の大衆文化の発展にも大いに影響したと思います。なぜならば日本の極めて進んだアバンギャルドの文化や、日本が受け入れてきた欧米文化が韓国の文化的な潜在能力を高めることに大きな影響を及ぼしたからです。それから人的交流も増えてきました。

ところが、政治的に韓日関係が悪化するたびに、制度的にではないにしろ、社会の雰囲気は今日の「モヤモヤ」の雰囲気になり、関係の進展が「グズグズ（訳注：韓国語の平舌平舌の訛語）」になります。私はこのような雰囲気は段々と減っていくべきだと思います。世界的に見ると、極めて関係の悪い隣国がたくさんあります。そして、今の韓国と中国の若者たち、または日本と中国の若者たちの間ではギクシャクするところもあるだろうと思います。中国は政治的に非常に権威主義的なため、こういう問題を解決するに当たって、より制約が多いでしょうが、韓国と日本は外交的に色々な困難さがあるとはいえ、少なくとも日本文化を韓国で楽しむことに、または韓国文化を日本で楽しむことに、法的または制度的な制約はありません。

そうすると、社会の雰囲気がもう少し開放的になり、小針先生のお話のように、我々の認識を変化させる方向へ向かうことが大事ではないかと考えます。少數の政治家たちが民族的な問題を利用するが、国民同士が共有して交流することにより洗練され、お互いにより思いやりのある方向へ関係が変わっていくことが必要ではないでしょうか。以上です。

金銀恵 こんにちは。金銀恵と申します。小針先生に質問が届いております。質問は日本語ですが、（同時翻訳スタッフにより）既に韓国語へ翻訳していただいている。私の方から読み上げてお伝えします。

「モヤモヤ」、なかなか興味深いコンセプトですね。これは、自ら“推し”ている対象が世間一般では正当に評価されていないことへの漠とした不定形の不安心理とでも解釈してよろしいでしょうか。ファンダムと（平均値としての）国民感情との差異？

関心があるのは、この「モヤモヤ」心理状態の次に来るものです。「モヤモヤ」解消のため、すなわち、この情緒的ギャップを埋めるべく、ファンダム自身が何らかの行動へとシフトする可能性はあるのでしょうか？ ファンダムの政治化？

小針先生いかがでしょうか。

小針 まずモヤモヤの定義なのですが、今ご質問のなかにあったとおり、自分の「推し」の対象が評価されないと、あと自分が感じていることと、自国民のなかでの、日本でいえば韓国に対する感情ですよね。このギャップがあるんじゃないかなというお話を思ったと思うんですが。もちろん両方ともそうですね。あともう二つ

ぐらい例を挙げると、自分はこんなに韓国に関心を持っているのに、相手国の政治家なり世論でなぜ反日的な声が出るのか、ということがひとつ。あともう一つは、客観的な状況として、こんなに文化交流は進んでいるのに、なぜ政治外交はうまくいかないのかということですね。

簡単にまとめると、「推しの評価が違う」「自国民とのギャップがある」「相手国からおかしな言動が出る」「客観的な日韓関係がうまくいっていない」この四つぐらいだと思います。それによって何か不満を感じている人たちが社会的な行動なり、政治的な行動を、日本で、ファンの人たちが起こすかということ、そういうことは考えにくいんじゃないでしょうか。

他の問題においても、ツイッター上でいくつかの意見が出た場合でも、すぐに日本で社会的な行動に結びついたりするとは思いませんし、そうはならないようになりますし、そこまでやってしまうと、自分たちが文化は別だと考えたい人が多いにもかかわらず、踏み込むという勇気も含めて、そこは出しにくい話なんじゃないかと思います。以上です。

■ 金 崇培 はい、ありがとうございます。引き続き Q&A でご質問を受け付けていますので、視聴者の皆さん、何か質問があれば書き込んでください。次は私から質問をさせていただきます。

これは平田先生にお答えいただければと思います。「政経分離」という言葉がありますよね。昔日本と中国の関係で、政治と経済を分離するという考え方があったんですが、では、政治と文化において、「政文分離」が成り立つかどうかです。この言葉を使う方もいると思うんですが、まだ市民権を得られた言葉ではないと思うんですね。私は、政治と経済と異なって、政治と文化というのは切り離せないものなのではないかと思うんです。

先ほど小針先生も少し、政治と文化のことでお話しされていましたが、私が聞き取ったニュアンスでは、小針先生もおそらく政治と文化はそれほど切り離せるものではないとお考えなのかなと感じました。

これは私の考えですが、政治は基本的に権力闘争とか、力を見るものなんですね。私は政治学者なのでそう思うのですが、では、文化は何なのかなと考えたら、何かこう、力というよりもアイデンティティの問題なのかなと思うんです。

少し質問が大きくなってしまった申し訳ないのですが、政治と文化の関係性について、平田先生に何かお考えがありましたら、お答えいただきたいと思います。

■ 平田 ご質問ありがとうございます。非常に大きな質問なので、どのようにお答えすればいいか、すぐにはまとまらないのですが。

先ほど小針先生のご発表に対するコメントで述べさせていただいたのは、これまで政治的な観点から、日本における韓国のポピュラー文化が語られるということは、結構あったわけなのですが、逆に、たとえば2000年代の初めにあったヨン様ブームのあたりを見てもわかるとおり、先ほど私はドキドキ部分といったのですが、そういうファン自身の、ファンのアイデンティティ部分については、あまり重要視される傾向はなかったと考えています。

ただ、今 ARMY などが非常に大きな力を持っていて、ファンの存在があまり重要視されていなかった風潮から、いややはり（ファンというのはポピュラー文化を語るうえで）無視できない重要な部分なのではないかというふうに、（ヨン様ブームの頃よりも）さらに広く認識されはじめたという変化が起こっているというのが、現在の状況なのではないでしょうか。

ですから、どの位置から語るのかという問題になると思うのですが、これまで、文化を消費する側が、果たしてどれだけ政治的な部分に関心を持って行動して、考えているかということとは別のところで、（日韓ポピュラー文化と絡めて）政治的な話が論じられてきたと思っています。

私は、（ポピュラー文化を語るうえで）ファンの力やアイデンティティ的な部分を重要視している立場ですが、答えになっているかどうかわからないのですが、政治と文化を結び付けるのがいいとか悪いとか、正しいか正しくないかという議論ではなくて、ポピュラー文化が消費されている過程をどこから見ていくのかという観点の問題ではないかと、そういうふうに思います。以上です。

■ 金銀恵 金崇培先生、Q & A に視聴者の方から質問をいただきました。お願いしてもいいですか？

■ 金崇培 はい、ではご紹介します。

韓流ブーム、BTS ブーム云々といつても、それは、先ずはソフト・コンテンツの売買というビジネス・レベルにとどまるものではないでしょうか？

一定レベルの（優れた？）コンテンツをうまく売り込もうとした売買双方のビジネス努力が成功を収めたという経済現象にとどまるのでは？ とすれば、先ず“製品”品質の分析に加えて、芸能プロダクション等の販売促進戦略の分析といったビジネス面の分析はどの程度なされているのでしょうか？

という質問です。これも小針先生にお答えいただけますか？

■ 小針 突然言われても、すぐにお答えするのは難しいですね。もちろん、先ほどの韓先生のご報告にしろ、ソウル大学の洪先生の本もそうですが、ビジネスだけではないわけです。もちろんどこまでがビジネスの戦略で、どこまでがそうでないかというのは、なかなか分析がしにくいのかもしれませんけれども。

たとえば、アイドルの売り込みの仕方だと、韓国これまでの K-POP のやり方を見ると、ジャニーズのものだと、日本のものを結構モデルにしているケースもあるわけです。おそらく BTS もそういった側面もあるのだろうが、それ以外でどんなビジネス的なことがほかと違うのかというのを分析する必要があるでしょうし、あと著作権をすごく甘くしているのが、たしか BTS だったと思うんですね。ARMY がいろいろな動画のコンテンツとかを権利関係お構いなしに流してしまう。たとえばコンサートの様子なども自分が撮ったものをそのまま SNS に上げても、（事務所側はあえて）黙認するといいます。この黙認すると

いうのが、（拡散を狙った戦略的な）ビジネス行為だといえばビジネス行為なのでしょうが、そうではなくて、それはファンが勝手にやっていること、自然発生的に起こっていることなのかもしれませんし、そのへんは捉え方によってちょっと違うような感じが、私はいたします。今の段階ではこれだけにいたします。

■ 金 崇培 ありがとうございます。それでは少しまだ時間がありますので、先ほどの討論や発表のなかで何か付け加えたいございましたらどうぞ。

■ 小針 では、私から。先ほど金先生のほうから、能のお話が出ました。これも意表を突かれた感じで非常に面白かったのですが、やはり、大衆文化研究のなかには、古典文化と大衆文化を切り離して考える部分があるんです。ただ、なぜ能が残ったのかというと、能が持っている普遍的なもの、古典文化としての面白さだけではない何かがあるからだと思うんですね。

BTS が何百年経っても残っているかというと、それも考えにくい話なんですが、ただ、古典と大衆文化がどう違うのかということを、考えないといけないなと思いました。気づきの 1 点だけ発言しました。以上です。

■ 金 崇培 はい、ありがとうございます。まだ時間がありますので何かほかに、発表者の方、討論者の方、いかがでしょうか。

■ 金 雄熙 無理して残りの時間を Q&A に回さなくとも良いかと思います。Q&A を効率的に進めていただいて、その前のセッションでオーバーした時間が相殺されました。私の方から一言申し上げて、全てのセッションを終了させていただきます。

本日のフォーラムのサブタイトルには「新韓流現象」という言葉がありますが、ご講演の先生方、ご討論の先生方、そして質疑応答を進行してくださった先生方もよく言及されたところです。今の BTS 現象は以前の韓流とは異なる新韓流現象を構成する、その主たる内容を含んでいるのではないかと思います。その概念が本日、具体的に出されたわけではないのですが、時間が経ってから振り返ってみたらサブタイトルを上手くつけたなと思います。

本日のキーワードの一つが「モヤモヤ」の感情ですよね。今お互いに気まずくすっきりしていない状況で見つめ合っている、このような感情が韓日間にまたがっているのですが、どうすれば韓日間が相手の文化をすっきりした状況で楽しめるか、ということが重要な課題だと思います。

現在そういうことを困難にしているのが「政治の泥沼化」です。文化が政治的対立の沼に陥っているようです。これを打開するためには、常識的な主張ではありますが、両国のリーダーシップ、マスコミ、世論、市民団体を含んだトライアングルの中で立ち往生になっている様々な政治と文化の悪循環の構造と断絶し、これまでの対立の経験から抜け出し、毅然とした柔軟かつ成熟した道を模索しなければなりません。それがまさに政治とメディア、世論との友好的な関係、好循環の関係を構築する道ではないかと思いました。ごく常識的なお話なわけですが、ここにいらっしゃる全ての先生方がこの問題の解決に向けて努力するた

め、同様の問題意識を出発点とする意味はあると考えます。

ということで、ここで全体のセッションを終了させていただきます。ご参加の皆様に感謝申し上げます。続いて最後に未来人材研究院の徐載鎮院長から閉会の辞がございます。徐院長、お願いします。

閉会の辭

徐 載鎮 (未来人力研究院院長)



[原文は韓国語、翻訳：尹 在彦（立教大学）]

こんにちは。未来人力研究院の院長を務めております、徐載鎮と申します。去年に続き今回も私が会議に参加し閉会の辞を担当させていただきます。渥美財団と未来人力研究院はとても長い間学術交流を行っており、韓日関係の発展に学者たちがどのように寄与できるか、こういった趣旨から関係を続けてきました。今年2022年にも会議が開かれたこと、大変うれしく思います。会議に参加してくださった皆様も有益な学術会議にお越しいただきありがとうございました。

本日、お二人の先生方が発表及び討論をなさったのですが、発表と討論共に大変興味深く有益だったと思います。まず韓先生のご発表からは、BTSというグループの影響力に関するお話で「大衆文化がSNS時代にこのように変化しているのだ」ということを学び、個人的にとても興味深く思いました。我々は口癖のように「SNS時代」と言いますが、大衆文化がこのように大きな変化を経験しているということがわかりました。つい最近まで欧米文化が主導して文化的な影響力・支配力を發揮していたのが、東洋文化が今、BTSを起点として世界的な影響力を發揮しているのも、全くSNSがなかったら想像もつかなかつた現象だったと考えました。

二つ目に、高級文化と大衆文化の境界を乗り越えたものがSNSだということが本当に興味深い事実でした。また、テレビ、ラジオ、映画のようなマスコミに対して、個別化したデジタルメディア、SNS、ユーチューブ、フェイスブック、ツイッターなどが今日のBTSを生んだ決定的なきっかけだったことを知りました。文化を理解するための新しいフレームに遭遇し嬉しく思います。それにより、ファンも少年少女から、一世代・二世代・三世代にわたる様々な年齢層が一緒に共有する文化になったことも面白く拝聴しました。

小針先生のご発表からは、日本で起きている韓國の大衆文化に対して「モヤモヤの感情」と表現されたことが、本日の最高の発見になるだろうと思いました。非常に有意義でした。日本人と韓国人が最も近いお隣さんなのに、なぜ文化を楽しみつつも喜んで楽しめない現象が生まれたのか、先ほど金雄熙先生からも一度言及がありました。私が見るには文化と政治の不一致のせいではないかと思います。

私は韓国と日本が政治的に多くの交流を行い、理解する趨勢があったと思います。しかし残念ながらこの5年間、文在寅政権が韓日関係を反対の方向へ向かわせることに大きな影響を及ぼしたと見ています。先ほど小針先生は「右翼はナショナリスト」とおっしゃいましたが、韓国はそれが逆になっています。右翼はむしろ非常に開放主義的です。私も韓国では右派に入るのですが、日本に対してはとてもオープンマインドです。ところが、左翼がむしろ日本に相当敵対的な反日感情を煽ってきました。国内政治での勢力を築くためで、これに同調した若い世代は全教組（訳注：全国教職員労働組合）から親北朝鮮、反日のような思想を教わりました。それが韓国での左翼です。時代に逆らう思潮が韓国にあるということは不幸だと思います。

日本では安倍政権が同じ時期にあったため、日本の安倍政権と韓国の文在寅政権が韓日関係を反対の方向へ向かわせる極めて否定的な影響を及ぼしました。幸い、日本はもはや安倍政権ではなく、韓国でも尹錫悦政権が発足したため、日本に対しても前向きで開放的な政策を標榜されており、韓日関係は非常に前向きかつ肯定的に発展していく余地があるのではないかと考えます。

皆さんのお話のように、大衆文化というのは心を動かすもので、我々学者たちが大衆文化に興味関心を持って、このような学術会議を行ったことをきっかけに、日本人と韓国人の心を動かして韓日関係がもっと発展していくようになってほしいと思います。渥美財団と未来人力研究院が続けてきたこの何十年間の交流の成果も表れています。本日の学術会議はそういった点からも非常に意味と成果があったと思います。私のお話はここまでにいたします。ありがとうございます。

講師略歴

■ 小針 進／KOHARI Susumu

静岡県立大学教授。1963年生まれ。静岡県立大学国際関係学部教授。専門は現代韓国・朝鮮社会論、北東アジア地域研究。東京外国语大学朝鮮語科卒業、韓国・西江大学校公共政策大学院修士課程修了、ソウル大学行政大学院博士課程中退。特殊法人国際観光振興会東京本部職員、同ソウル事務所次長、外務省専門調査員(在韓日本大使館勤務)などを経て現職。慶應義塾大学非常勤講師などを兼務。著書に『崔書勉と日韓の政財官学人脉—韓国知日派知識人のオーラルヒストリー』(編著、同時代社、2022年)、『文在寅政権期の韓国社会・政治と日韓関係』(柘植書房新社、2021年)、『日中韓の相互イメージとポピュラー文化～国家プランディング政策の展開』(共編著、明石書店、2019年)、『日韓関係の争点』(共編著、藤原書店、2014年)、『韓流ハンドブック』(共編著、新書館、2007年)、『韓国人は、こう考えている』(新潮新書、2004年)など。

■ 韓 準／HAN Joon

延世大学教授。1988年ソウル大学社会学科卒業、1990年ソウル大学大学院社会学修士、1998年スタンフォード大学大学院社会学博士。延世大学社会学科教授。ハーバード大学エンチン研究所訪問教授(2009～2010年)。韓国社会科学院院長(2011～2015年)。著書に『韓国社会の制度に対する信頼』(翰林大学校出版部、2008年)、『BTSのグローバル魅力ストーリー』(共編著、EAI、2020年)、『第4次産業革命、仕事と経営を変える』(共著、三星経済研究所、2019年)、『大韓民国システム、持続可能か』(共編著、EAI、2018年)、『超高齢社会、組織活歴をいかに高めるか』(共著、クラウドナイン、2017年)など。論文に「社会科学における複雑系研究」(『セ物理』67卷5号、韓国物理学会、2017年)、「韓国の社会移動：現況と背景」(『現象と認識』40卷4号、韓国人文社会学会、2016年)、「韓国人の生活の質の社会的決定要因」(『国政管理研究』10卷2号、成均館大学校、2015年)など。

■ チュ・スワン・ザオ／Chu Xuan Giao

ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員。2006年度渥美奨学生。ベトナム社会科学院文化研究所高級研究員。2000年10月来日、2001年4月より東京外国语大学・地域文化研究科博士後期(文化人類学)に在籍し、2007年3月に単位取得退学。総合研究大学院大学・文化科学研究科地域文化学専攻博士(2015年、文化人類学)。

あとがきにかえて

金 雄熙 (韓国仁荷大学教授)



2022年5月14日（土）、新型コロナウイルスが「終盤」の猛威を振るう中、第20回日韓アジア未来フォーラムが前回同様Zoomウェビナー方式で開催された。これまで2回続けて日韓関係の「暗い」部分を扱ってきたが、今回は今西さんのご提案で「明るい」部分について議論することにし、「防弾少年団（BTS）」の文化力に焦点を当て「進撃のKカルチャー——新韓流現象とその影響力」について議論を交わした。日韓、そしてベトナムから専門家を招き、BTSの文化力の源泉をなすものは何か、BTS現象は日韓関係、地域協力、そしてグローバル化にどのようなインプリケーションをもつものなのなどについて幅広い観点から検討した。

フォーラムでは、渥美国際交流財団SGRAの今西淳子（いまにし・じゅんこ）代表による開会の挨拶に続き、日本と韓国から2名の専門家による基調報告が行われた。まず、小針進（こはり・すすむ）静岡県立大学教授は「文化と政治・外交をめぐるモヤモヤする『眺め』」という題で、政治と文化を切り離せない葛藤、政治ニュースの韓国とInstagramの韓国のギャップへの葛藤、文化消費と政治的価値観・世代間の差への葛藤、魅了する文化と不安定な大統領の国に対する葛藤、反日・親日騒動と嫌韓助長への葛藤、政治的表明とその反発への葛藤、政治の文化への介入と「推し」の反日疑惑への葛藤、熱心なファン集団「ファンダム」のSNS投稿を素直に楽しめない葛藤、アーティスト批判の嫌韓論への葛藤、以前は日本が韓国の手本だったことに対する葛藤など、日本の大学生が経験している文化と政治をめぐる葛藤とモヤモヤする「眺め」の実体を様々な側面から生々しく描いた。

韓準（ハン・ジュン）延世大学教授は、「BTSのグローバルな魅力」について、外的環境的な要因と内的力量的な要因に分けて考察した研究結果を報告した。まず、外的、環境的な要因として、グローバル文化における中心—周辺関係の弱化又は解体、文化的趣向におけるヒエラルキーの弱化とオムニボア（雑食性）の登場、文化的価値としてのハイブリッドと真正性の結合、個人化したデジタル媒体

によるマスメディアの代替を挙げた。そして内的、力量的な要因として音楽スタイルやパフォーマンス能力の卓越性、真正性とアイデンティティの結合を通じた共感の拡大、グローバルファンダムである「ARMY (BTS 公式ファンクラブ)」の強力なサポートを指摘した。

第2部に入り、ミニ報告では、チュ・スワン・ザオ (Chu Xuan Giao) ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員が、ベトナムにおけるKポップ・Jポップ、ベトナムからのKポップ・Jポップの現状を紹介し、文化資源としてのVポップの可能性について若干の考察を加えた。自由討論では、金賢旭 (キム・ヒョンウク) 国民大学教授が日本の伝統芸能の一分野である能との比較から、平田由紀江 (ひらた・ゆきえ) 日本女子大学教授がメディア・文化研究の観点からそれぞれコメントした。

第3部では、金崇培 (キム・スンベ) 国立釜慶大学准教授と金銀惠 (キム・ウンヘ) 釜山大学准教授のアシストでウェビナー画面の「Q&A 機能」を使って一般参加者との質疑応答が行われた。最後は、徐載鎮 (ソ・ゼジン) 未来人材研究院院長により、日韓アジア未来フォーラムの経緯や役割についての熱いコメントと閉会の辞で締めくくられた。今回は250を超える一般からの参加申し込みがあり、最多時の参加者が170人を上回った。静岡県立大学、仁荷大学から若い学生の参加も多かった。十分な質疑応答が行われたとは言い切れない部分もあるが、アンケートを通じて多くの参加者からフォーラムの感想などが寄せられた。「フォーラムは期待通りであった」(「大いに期待通り」56.6%、「だいたい期待通り」38.4%)と答えた人の割合が95%を占めており、「新韓流現象やモヤモヤの正体が分かった」との感想もあった。

今回は第20回という節目だったにもかかわらず、惜しくもコロナ禍で記念行事や日韓アジア未来フォーラムならではの「番外」はなかった。次回は20年を振り返りつつ、ぜひ「春鹿」と「爆弾酒」を飲みながらの会にしたいと思う。最後に第20回目のフォーラムが成功裏に終わるよう支援を惜しまなかつた今西

SGRA 代表と李鎮奎未来人材研究院前理事長（咸鏡道知事）、そして前回同様ウェビナーの準備に万全を期し、完璧なフォーラムに仕上げてくれたスタッフの皆さんのご尽力に感謝の意を表したい。

（金雄熙「第20回日韓アジア未来フォーラム『進撃のKカルチャー：新韓流現象とその影響力』報告」より転載）



■ 金 雄熙 【キム・ウンヒ】 KIM Woonghee

89年ソウル大学外交学科卒業。94年筑波大学大学院国際政治経済学研究科修士、98年博士。博士論文「同意調達の浸透性ネットワークとしての政府諮詢機関に関する研究」。99年より韓国電子通信研究員専任研究員。00年より韓国仁荷大学国際通商学部専任講師、06年より副教授、11年より教授。SGRA研究員。代表著作に、「日韓基本条約の意義と限界」『日本研究論叢』第43号、2016年；日本の自由で開かれたインド太平洋構想と包摶的競争のジレンマ』『日本研究論叢』第54号、2021年；『現代日本政治の理解』共著、韓国放送通信大学出版部、2022年。最近は国際開発協力、地域貿易協定に興味をもっており、東アジアにおける地域協力と統合をめぐる日・米と中国の競争と協力について研究を進めている。

제 20회 한일아시아미래포럼

진격의 K-컬쳐 —신한류현상과 그 영향력

■ 포럼의 취지

지금 BTS는, 국적과 인종을 초월해 지구 시민을 하나로 아우르는 콘텐츠를 내세워 글로벌 팬덤을 형성한 이른바 ‘BTS 현상’으로 세계적 주목을 받고 있다. 과연 BTS 문화력의 원천을 이루는 것은 무엇일까? BTS 현상은 한일관계, 지역협력, 그리고 세계화에는 어떤 함의를 갖고 있을까? 본 포럼에서는 한일, 아시아의 관련 전문가를 초청하여 이러한 문제를 폭넓은 관점에서 논했다. 한일 전문가의 기조강연을 바탕으로 토론과 질의응답을 진행했다. 한일 동시통역 제공.

SGRA는

SGRA(세그라)는 세계 각국에서 일본으로 건너와 오랜 유학생활을 거쳐 일본의 대학원에서 박사학위를 취득한 지일파 외국인 연구자가 중심이 되어 개인이나 조직이 글로벌화에 대응하기 위한 방침이나 전략을 수립할 때 도움이 되는 연구 또는 문제해결의 제안을 하고 그 성과를 포럼, 레포트, 홈페이지 등의 방식으로 널리 사회에 발신하고 있습니다.

연구 테마별로 다양한 분야, 다양한 국적의 연구자가 연구팀을 편성하고 광범위한 지혜와 네트워크를 결집시켜 다면적인 데이터로 분석하고 고찰하여 연구를 수행합니다. SGRA는 어떤 일정한 전문가가 아니라 널리 사회전반을 대상으로 광범위한 연구영역을 포괄한 국제적이고 학제적인 활동을 지향하고 있습니다. 선량한 지구시민의 실현에 공헌하는 것이 SGRA의 기본적인 목표입니다. 상세한 내용은 홈페이지 (<http://www.aisf.or.jp/sgra/>) 를 참조하시기 바랍니다.

SGRA 소식

SGRA 포럼 등의 공지와 세계각지의 SGRA 회원이 에세이를 매주 목요일에 전자메일로 발신하고 있습니다. SGRA 소식은 누구나 무료로 구독하실 수 있습니다. 구독을 희망하시는 분은 홈페이지 (<http://www.aisf.or.jp/sgra/>) 에서 자동등록 하시면 됩니다.

진격의 K-컬쳐

—신한류현상과 그 영향력

일 시 2022년 5월 14일(토) 오후 3시-5시
 방 식 온라인
 주 최 아쓰미국제교류재단 세키구치글로벌연구회 [SGRA] (일본)
 공동주최 미래인력연구원 (한국)

사 회 김웅희 (인하대 교수)

【개회사】 이마니시 준코 (아쓰미국제교류재단 상무이사, SGRA 대표) 56



【제1부】	[강연 1] 문화와 정치 · 외교를 둘러싼 개운치 않은 ‘바라보기’ 58 고하리 스스무 (시즈오카현립대 교수)
	[강연 2] BTS의 글로벌 매력: 외적, 환경적 조건과 내적, 역량 요인 72 한준 (연세대 교수)
【제2부】	[미니보고] 베트남에서의 K팝 · J팝 80 츄 · 스완 · 자오 (베트남 사회과학원 문화연구소 상석연구원)
	[강연자와 토론자의 자유토론] 84 토론자 : 김현욱 (국민대 교수) 히라타 유키에 (일본여대 교수)
【제3부】	[질의응답] 92 진 행 : 김승배 (부경대 일어일문학부 조교수) 김은혜 (부산대 사회학과 조교수) 답변자 : 고하리 스스무 (시즈오카현립대 교수) 한준 (연세대 교수) 히라타 유키에 (일본여대 교수)

【폐회사】 서재진 (미래인력연구원 원장) 97

강사 약력 99

후기를 대신하여 100

개회사

이마니시 준코

아쓰미국제교류재단 상무이사, SGRA 대표



[원문은 일본어 . 번역 : 윤재언 (릿쿄대)]

여러분 , 안녕하십니까 ?

아쓰미국제교류재단 상무이사 , 세키구치글로벌연구회 대표를 맡고 있는
이마니시 준코라고 합니다 .

작년에 이어 오늘 온라인으로 개최하는 한일아시아미래포럼에는 200 명
넘는 분들이 참석해 주셨습니다 . 감사드립니다 . 여러분의 지원 덕분에 본 포
럼은 , 금번에 20 주년을 맞이하게 되었습니다 .

지금 제가 있는 도쿄 분쿄구 세키구치에서 글로벌하게 메시지를 발신하자
는 의미로 불인 세키구치글로벌연구회 , SRGA 라고 합니다만 , 출범하자마자
오늘 사회를 맡아 주실 김웅희 선생님을 통해 , 미래인력연구원 이진규 선생
님으로부터 연구교류사업을 하자는 말씀이 있었습니다 . 이것이 저희에게 첫
해외거점 프로젝트가 되었습니다 .

제 1 회는 2001 년 10 월 서울 교외 양평에 있는 미래재단 교류관에서 , 미
래재단과 아쓰미재단의 젊은 연구자가 모여 세미나를 개최한 뒤 , 삼겹살과
폭탄주로 교류회를 가지며 대단히 농밀한 교류사업이 시작되었습니다 . 그
뒤 매년 번갈아 한국과 일본을 왔다 갔다 하며 , 때로는 팝이나 호주에 간 적
도 있었고 , 언론에 보도되는 최악의 일한관계와는 관계없이 , 순조롭게 연구
교류 프로젝트가 이어져 오고 있습니다 .

코로나 팬데믹이 시작되고나서는 ZOOM 덕분에 동시통역을 부탁드리기
쉬워졌고 , 지금까지는 좀처럼 할 수 없었던 언어와 공간을 넘어선 이벤트에
전세계 많은 분들이 참가할 수 있게 되었습니다 .

오늘은 진격의 K 컬쳐에 대해 정치학과 사회학 전공 선생님께서 분석해 주
십니다 . 또한 , 한국과 일본 팝컬처의 세계적 영향 일면에 대해 베트남에서도

발표해 주십니다. 전염병과 전쟁 등 매일 어두운 뉴스뿐이지만, 조금 밝은 주제를 통해 스무 번째 한일아시아미래포럼을 즐겨 주셨으면 합니다.

죄송하지만, 웨비나 방식에서는 일반 참가자분들의 얼굴을 볼 수 없고, 발언도 들을 수 없습니다. Q&A 기능으로 질문과 코멘트를 해 주셨으면 합니다. 시간이 한정돼 있기 때문에 해 주신 질문 전부를 포럼에서 다룰 수는 없겠지만, 포럼 뒤 강연자와 토론자 선생님께 전달하도록 하겠습니다.

또한, 오늘 강연회 내용은 일본어와 한국어 합본 보고서로 정리해, 종이와 디지털 양쪽으로 발행하오니, 후일 읽어 주시면 감사드리겠습니다.

그러면 포럼을 시작하겠습니다. 서울에 계신 김웅희 선생님, 부탁드리겠습니다.

[제 1 부]

강연
1

문화와 정치·외교를 둘러싼 개운치 않은 ‘바라보기’

고하리 스스무 시즈오카현립대 교수

[원문은 일본어. 번역 : 윤재언 (梨校大)]

1. 국경을 넘는 대중문화와 한류

오늘은 아래와 같이 네 부분으로 나눠 말씀드리고자 합니다.

- 국경을 넘는 대중문화와 한류
- 일본의 한류 붐과 한국의 ‘친일 프레임’
- 문화와 정치를 둘러싼 일본 대학생의 내적 갈등 사례
- 우려와 희망

처음 부분은 ‘국경을 넘는 대중문화’입니다. 큰 흐름에서 생각해 보면, 1960년대 이후 계속해서 일본 애니메이션을 비롯, 국경을 넘어 동아시아 각지로 퍼져 나가던 대중문화들이 있었습니다(슬라이드 1).

그럼 최근의 한류 현상과 지금까지의 차이는 무엇일까요? 동아시아 지역을 넘어서고 있다는 것이 특징적이라 할 수 있겠습니다. 일본에 이어 한국이 문화 수출국으로 나선 뒤, BTS도 그렇고, 넷플릭스에서 방영되는 몇몇 드라마도 그러합니다만, 동아시아 영역을 넘어 받아들여지고 있습니다.

대중문화나 정보가 국경을 넘는 때, 여기에는 어떤 요소가 있을까요? 이 시이 겐이치 (石井健一, 분교대 정보학부 교수)는 문화, 정보의 흐름을 정하는 요소에 세 가지가 있다고 분석합니다(슬라이드 2).

하나는 ‘국내 시장규모’입니다. 규모가 크면 클수록 좋은 것을 만들어낼 수 있다는 점입니다. 예를 들어 미국에는 3억명이 있으니 양질의 할리우드 영화를 만들 수 있다는 얘기입니다. 그러나 한국은 5천만명이라 상당히 불리하다고 할 수 있겠지만, 애초 세계 시장을 의식한 전략을 세우고 있다고 생각됩니다. 두 번째는 ‘인적 자본’의 유무입니다. 이는 중요한 요소로, 한국

동아시아의 대중문화 파급

- 1960년대 ~ 아시아 각국에서
 일본의 애니메이션 보급
- 1980년대 중반 아시아 각국에서 (일부는 역외로)
 NHK드라마 「오싱」이 유행
- 1990년대 대만에서
 일본의 TV프로그램이 큰 인기 <哈日族(하르족: 일본대중문화를 좋아하는 사람들)> 출현
- 1998년 ~ 한국에서
 일본의 대중문화 단계적 개방조치, 영화 <러브레터> 등이 대유행(99-2000년)
- 1999년 전후 ~ 중국 · 대만 · 홍콩에서
 한국의 TV드라마가 큰 인기
- 2003년 ~ 일본에서
 KBS드라마 <겨울연가> 등 한국 드라마의 한류 붐, <온사마> 열풍(2004년)
- 2010년 ~ 일본 등에서
 <카라><소녀시대> 등 한국출신 K팝의 걸그룹이 붐을 일으킴
- 2014년 ~ BTS가 일본에서도 데뷔. 한국에서 아시아를 도는 첫 투어
2020년 ~ NiziU, <사랑의 불시착> 2021년 ~ <오징어 게임> . . .
한류의 등장은 역내에서 ① 대중문화 신수출국의 출현, ② 한 방향에서 양방향으로, 동아시아 역외로 전파 (특히 BTS)

슬라이드 1

문화 · 정보의 흐름을 결정하는 3 가지 요소와 한류

1. <국내의 시장 규모>

국가의 규모가 클수록 하나의 콘텐츠에서 많은 수입을 얻을 수 있으며, 그만큼 많은 제작비를 들일 수 있고, 높은 수준의 작품을 제작할 수 있다 → 본래는 한국에 불리. 한류는 시장 규모가 크지 않기 때문에 처음부터 세계시장을 의식한 전략이 주효했다.

2. <인적 자본>

콘텐츠를 만드는 사람이 우수하지 않으면 높은 수준이 나올 수 없다. 노하우, 기술, 감각이 있는 인재가 어느 정도 있는가 → 한국은 인재의 보고라 할 수 있다

3. <문화적 유사성>

수용하는 자와 제작하는 자의 문화가 어느 정도 유사성이 있는가 하는 문제이다. 콘텐츠에 따라 다르지만 제작을 하는 나라와 그것을 수용하는 나라의 <문화적 유사성>이 높은 편이 흐르기 쉽다 → 한일간의 유사성

(주)3가지 요소는 石井健一「문화와 정보의 국제교류」, 石井健一편『동아시아의 일본대중문화』(蒼蒼社, 2001년)을 참조.

슬라이드 2

은 인재의 커다란 보고가 되고 있기에 사실로 생각됩니다. 세 번째는 '문화적 유사성'입니다. 발신하는 쪽과 수용하는 쪽을 생각할 때, 문화적 유사성이 있는 편이 받아들이기 쉽다는 점입니다. 일본의 한류 현상, 중화권의 한류 현상은 이것으로 설명이 가능합니다. 그러나 최근 BTS 등은 이러한 이해를 다소 넘어서는 지점이 있지 않은가 생각됩니다.

대중문화의 국경을 초월한 유통을 규정하는 요인

• 정치적 요인

수입국 내의 규제

수출국의 촉진 정책

• 경제적 요인

수출국과 수입국의 시장 규모 차이

수입국의 경제수준

수입국 내의 국산 대중문화의 공급능력

• 사회적 요인

수출국과 수입국의 인적 교류

• 문화적 요인

수출국과 수입국의 문화적 유사성

수출국에 대한 동경심

• 기술적 요인

정보기술의 발전

수출국과 수입국의 제작수준 차이

- A. 위성방송, 케이블TV, 인터넷 등의
발달과 보급
- B. 아시아 지역의 경제발전과 그에 따른
새로운 중간층 출현
- C. 각국·지역의 현지 대중문화의 미발달
- D. 각국 대중 문화의 상호보완성
- E. SNS 발달과 활용

슬라이드 3

국경을 넘어선 유통을 규정하는 요인에는 방금 말씀드린 것 외에, 정치적 요인, 경제적 요인 등 다양한 요인이 있습니다 (슬라이드 3). 일본이든 한국이든, 정치적 문화 수입규제 (다만 한국은 여전히 일본대중문화 전면 개방에는 이르지 못하고 있음), 수출규제는 없습니다. 이는 수입규제가 있는 북한 등과는 다른 부분입니다. 그리고 기술적 요인이 아주 크다고 말할 수 있겠습니다. 넷플릭스든 BTS 현상이든, 이는 최근 SNS 발달의 영향이 크지 않은가 생각합니다.

실은 일본에서 한국 대중문화는 80, 90년대부터 받아들여져 왔습니다. 바로 1주일 전 강수연씨가 돌아가셨다는 안타까운 뉴스가 있었습니다. 아시아 여배우로서 처음 베니스 국제영화제에서 여우주연상을 받은 분으로, 일본에서도 인기가 상당히 있었습니다. 일한문화교류에서도 굉장히 적극적으로 노력했습니다. 20년도 더 된 일입니다만, ‘닛케이유통신문’에 커다란 인터뷰 기사가 실렸습니다 (1993년 3월 6일자, ‘은막과 살아가는 한국의 꽃, 아시아 합작 필요성 설파 (銀幕と生きる韓國の華 アジア合作の必要説く)’).

기사에서 강수연씨는 “(일본 영화 개방에 대해) 국내에서는 찬반양론이 있지만 나는 환영한다. 지금까지 볼 수 없었던 게 오히려 이상하다”, “한국에는 개성적이고 재능 있는 인재가 풍부하고, 일본에는 발전된 기술이 있다. 협력하면 반드시 좋은 영화를 찍을 수 있을 것” 등을 얘기했습니다. 그 뒤 양국 영화인 사이 협력이 진행돼, 좋은 작품이 다수 탄생했습니다. 이 자리를 빌려 다시금 고인의 명복을 빕니다.

지금의 한류 붐에 대해서는 일본 안에서도 저널리즘, 혹은 학문 세계에서

이런저런 분석이 이뤄지고 있습니다. 슬라이드 4에서 보여드렸던 칸노 도모코 (菅野朋子, 저널리스트) 와 구와하타 유카 (桑畠優香, 작가, 번역가) 의 분석입니다만, 그 가운데서도 칸노의 ③디지털화 얘기나 구와하타 씨의 ⑤ 발신력 얘기는 SNS 사용 등을 포함해 중요 포인트가 아닐까 싶습니다. 이 지점에 대해서는 서울대 홍석경 교수님이 분석하시기도 했습니다(슬라이드 5). 일본에도 번역서 (『BTS ON THE ROAD』 홍석경 저, 구와하타 유카 역,

한류의 발전 분석

A. 한국의 대중문화산업이 발전한 이유

- ① 1980년대 말 한국의 민주화에 의한 '표현의 자유' 획득
- ② 1997년 IMF위기에 따른 한국 산업구조의 전환
- ③ 세계의 디지털화 사회
- ④ 정부차원의 한국문화 지원책이라는 후방지원 (菅野朋子<한국의 대중문화는 어떻게 세계에서 성공했는가> 文春新書, 2022년)

B. 세계가 BTS에 "빠져드는" 이유

- ① 칼군무
- ② 음악성
- ③ 지적 호기심을 자극하는 MV와 가사
- ④ 멤버 7인의 사이가 좋다
- ⑤ 메시지 전달력
(번역가 桑畠優香, <마이니치신문>석간 2022년4월11일자)

슬라이드 4

BTS의 영향·효과 분석 홍석경<BTS 길 위에서>

- BTS는 경제적 가치를 놓고, 국가 이미지를 개선했다.
- BTS는 때로 국제관계와 정치적 편견과도 마주해야 한다.
- K-POP과 BTS팬들이 한국어를 배우는 큰 동기 중 하나이다.
- K-POP은 서구의 대중문화와 마찬가지로 마약, 섹스 등의 문제도 있다.
- 본래 한국 팬들은 스타가 정치성 발언을 하는 것에 찬성하지 않았다. 팬덤 자체가 단일한 정치색이 아니기 때문이다. **한국의 BTS팬은** BTS에게 물음을 던지거나(여성혐오문제, 흑인문화에 대한 문제) 자선사업활동을 하거나(멤버의 생일에 나무를 심는 등), 압력을 주거나 (아키모토 야스시씨와 협업이 발표되었을 때 반대운동을 했음) 등, **BTS의 이름을 활용하여 SNS에 파동을 일으킨다.**
- BTS가 만들어낸 동아시아인상은 대국인 중국이나 일본이 아닌 소국인 한국, 더구나 수도 서울이 아닌 지방출신의 7명의 젊은이들.
- 한국의 K팝 팬들의 일부는 외국 팬들을 <외퀴(외국 바퀴벌레)>라 부르며 노골적으로 적개심을 드러내고 있다.

슬라이드 5

수출국에서 본 대중문화 유통의 영향 · 효과

1. 경제효과

- 직접적 효과

미디어, 제작회사 등의 문화산업 매출증대

- 간접적 효과

관광산업의 매출증대(관심 고조에 따른 관광객 증가)

공업제품 등의 매출증대

(대중문화 인기로 인한 이미지향상, 존재감 증대)

2. 비경제효과

친근감 조성, 호감도 상승

⇒ 관계개선, 우호관계 구축?

슬라이드 6

겐코샤, 2021년) 가 간행돼 있으니 관심 있는 분은 일독을 권합니다.

오늘 한준 선생님께서 이 지점에 대해 자세하게 말씀해 주실 것으로 생각돼서 저는 생략하겠습니다만, 흥 선생님 저서 중에 특히 경제효과와 비경제효과를 거론한 부분이 있었습니다(슬라이드 6). 저 스스로는 비경제효과, 특히 이것이 일한 양국 관계개선에 도움이 될지 상당히 관심을 갖고 있습니다. 그러면 이제 다음 부분으로 넘어가고자 합니다.

2. 일본의 한류 봄과 한국의 ‘친일 프레임’

지금 일본의 한류 봄과 시기를 같이 하여, 한국에서의 일본에 대한 ‘바라보기’는 어떤지 말씀드리면, 일본의 대중문화 팬들은 나름대로 존재감이 있지만, 제가 조금 주의를 기울이며 보고 있는 것은, 오히려 ‘친일 프레임’(일본 편을 듣다는 낙인)과 같은 말들입니다.

일본에서 젊은이들의 유행어에는 한류와 관련된 것들이 정말 많습니다. 주식회사 AMF(여중고생을 대상으로 한 마케팅 등 지원 회사)가 2021년 12월 15일 발표한 ‘JC, JK 유행어 대상 2021’(역주: JK는 여고생, JC는 여중생을 의미함)에 의하면 ‘사람 부문’, ‘앱 부문’, ‘물건 부문’, ‘말 부문’에서 각 상위 5위까지 합계 20 항목 중 7 항목이 한류와 관련 있는 말이

김대중·노무현 두 정권에 의한 일본대중문화의 단계적 개방조치는 이명박, 박근혜, 문재인 각 정부에서는 진전이 없었다.

- 김대중 정부의 1998년10월 (제1차) , 1999년9월 (제2차) , 2000년6월 (제3차) , 노무현 정부였던 2004년 1월 (제4차) , 분야별/ 단계적으로 부분 개방했다.
- ① 일반 영화 상영② 애니메이션 영화 상영③ 비디오 판매④ 대중가요 공연⑤ 음반 판매⑥ 게임소프트 판매⑦ 방송⑧ 만화 분야로 구분되었으며 방송에서는 오락프로그램과 공중파에서 드라마 방송이 아직 개방되지 않았다.
- 이명박, 박근혜, 문재인 각 정부에서는 제5차 조치가 전혀 없었으며, 전면 개방이 되지 않았다.

※ 공중파에서 프라임 시간대에 방송했을 경우의 효과
⇒ 중국에서 80년대에 인기드라마 『붉은 의혹』 『오싱』 『불타라 어택』 을 CCTV에서 방영→당시는 양호한 대일감정

슬라이드 7

었습니다 (계재 생략). 예를 들어 ‘도한 놀이 (渡韓ごっこ)’는 코로나로 한국에 가지 못하는 대신, 한국 음식을 사거나, 한국 느낌이 나는 장소에 가서, 실제 현지에 간 것 같은 기분을 내는 일을 의미합니다.

한편, 한국에서는 아쉽게도 대중문화나 내셔널리즘과 관련해 몇 가지 문제가 표면화한 상황입니다. 예를 들어, 일본 대중문화 애니메이션 ‘귀멸의 칼날’ 등 굉장히 인기를 끈 것도 있지만, (주인공의 귀 장식 디자인이 육일기를 닮았다는 등의) 내셔널리즘과 관련된 문제가 지적됐습니다.

또한, 한국 정치권의 프레임으로, ‘친일’이라는 용어가 상당히 많이 등장합니다. 한국 내정에 관한 얘기이기는 합니다만 ‘토착왜구’ 와 같은 말이 들려오는 것은 일본인으로서 그다지 기꺼운 일은 아닙니다.

동시에 대중문화 측면에서 보면, 한국에서 일본 대중문화는 100% 개방되지는 않은 상황입니다. 특히 한국 지상파 방송국에서 일본의 텔레비전 드라마나 버라이어티는 아직 방송할 수 없는 상황 (슬라이드 7)이고, 아쉽지만 김대중, 노무현 정권 때 단계적으로 개방했지만, 이명박, 박근혜, 문재인 정권 하에서는 진전이 전혀 없었습니다.

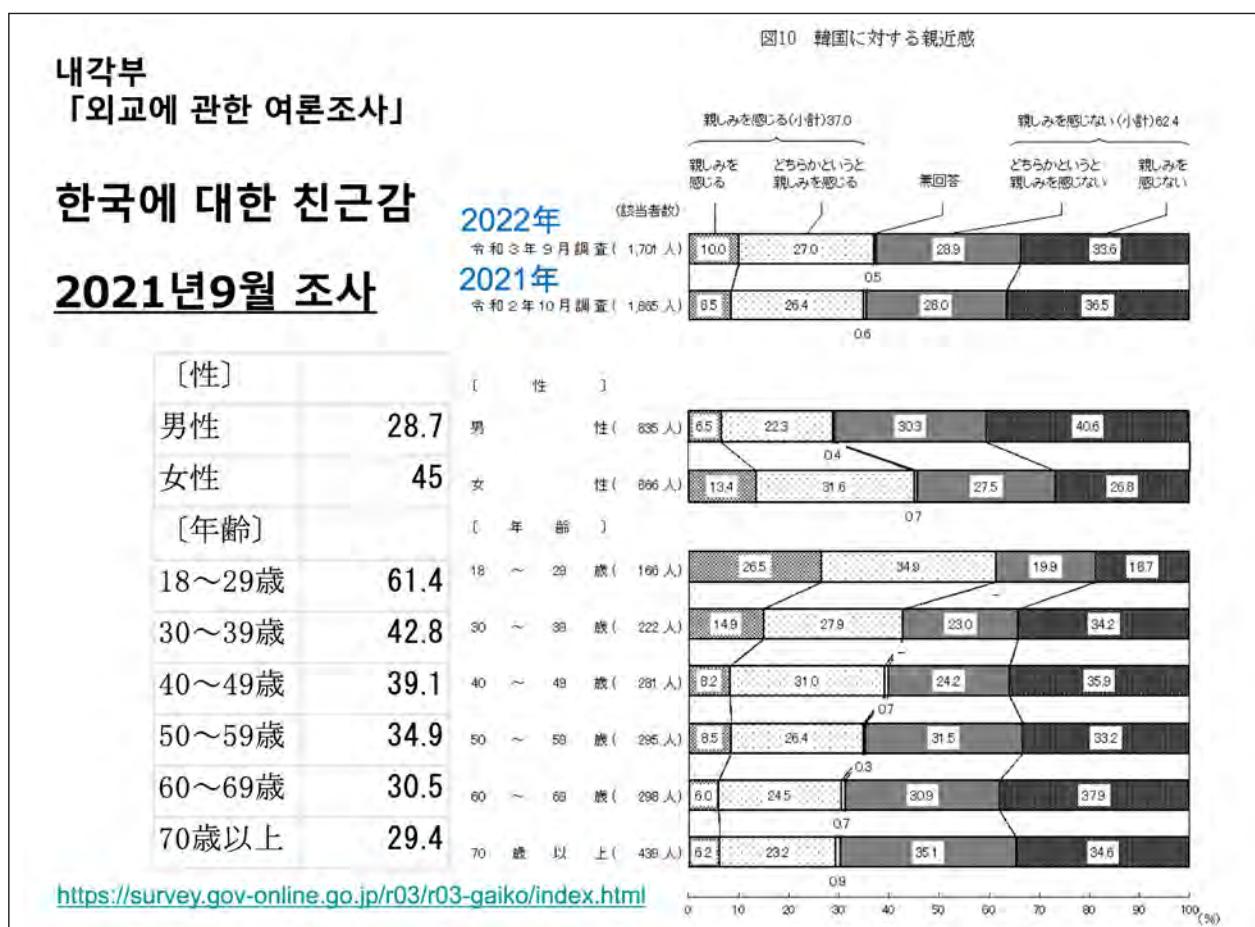
중국에서는 80년대 인기드라마 ‘붉은 의혹 (赤い疑惑)’, ‘오싱 (おしん)’, ‘불타라 어택 (燃えろアタック)’이 CCTV(중국중앙텔레비전)에서 방영됐고, 이 시기 대일 감정은 상당히 양호했습니다. 지상파 방송국 프로그램의 영향은 가늠할 수 없을 정도입니다.

3. 문화와 정치를 둘러싼 일본 대학생의 내적 갈등 사례

그러면 지금부터 세 번째 내용으로 들어가겠습니다.

저는 지금 시즈오카현립대학과 게이오대학에서 가르치고 있습니다만, 한국에 관심이 있는 대학생들에게 문화와 정치를 둘러싼 문제는, 정말로 ‘개운치 않다’는 감정에 딱 맞지 않나 싶습니다. 이 개운치 않은 감정은 히토쓰 바시대 사회학부 가토 케이키 수업의 학생들이 간행한 책 타이틀에도 쓰였고 (『‘일한’의 개운치 않음과 대학생인 나(「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし)』, 오오츠키서점, 2021년), 마이니치신문 오누키 도모코 (大貫智子) 기자가 ‘기자의 눈 깊은이와 일한관계’ (2021년 12월 15일자)라는 기사에서 ‘개운치 않은’ 이란 말을 쓰고 있습니다. 기사는 K 팝이나 드라마를 통해 한국에 관심을 갖게 됐지만, 일한관계라는 과제를 마주하게 되고, 고민하는 학생이 많다는 내용이었습니다.

실제 구체 사례로, 시즈오카와 게이오 학생에게 레포트를 쓰도록 했는데, 제가 느낀 개운치 않음의 예를 여기서 소개하고자 합니다 (상세한 내용은 p70~71 참조).



a. 정치와 문화를 완전히 나눌 수 없다는 내적 갈등

특히 가족과 사이에서 정치 얘기가 나오면, 어떻게 봐야 할지 마음 속에서 갈등이 생기는 경우입니다.

b. 정치 뉴스 속 한국과 인스타그램 속 한국 사이 캡에 대한 내적 갈등

정치 뉴스에서 다뤄지는 한국과, 인스타그램에 나오는 굉장히 매력적인 한국과의 캡이 너무 커서 이해할 수 없습니다. 이 부분이 개운치 않게 느껴집니다.

c. 문화 소비와 정치적 가치관·세대 차에 대한 내적 갈등

그리고, 예를 들어 스스로는 한국 문화를 즐기고 있지만, 협한인 아버지가 못마땅한 얼굴을 하는 것과 같은 세대 차 현상입니다. 예를 들어 지금 화면에서 보시는 것은 일본의 ‘외교에 관한 여론조사’에서 한국에 대한 ‘친근감’입니다. 작년 9 월 데이터 (슬라이드 8) 인데, 남성보다 여성이 17 포인트 정도 높습니다. 거기에 연령차도 있습니다. 조사에 따르면, 대학생 세대는 60% 정도가 친근감을 갖고 있습니다. 그런데 60 대 이상이 되면 30% 밖에 친근감을 갖고 있지 않다는 세대간 캡에 피로를 느끼는 학생이 많습니다.

d. BTS 와 박근혜 ~ 매력적인 문화와 불안정한 대통령의 나라에 대한 내적 갈등

구체적으로 말하자면, 일본에서는 2018년 정도부터 BTS가 유행하기 시작했는데, 매혹적인 BTS와 신뢰도가 흔들린 박근혜 대통령, 이 둘 사이의 내적 갈등입니다.

e. 반일, 친일 소동과 혐한 조장에 대한 내적 갈등

그리고 한국 연예인의 사소한 언동이 “반일적이다”, “친일적이다”라고 하는 소동이 일어나는 사례입니다. ‘친일 프레임’ 소동이나, 그와 반대로 일본 국내에서 “저 스타는 반일 아닌가”라고 하는 일이 일어납니다. 이에 호응해 일본 내 혐한 감정이 조장돼 가는 지점에 대한 내적 갈등을 겪고 있습니다.

f. 정치적 표명과 그 반발에 대한 내적 갈등

BTS에 관해 말하면, 원폭 티셔츠를 입었다는 소동이 있었습니다. 이는 BTS 쪽의 사죄로 결론 난 문제지만 이 때 도쿄돔 공연 중지를 요구하는 해시태그가 상당히 있었습니다.

g. 정치의 문화에 대한 개입과 ‘최애’ 의 반일 의혹에 대한 내적 갈등

일본어에서는 ‘최애 (推し)’라는 말이 유행하고 있는데, ‘내가 좋아하는

BTS를 둘러싼 한일간의 소동

2018년 9~11월

① 해방 만세를 외치는 사람들의 모습과 원폭투하가
그려진 T셔츠 착용과 일본의 TV방송 출연 취소

② 아키모토 야스시와 협업기획 중지 소동

“한국에서는 <우익>은 <내셔널리즘>과 동의어가 되며, 나아가 확대해석이 작용하여 **반한·혐한 인사라는 딱지**가 붙는다. 그런 마이너스 이미지때문에 이번 협업이 중단된 것 같으나, **아키모토씨가 지금까지 해 온 일을 제대로 조사하면 결코 한국에 대해 부정적인 것이 아니라 오히려 호의적이다**라는 것은 금방 알 수 있었을 것이다”(慎武宏 [재일교포 작가] <BTS와 아키모토 야스시 협업 중지소동에 위화감. 한국에서 “우익판정”받는 일본의 연예인들> <<https://news.yahoo.co.jp/byline/shinmukoeng/20180927-00098378/>>, 2018年9月27日)

※ 2020년 6·25한국전쟁 발언(중국에 대한 자극)

슬라이드 9

아이돌이 반일이지 않은가? 내가 이렇게 좋아하는데 저 사람은 일본을 싫어하는 것 아닌가?’ 와 같은 내적 갈등입니다. 이러한 일도 있다고 합니다.

BTS 를 소재로 말씀드리면, 원폭 외에도 한 가지 더, 아키모토 야스시 (秋元康, 역주 : AKB48 등을 기획한 유명 프로듀서) 와의 협업을 둘러싼 문제 가 있었습니다 (슬라이드 9). 아키모토가 아베 수상과 교류가 있다는 것이 주 된 이유입니다. 물론 약간 여성 멸시적 노래 가사가 있었다는 것도 있었을 테 지만, 이 때 ‘아미’ 라 불리는 팬덤이 SNS 에서 메시지를 발신했고, 이 때문에 협업이 중지되는 일이 있었습니다. 이 때 재일 한국인 신무광 (작가) 씨 가 아미의 행동이 ‘상당히 아쉬웠다’ 고 기사에 쓰기도 했습니다. 반한이나 혐한이라는 말이 나옵니다만, 아키모토에 한정해 한국의 이해자인지 아닌지 생각해보면, 오히려 한국에 호의적인 이해자입니다. 이 지점에서 약간 무관 용이 있었던 것은 아닐까 싶습니다.

한국 내에서의 팬덤과 관련해 몇 가지 예를 말씀드리면, 아야세 하루카 (綾瀬はるか) 라는 유명 여배우 출연 영화를 둘러싸고 한국에서 ‘우익’ 이라는 낙인을 찍었습니다. 우익과 대척점에 있는 일본공산당 기관지 ‘신문 아카하타’ 일요판 예능페이지에는, 많은 연예인들의 인터뷰 기사가 실립니다. 이 여배우도 해당 지면에 등장한 적이 있습니다. 100 만부 가까이 발행되는 신문이니, 비즈니스적으로도 유용했던 셈입니다. 정치색 같은 것은 없습니다. 이 여배우는 가전 대기업 광고에도 나옵니다. 일본 연예인은 정치와 그다지 관련성이 없고, 우익이든 좌익이든, 정치나 이념 면에서 무색이고 자유로운 사람들입니다. 한국 사회와 다른 상황을 한국의 팬덤은 이해해야 합니다.

다만 BTS 가 내는 메시지 중에 제가 감탄하는 것은 , ‘인간의 안전보장 (빈곤 , 기근 , 전염병 , 재해 , 환경파괴 , 약물 , 인권침해 등)’ 에 관련된 발언입니다 . 저는 이에 대해선 메시지를 내야 한다고 생각합니다 . 아시아인이 인종 증오 범죄로 힘들어하는 때에 메시지를 냈습니다 . 굉장히 훌륭하다고 생각했습니다 . 따라서 어디까지 , 어떤 발언을 해도 좋은지와 같은 논의도 있을 수 있지 않을까 합니다 .

h. 팬덤의 SNS 투고와 순수하게 즐길 수 없는 내적 갈등

한국 국내 일이긴 합니다만 , K 팝 아이돌로 활약하는 한 일본인이 , 일본 연호가 레이와 (令和) 로 바뀌었을 때 축하 트윗을 하자 , 많은 한국인에게 비판적 댓글이 달렸다고 합니다 . 일부 한국인의 일본 문화 몰이해를 알게 된 일본인이 , 그때까지는 한국 문화를 즐기고 있었지만 , 이러한 상황에서 다양한 일한문제가 존재한다는 사실에 눈을 돌릴 수밖에 없게 됩니다 . “한국 문화를 순수하게 즐길 수는 없는 걸까” 라며 한숨짓는 목소리도 있었습니다 .

i. 아티스트 비판 협한론에 대한 내적 갈등

그리고 반대로 일본 국내에서는 한국을 싫어하는 사람들에게서 “K 팝 아티스트 같은 애들은 일본에 대해 아무 생각이 없고 그저 돈만 벌어갈 뿐” 이라는 목소리도 나옵니다 . 이에 대해 젊은 K 팝 팬들은 굉장히 고민하게 됩니다 .

왜 이러한 일이 일어나게 되는지 말씀드리면 , 오늘날 일한관계뿐만 아니라 , 다양한 문제에서 정보의 쌍방향성 , 상보성 (역주 : 상세한 정보) 혹은 속보성이 존재합니다 . 2019년 ‘벼닝썬 사건’이나 박유천 마약사건 , 설리 , 구하라 자살과 같은 사건들이 바로 일본어로 속보 기사가 발신됩니다 . 한국을 싫어하는 이들에게는 이런 뉴스가 “자 봐라” 라는 반응을 나오게 한다고 생각합니다 .

다만 한국 사회 안에 자정 작용이 있다고 느낄 때가 있습니다 . SBS 의 강경윤 기자는 “우리 사회에서 한류라는 이름으로 모든 것을 허용하고 , 감시와 비판을 게을리한 것은 아닌가” 라고 발언합니다 . 이미 한국은 문화 대국입니다 . 비판을 받는 것이 당연하다는 의식을 한국 안에서 갖고 있다는 것은 훌륭하다고 생각합니다 (강 기자 특종에 관해서는 칸노 도모코가 옮해 낸 『한국 엔터테인먼트는 왜 세계에서 성공했는가 (韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか)』 (문예춘추) 에 나와 있습니다).

j. 이전에는 일본이 한국의 본보기였다는 내적 갈등

마지막으로 한 가지 더 말씀드리겠습니다 . 일본 젊은 층 입장에서 보자면 , 지금 한국은 일본보다 나은 점이 많은 듯이 보이지만 , 연장자에게는 일본이 한 발 앞선 나라라는 생각이 있습니다 . 이는 그 세대 간에 존재하는 갈등입니다 .

4. 우려와 희망

남은 5 분에는 우려와 희망에 대해 조금 말씀드리고 마치고자 합니다.

지금 보시는 것은 일본 중학생과 고등학생이 해외 수학여행을 갈 때, 어떤 나라가 몇 위였는지에 대한 것입니다 (슬라이드 10). 실은 2012년까지 줄곧 한국은 일본 수학여행지로서 가장 높은 순위에 있었습니다. 그러나 2012년 이후, 외교관계가 나빠지고, 계속 내려가고 있습니다. 2015년에는 12위까지 내려왔습니다.

이는 한 마디로 외교 관계가 나쁘다, 반일적 움직임이 있다, 그런 곳에 자기 자식들을 보내고 싶지 않다는 보호자의 목소리가 우세하다는 것을 보여줍니다.

그러면 2019년은 어땠을까요? 이것은 코로나 전 일본수학여행협회 조사 결과로, 1위는 대만 25.2% 였습니다 (슬라이드 11). 한국은 2, 3위나 6위가 아니라, 무려 전체의 겨우 1% 정도였습니다. 416 건 중 4~5 건 밖에 없었습니다.

수학여행은 그 나라의 문화를 이해하기 위한 굉장히 중요한 것이지만, 정치 · 외교가 나빠지면 문화나 그 밖의 교류에 영향을 끼치는 하나의 예가 아닐까 싶습니다. 그러니 정치 · 외교는 좋아져야 한다고 생각합니다.

방금 한국의 일본에 대한 ‘바라보기’를 둘러싼 상황을 다소 비판적으로 말씀드렸지만, 한국 사회의 음식 문화에서는 최근, 일본어 ‘오마카세’가 작게나마 유행어가 됐다고 합니다. 이는 제 입장에서 상당히 기쁘면서도 흥미로운 일입니다.

한편 일본에서는 한국어 학습자가 굉장히 늘어나고 있습니다. 왜 한국어를 공부하는가 하면, ‘BTS가 좋아서’, ‘넷플릭스를 자막 없이 보려고’라는 게 많습니다. NHK 어학 교과서 매출순위 (후지산매거진서비스 조사)를 보면 1위에서 12위 중 7개가 영어이지만, 한국어가 3개 들어 있습니다. 그 밖에 10위에 프랑스어, 11위에 중국어가 있습니다. 제가 근무하는 대학에서는, 국제관계학부 신입 1학년이 선택하는 제 2 외국어 가운데 한국어가 처음으로 이수등록자수 텁을 기록했습니다. 다른 대학에서도 비슷한 현상이 일어나고 있다고 듣습니다.

그리고 조남주 작가의 『82년생 김지영』은 일본에서도 대단한 베스트셀러였습니다. 이를 계기로 한국 문학작품이 대단히 잘 팔립니다. 김승복 (출판사 쿠온 사장)의 조사에 따르면, 일본에서 번역된 한국문예분야 책은 2011~2017년까지 7년간 83권 밖에 없었지만, 2018~2021년 3년 4개 월만에 136권 간행됐습니다. 특히 폐미니즘에 관한 책이 많았는데, “한국 문학의 늪에 빠졌다”라는 게이오 학생도 있었습니다. 2000년대 초반 ‘윤사마 봄’이나 몇 번 한류 봄이 있을 때에도 그다지 없었던 현상입니다. 음악이나 영상과 달리 한국문학, 활자를 읽는다는 것은 쉬운 일이 아닙니다. 능

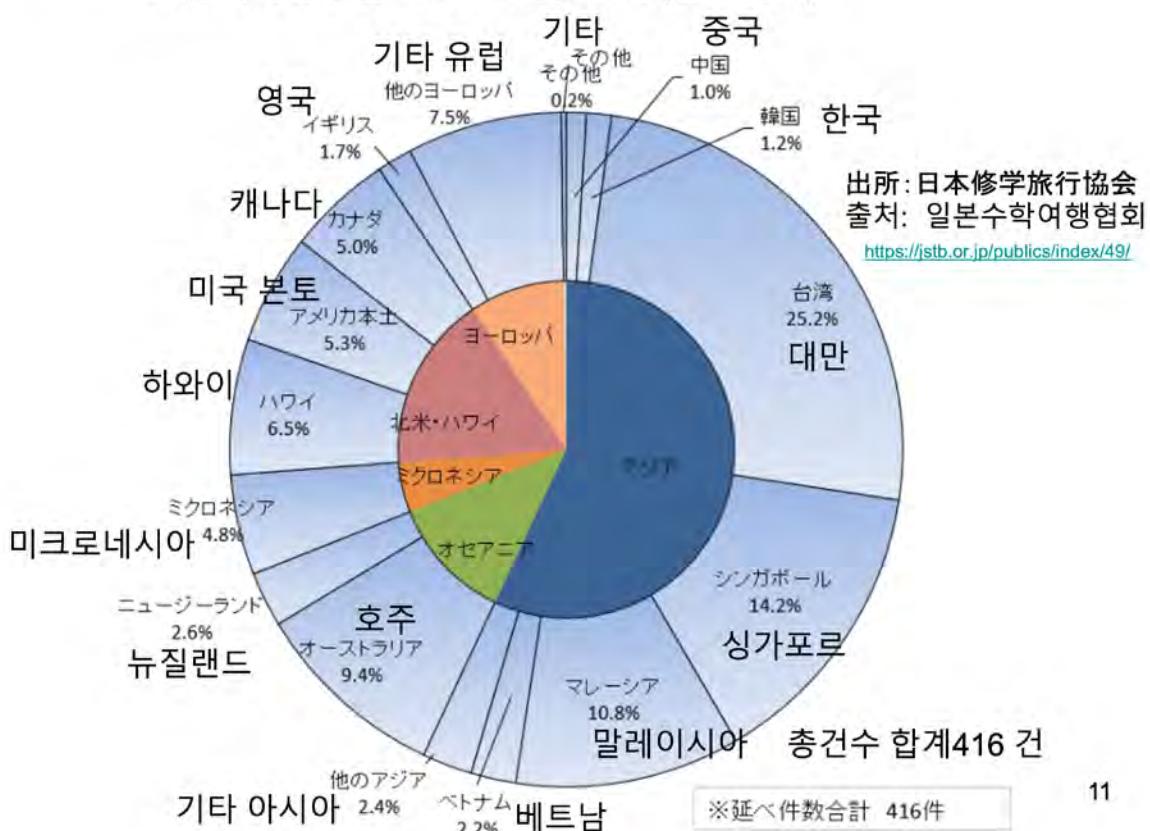
韓国を訪問先とする修学旅行が日本で激減 한국에 가는 수학여행이 일본에서 격감



	2011	2012	2013	2014	2015
Korea	1	1	6	8	12
Australia	2	2	3	2	3
Singapore	3	3	1	3	2
Taiwan	8	6	2	1	1

슬라이드 10

2019年 海外修学旅行の訪問国・地域別割合（件数比） 해외수학여행 방문 국가·지역별 비율(건수 대비)



11

슬라이드 11

동적인 행동이죠, 문학을 이해하는 것이니까요. 문화를 이해하려고 하는 감정들이 꽤 생겨나고 있는 건 아닐까 싶습니다.

페미니즘에 관해서는 일본도 공통된 과제가 있고, 이 역시 대단히 유명한 온라인 매체 (도요게이자이 온라인)에서도 ‘‘한국 페미니즘’’의 알려지지 않은 그 뒤’ 등 특집 기사가 나오거나, ‘서점 대상’이라는 영향력 있는 상의 번역 부문에서 한국 소설이 상위에 오르는 일이 있었습니다.

오늘은 첫 타자로서의 보고여서, 조금 주제를 넓게 발표했습니다. 대학 교수라는 입장에서 보게 된 몇 가지 구체적 예를 소개해 드렸습니다.

‘한류의 메커니즘을 어떻게 보면 좋을까’ 와 ‘정치 · 외교가 이대로 좋은 것일까’ 를 얘기할 때, 저는 물론 좋지 않다고 봅니다. 문화 교류에 대한 영향도 있습니다. 또한 팬덤의 영향력이라는 것도 SNS를 통한 대화에 따라 아주 매력적이고, 스타와 팬의 사회 참가 방식으로 더 깊이 이어 갔으면 하는

자료: 시즈오카현립대 및 게이오대 학생 보고서에서 보는 개운치 않음의 예

a. 政治と文化を切り離せない葛藤 a. 정치와 문화를 완전히 나눌 수 없다는 내적 갈등

일본의 가요프로에서 K-pop 가수가 출연하면 동영상을 돌려가며 열심히 시청했다. 그러나 내가 전뜩 좋아하고 있는 바로 옆에서 엄마는 그런 나를 회의적인 눈빛으로 바라보고 있었다. 엄마의 눈빛을 바꾼 것이 2020년 여름 <다이나마이트(Dynamite)>로 큰 인기를 얻은 BTS였다. 지금까지 K-pop이 자발적으로 다가가지 않던 사람이라도 어쩔 수 없이 들을 수 밖에 없었고 K-pop을 들을 기회가 많아졌다. 그로 인해 좋다고 느낀 많은 사람들 중 한 사람이 우리 엄마이다. 엄마는 BTS에게 흥미를 가진 것을 계기로 신오쿠보(일본의 코리안타운)에 가거나 자택에서 패자주 한국드라마를 시청하게 되었다.

나로서는 “내가 좋아하는 것을 가족들이 이해해 줘서 너무 좋다”. 그러나 나도 엄마도 한국에 대해 정치와 문화를 따로 떼어서 보고 있다. 물론 앞으로도 계속해서 정치와 문화를 따로 놓고 생각하기는 어려울 것이다. 언젠가는 마주해야만 하고 그렇게 해야 앞으로 전진할 수 있다는 것도 인식하고 있다. 그러나 적어도 지금의 나는 한국에 대해 “대중문화는 매우 매력적이나, 정치적으로는 복잡한 나라”라고 생각한다. (게이오 A씨)

b. 政治ニュースの韓国とInstagramの韓国のギャップへの葛藤 b. 정치 뉴스 속 한국과 인스타그램 속 한국 사이 갭에 대한 내적 갈등

어릴 때부터 뉴스에서 보는 한국은 “좀 무서운 나라”이며, “잘 이해할 수 없는 나라”였다. 일본과는 영토와 역사 문제로 갈등을 빚고 있는 이미지가 있어 좋은 뉴스는 본 기억이 거의 없다.(중략)
그러나 내가 고등학생, 대학생이 되면서 인스타그램을 사용하게 되자 일본의 MZ세대는 한국에 대해 매우 좋은 인상을 갖고 있는 것 같았다. 마치 방송에서 본 나라는 다른 나라의 일이 화제가 되고 있는 것처럼 SNS상의 한국은 세련되었다. 이는 나에게 있어서 한국에 대한 새로운 ‘시각(바라보기)’이었다. 그리고 일단 한국에 대한 좋은 ‘바라보기’를 의식하자 한국의 패션이나 아이들, 드라마 등 지금까지 주목하지 않았던 것이 한꺼번에 눈에 들어오게 되면서 생활 속에서 한국을 의식할 기회가 생겼다.

이와 같은 매력적인 한국과 뉴스 속에서 나타나는 한국에는 상당한 거리감이 있었으며 그런 거리감 때문에 한국에 대해 “잘 이해할 수 없는 나라”라는 이미지는 더 심해졌다.(시즈오카 B씨)

c. 文化消費と政治的価値観・世代間の差への葛藤 c. 문화 소비와 정치적 가치관·세대 차에 대한 내적 갈등

고등학교 2학년 때 한국 아이돌의 뮤직비디오와 공연 영상을 본 후부터 그 이전에 한국에 대해 갖고 있던 마이너스 이미지는 상당히 줄어들었다. 오히려 연예계, 패션, 뷰티 등 그 당시 내가 마침 흥미를 가지기 시작한 분야에서 일본과는 사뭇 다른 스타일을 갖고 있는 한국을 앞서가는 나라라 생각하며, 매우 극단적으로 고평가하던 시기도 있었다.

그러나 어디까지나 취미로서 소비를 하다 보니 점차 일한 간의 정치적인 관계, 입장, 가치관의 차이 등에 대해 개운치 않은 감정을 가지게 되었다. 그리고 아버지가 한국의 정치, 문화, 심지어 한국에 사는 사람들조차 싫어한다는 것이 더욱 이런 개운치 않은 감정의 한 요인이 되고 있는지도 모른다.

(시즈오카 C씨)

d. BTSと朴槿恵～魅了する文化と不安定な大統領の国に対する葛藤 d.BTS와 박근혜～매력적인 문화와 불안정한 대통령의 나라에 대한 내적 갈등

내가 한국문화를 친근하게 느끼게 된 것은 중학교 2학년 때였다. 같은 반에 한국의 아이돌인 BTS, 트와이스를 좋아하는 친구가 생겼다. 한국문화가 얼만큼 일본인을 매료시키고 사랑 받았는지는 말할 필요도 없다. 그러나 나는 한국에 대해 특별한 감정이 있었던 것은 아니었다. 그렇기 때문에 무엇이 세상을 그렇게 만들고 있는지 그 때도 상당히 신경 쓰였다.

한편으로 <정치>는 어떨까? 나는 일한관계에서 그다지 좋은 인상을 갖고 있지 않다. 그보다 먼저 한국이라는 나라의 안전성을 믿을 수 없었다. 내가 한국의 대통령 중에 가장 먼저 생각나는 사람은 박근혜 전 대통령이다. 그녀는 내가 초등학생 때 대통령이었다. 지금 그 분은 체포되었다. 국가의 정상에 있던 사람이 체포되다니 일본에서는 생각하기 어렵다. 그 분 뿐만이 아니다. 역대 대통령 중에는 암살된 사람도 있다.(시즈오카 D씨)

부분이 있습니다. 문화는 지금 '소비' 가 됐지만, 그 나라의 문화를 '이해' 하는 것으로 이어지고 있는지, 이 지점이 포인트 아닌가 싶습니다.

오늘은 20 분 이내 발표여서 상당히 빠르게 발표를 해 동시통역 분들에게는 대단히 죄송하게 됐습니다. 이해해주시면 감사드리겠습니다. 들어주셔서 감사합니다.

e. 反日・親日騒動と嫌韓助長への葛藤 e. 반일·친일 소동과 혐한 조장에 대한 내적 갈등

일본에서는 가녀리고 청순하게 연출되기 쉬운 여성인, 한국에서는 자신의 의견을 가진 강한 모습으로 그려지는 일이 많다는 것을, 한국 엔터테인먼트를 통해 처음 알았다. 일본이 배울 점도 많이 있어 흥미롭게 생각했다.

한편, 한국 연예인의 사소한 언동이 **반일적, 친일적이라 하는 소동**을 몇 번씩 봐 왔다. 현재 나의 바라봄 가운데 하나로는, 한국인들이 일본인보다 정치와 역사에 관심이 있고, 개개인이 강한 의견을 갖고 목소리를 낸다는 것이다. 그렇다고 해서 한국인이 무슨 말을 해도 받아들이겠다는 것은 아니지만, 이러한 국민성의 차이가 **일본인의 혐한 의식을 필요 이상으로 가속시키는 건 아닐까** 생각한다. 정치에 있어서도, 문화 교류에 있어서도, 서로를 이해하고, 부정적인 바라봄을 바로잡기 위해 노력할 필요가 있을 것이다. (게이오 E씨)

f. 政治的表明とその反発への葛藤 f. 정치적 표명과 그 반발에 대한 내적 갈등

2018년 겨울이었다. 잊을 수 없는 **원폭 티셔츠 소동**이다. BTS 첫 일본 내 둠 투어를 목전에 둔 11월의 일이었다. TV를 켜자 아침, 점심 가릴 것 없이 연일 이어지던 보도를 기억한다. 당시 나는 정치와 문화를 그렇게 연결 지을 필요가 있는 건지, 의문스럽게 느꼈다. 그러나 그것이 일한관계의 현실이라고 깨닫는 데는 시간이 오래 걸리지 않았다. BTS의 첫 도쿄돔 공연 당일, 그 앞에서 헤이트 스피치를 하는 남성을 보고 말았기 때문이다. 인터넷 상에서도 **BTS의 도쿄돔 공연 중지를 바랍니다**, 라는 해시태그가 연일 트렌드에 올라 왔다.

일본에서 한국에 대해 비판하는 사람을 볼 때마다 의문은 커졌다. 정말로 한국이나 한국인이 모두 나쁜 것일까? 애초 일본인은 제대로 역사 교육을 받은 것일까? 어느 쪽 질문에도 분명하게 답을 내리지 못한 나는 대학에서 배우기로 했다. (시즈오카 F씨)

g. 政治の文化への介入と「推し」の反日疑惑への葛藤 g. 정치의 문화에 대한 개입과 "최애"의 반일 의혹에 대한 내적 갈등

'문화와 정치는 별개 문제'라는 사람도 있다. 그러나 때로 일한의 **정치적 문제는 일한 문화교류에도 개입**해온다. 일한관계가 악화된 때, K팝 아이돌 방일이 어려워지거나, **자기가 좋아하는 '최애' 아이들이 반일 일지도 모른다며 불안해지거나**, 일한의 정치적 문제로 마음껏 아이들을 응원할 수 없는 사람이 있다. 정치 문제에 관계 없이 서로의 문화를 사랑하는 것은, 간단한 것처럼 보여도 실제로는 서로 분리할 수 없다. 나는 학생 때 그와 같은 경험을 몇 번씩 했다. "한국 문화를 좋아한다", "K팝을 좋아한다"고 말하는 것만으로 **일부 어른이 정말로 싫은 얼굴을 할 때마다 슬픈 기분**이 되었다. 그 때부터 나는 일한관계가 한 시라도 빨리 개선될 것을 바라고 있다. (게이오 G씨)

h. ファンダムのSNS投稿と素直に楽しめない葛藤 h. 팬덤의 SNS 투고와 순수하게 즐길 수 없는 내적 갈등

어릴 때부터 한국 문화가 가까이에 있던 나에게, 한국 문화를 즐기는 것은 자연스러운 일이고, 늘 새로운 움직임을 불러일으키는 한국을 틀림없이 동경하고 있었다.

한편, 한국 문화를 즐기는 가운데서도, 다양한 일한 문제가 존재하는 것에도 눈을 돌리지 않을 수 없게 됐다. 한 **K팝 아이들이, 일본 연호가 레이와로 바뀌었다는 것을 언급한 SNS에 한국인들이 많은 비판 댓글을 달았다**. 일본 TV프로그램에 한국인이 출연한 것에 대해 심한 말을 하는 사람도 인터넷 상에서 볼 기회가 있었다. 또한 나 자신, 한국 문화를 좋아한다고 하는 데 대해 **주위 사람이 싫은 얼굴을 한 적도 있었다**. 좋아하는 것을 있는 그대로 즐길 수 없는 상황에 심적 갈등을 느꼈다. (시즈오카 H씨)

i. アーティスト批判の嫌韓論への葛藤 i. 아티스트 비판 혐한론에 대한 내적 갈등

나는 K팝과 동시에 한국의 언어, 음식, 드라마 등 다양한 한국 문화에도 관심을 갖게 돼, 인터넷 상에서 한국 문화에 관한 기사나 동영상을 보기 시작했다.

그러자 기사와 동영상에, **한국에 대한 비판 댓글이 다수 있는 것을 보고 충격**을 받았다. K팝이 일본 젊은이 사이에서 대유행하고, K팝 아티스트가 일본에서 라이브와 TV프로그램 출연 등으로 크게 활약하고 있다는 기사에 대한 댓글이었다. 그 댓글은 "이들은 일본에 있는 팬에 대해 별 생각이 없다. 일본에 그저 돈 벌려 온 것일 뿐이고, 일본을 싫어 한다"라는 내용이었다.

나는 댓글에 대해 팬으로서 분노를 느꼈지만, 그 외에도 비슷한 댓글이 있었고, 이러한 생각이 소수가 아니라는 것을 알게 돼, 더욱 충격을 받았다. (시즈오카 I씨)

j. 以前は日本が韓国の中本だった葛藤 j. 이전에는 일본이 한국의 본보기였다는 내적 갈등

나는 무엇이든 일본은 한국에 비해 뒤떨어졌다고 생각하곤 했다. 정확하게 현실을 파악하고 있는지는 제쳐 두고, 내 안에서 일한의 '바라봄'은 이러한 것이다. 그러나 **예전에는 일본이 한국의 본보기와 같은 존재였다**는 이야기를 들었다. 경제적으로도, 기술적으로도 일본이 한 걸음 앞서 나갔다는 것이다. 문화도 그러했다고 한다. 얼마전, 연배가 있는 전문가분에게 메이크업을 받았을 때, 그 분이 이렇게 말했다. "지금은 뭐든 한국처럼 하네. 옛날엔 일본을 따라했었는데." 문화에 대해 우열 같은 것은 없다고 생각하나, **연예계를 생각했을 때, 어느 쪽이 세계를 석권하고 있는지는 명확하다**. 여기에서 기묘한 것이, 내 안에서, 예를 들어 일본과 유럽 각국을 비교했을 때와, 한국과 비교했을 때, 나타나는 감정이 다른 것이다. 어느 쪽도 선망의 마음이 강하다. 그러나 한국은 같은 아시아권이고, 과거 발전 도상국이었다는 데에서 한층 심하게 일본에 대한 낙담을 느끼게 된다. (게이오 J씨)

[제 1 부]

강연
2BTS 의 글로벌 매력
외적, 환경적 조건과 내적, 역량 요인

한준 연세대 교수

안녕하십니까? 제 발표자료를 화면에 보실 수 있도록 올려드리고 발표를 시작하겠습니다.

제가 오늘 발표드릴 내용은 ‘BTS의 글로벌 매력’이라고 하는 주제입니다. 작년 한국 동아시아연구원에서 ‘BTS의 소프트 파워’라고 하는 개념과의 관련성을 국제관계적 측면과 문화적 측면에서 여러 학자들과 연구했던 내용 일부를 책으로 냈고, 그것을 발표 드리려고 합니다. 우선 ‘BTS가 과연 어떤 그룹인가’ 말씀드리겠습니다. 이름은 많이 들어 보셨으리라고 생각됩니다. 대표적인 BTS 관련 사실 몇 가지 간단히 말씀드리고, BTS가 어떻게 이렇게 많은 인기를 얻게 되었는지 말씀드리도록 하겠습니다.

1. BTS 는 누구: BTS 글로벌 성공의 의미

BTS는 2013년도 7명으로 결성된 힙합그룹입니다. 한국에서는 결성된 뒤 바로 인기를 얻었지만, 외국에 진출한 것은 2017년도 빌보드 차트에 처음으로 진입하고나서입니다. 그 후 미국 빌보드나 영국 오피셜 차트, 일본 오리콘 차트에서 1위를 했습니다. 2020년과 2021년 팬데믹 상황에서 해마다 미국의 빌보드 핫 100 1위에 3곡을 올리게 됩니다. 최근 가장 음악을 많이 듣는 스트리밍 서비스, 아이튠즈나 스포티파이, 애플뮤직에서도 역시 1위를 합니다. 2020년 기준으로 유튜브에서 50억뷰에 근접했고, 지금은 훨씬 많이 늘어났습니다. 2020~21년에는 하루 안에 신곡 1억뷰를 모아 세계적 기록을 남기기도 했습니다. 음악상 수상을 보면, 빌보드 뮤직어워드, 아메리칸 뮤직어워드에서 수상하고, 2020년 기준 전세계 매출 1위를 올렸다고 국제음반산업협회 공식 보고서에서 이야기를 합니다. 그야말로 명실상부한 글로벌 스타라고 할 수 있겠고, 한국뿐만 아니라, 미국이나 서구에서도 많은 연예인들이 좋아하는 연예인으로 각광을 받고 있습니다.

여기 BTS 멤버들 얼굴들이 보이시지요? 제 화면을 보시면 배경에도 BTS 가 있습니다. 자, 그러면 ‘BTS 의 글로벌한 인기가 어떤 의미를 갖는가’, ‘어떤 점에서 한국에 중요한가’ 를 보게 되면, 한류에 대해 아쓰미재단과 미래 인력연구원이 함께 열었던 세미나에서 겨울연가와 같은 드라마들을 중심으로 얘기했을 때는, 중화권에서 시작된 한류가 일본에 퍼졌던 아시아에서의 한류 시기였던 것으로 기억합니다.

하지만 2010년대 초반까지 소수 한국 영화, 드라마를 제외하면 대중문화의 한류는 아시아권에 한정돼 있었습니다. 그리고 그 뒤 대중음악 한류가 외국에 퍼져 나가서 인기를 끌게 됐을 때, ‘아이돌 그룹들은 대형 기획사가 중심이 돼 혹독한 연습생 훈련을 통해 획일적으로 만들어진 것이 아니냐’ 는 비판도 존재해 왔습니다. 아마 여기도 기억하시는 분들이 많겠습니다만, BTS 의 성공은 2012년 싸이의 ‘강남스타일’ 이 빌보드 탑 100에서 1등은 못하고 2등까지 올라갔고 글로벌한 성공을 거뒀습니다. 그러나 그것은 한번으로 끝났습니다.

이것을 BTS 가 이어받아 2017년부터는 매년 글로벌한 히트곡, 1위곡을 만들어내고 있는 일종의 지속 가능한 글로벌 성공의 의미를 갖는 것이 아닌가 싶습니다. 한마디만 덧붙이자면 그동안의 한류, K 팝의 글로벌 성공은 대형 기획사들의 획일화된, 일종의 공장에서 만들어낸 것 같은 음악이라는 비판을 받기도 해왔는데, BTS 는 많은 ‘아미’ 들이 주장하는 것처럼 ‘중소기획사 출신의 분투하는 아이돌의 성공담’ 이고, ‘그들의 목소리가 좀더 반영돼 있다’ 는 점에서 의미가 큰 것이 아닌가 싶습니다. 실제 BTS 노래 중 바로 빌보드에 올라간 첫 앨범 ‘러브 유어셀프’ 라는 노래를 보면 이런 가사가 나옵니다. 자신들의 이야기 혹은 무명 시절이거나 무명을 겨우 벗어났을 무렵, 대형 기획사가 아닌 중소 기획사 아이돌의, 자신들의 느낌을 그대로 이야기했던 것 같습니다.

2.BTS 의 글로벌 성공은 어떻게 가능했는가

그러면 이제부터 BTS 의 글로벌 성공이 어떻게 가능했는지 두 가지로 나눠서 말씀드려 보겠습니다. 먼저 외적이고 환경적인 요인입니다. 그리고 두 번째가 내적이고 역량적 요인입니다.

① 외적이고 환경적 요인

먼저 외적이고 환경적인 요인을 말씀드리면, 중심과 주변으로 나뉘어 있던 글로벌 문화의 위계적인 구조가 약해지거나 혹은 해체되어가는 현상이 있습니다 (슬라이드 1). 화면 맨 아래 보시면 2012년 도쿄대에서 한류 대중문

중심-주변 글로벌 문화의 약화 혹은 해체

- 서구우월주의 입각한 보수주의 및 토착적 자생적 문화 강조하는 비판적 관점에서 볼 때 BTS 성공은 불가능
- 20세기 후반 이후 시작된 다문화주의와 그에 따른 글로벌 문화의 중심-주변 관계 약화는 편견을 줄여 BTS 성공 호조건 제공
- 서구/비서구 문화 간의 자유로운 교류, 상이한 문화에 대한 상대주의 입장 강조하는 자유주의 관점은 BTS의 가사와 상응
- 구조적 제약이나 사회적 고정관념에서 벗어나 진정한 자신을 찾아가라는 것이 BTS의 자유주의적 메시지
- 2012년 동경대 토론회에서 한류를 미국 중심 대중문화에 대한 아시아적 대안 추구로 본 소노다 시게토(園田茂人) 교수의 발언

슬라이드 1

화와 관련된 토론회가 있었는데, 저하고도 교류가 있는 분입니다만, 소노다 시게토 (園田茂人) 교수님께서 “한류 음악이 미국 중심 대중문화에 대한 아시아적 대안이 아니냐”라는 발언을 하셨다는 신문기사를 본 적 있습니다.

그런데 일본이나 한국을 보면, 제가 20 대 무렵에도 사실 미국의 팝송을 더 많이 들었습니다. 아시아나 외국 곡들이 미국에서 인기를 얻기는 굉장히 어려웠습니다. 글로벌한 인기는 더더욱 어려웠습니다. 그런데 20 세기 후반, 90 년대부터 시작이 돼 2000 년대 와서 굉장히 강화된 서구의 다문화주의가, 어떤 면에서는 외국 가수들에 대한 거부감을 훨씬 줄여준 것 같습니다. 자유주의적 관점으로 봤을 땐, 서구와 비서구 문화 간의 자유로운 교류나 상대주의적인 입장에서 문화들을 이해하려고 하는 노력들을 강화시켜서 결국 수용성을 더 높이지 않았을까 하는 생각이 듭니다.

두 번째는 각 사회의 문화 안에서도 고급문화와 대중문화에 대한 편견이 없어지고, ‘옴니부어 (omnivore)’라고 하는 잡식성 취향이 늘어나게 되었다는 얘기입니다 (슬라이드 2). 외국을 보면 BTS 팬클럽인 아미들은 그냥 청소년들만 있는 게 아니라, 굉장히 교육을 많이 받은 엘리트 여성들이나 혹은 일부 남성들도 있습니다. 그 분들에게는 BTS 가 대중음악이라고 해서 그것이 가치가 적은 것이 아니라, 오히려 대중 문화를 통해 많은 감동도 받고, 자신의 삶에 많은 영감을 얻는다는 것들이 또 하나의 중요한 요인이 아닐까 싶습니다.

세 번째는 ‘훈종’, ‘하이브리드’라고 하는 문제입니다 (슬라이드 3). 한국에서 힙합을 한다는 것은 서구인의 눈으로 보면 굉장히 이상하게 보일 수도 있습니다. 한국에서도 힙합을 한다는 것은 웬지 한국적이지 않다고 하는 편견을 가질 수 있습니다. 그런데 이제는 그런 것들이 중요한 것이 아니고, BTS 와 같은 아시아권 출신 힙합가수들은 특인의 힙합과는 또 다른 새로운 형태의 음악으로 인지되고 있습니다.

문화적 위계의 약화와 잡식성 취향 등장

- 19세기 후반, 20세기 등장한 고급/대중 문화의 위계적 구분은 문화자본 전승을 통해 유지되었지만 20세기 후반에 들어 약화
- 20세기 걸쳐 글로벌 문화 교류에서도 위계적 취향의 영향이 뚜렷해서 문화적 자부심은 고급문화를 중심으로 함
- 유럽에서 처음 등장해서, 19세기 말 미국을 거쳐, 20세기 전반 비서구사회에까지 확산된 문화적 위계는 전반적으로 약화됨
- 문화적 위계를 대신해 다양한 문화와 예술을 즐기는 잡식성 (omnivore) 취향이 우세해지면서 대중문화 팬의 저변이 확대됨

슬라이드 2

문화적 가치로서 혼종(hybrid)과 진정성 결합

- 21세기 융합 시대에 다양한 혼종 등장. 특히 탈식민주의 산물로서 문화적 혼종은 20세기 중반 이후 문화적 창조의 원동력이 됨
- 한국에서 트로트와 관련한 왜색 논쟁은 이식/자생 이분법을 극복하는 혼종론에 의해 극복됨
- BTS는 힙합을 중심으로 한 댄스음악을 하지만 한국적 요소가 강한 언어와 내용의 가사를 담고 있는 혼종적 형태
- 강고한 중심-주변, 고급-대중의 경계가 약해진 상황에서 BTS의 혼종을 통한 혁신이 진정성이라는 무기로 글로벌 공감 얻음

슬라이드 3

한국에서도 일본의 엔카와 비슷한 트로트에 대한 논쟁이 있었습니다. 저는 그것을 ‘일본에서 이식된 것인가’, ‘아니면 자생적인 것인가’ 이런 문제의식이 잘못된 것이고, 트로트는 그야말로 식민 상황에서 시작돼 한국에서 자체적으로 발전해왔던, 또 일본과 병행해서 발전해왔던 새로운 하이브리드적인 문화라고 보는 시각이 옳다고 생각합니다. 그런 의미에서 BTS의 하이브리드적 시도가 자신들의 고유하고 깊이 있는 문제의식과 결합되면서 진정성이라는 인상과 깊은 감동을 줄 수 있지 않았을까 생각을 하기도 합니다.

마지막은 고하리 선생님께서도 말씀하셨지만, SNS와 같은 디지털 매체가 텔레비전과 같은 대중 매체를 대체해가고 있습니다 (슬라이드 4). 싸이의 인기가 유튜브를 통해 퍼져 나갔듯이, BTS의 곡들도 외국에 있는 아미들은 유튜브를 통해 먼저 본다고 합니다. 유튜브는 문화적으로 볼 때, 이른바 ‘게이트 키퍼’, 즉 전문가인 비평가들의 통제를 약화시키고, 실력이 있는 가수라면 누구나 자신의 실력을 검증받을 수 있는 기회를 제공하는 것으로 유명합

개인화된 디지털 매체가 대중매체를 대체

- 싸이와 BTS의 글로벌 인기의 빠른 상승은 Youtube를 통한 동영상의 빠른 확산에 힘입은 바가 큼
- Youtube는 문화예술계에서 대중의 선택으로 전문가들의 문지기(gatekeeper)의 역할을 대체하는 급진적 변화를 가져옴
- 비틀즈의 1964년 에드 설리번 쇼 출연이 미국 진출의 기회가 된 반면, 비서구권 가수들은 대중매체의 벽을 넘기가 쉽지 않음
- Youtube와 함께 BTS는 SNS를 통해 기존의 대중매체를 넘어서 팬들과 직접 소통하려 시도

슬라이드 4

음악 스타일과 퍼포먼스 능력의 탁월성

- 서구에서 보이 그룹 계보가 희미해진 상황에서 친근한 힙합 리듬에 세련된 멜로디와 절도 있는 댄스를 결합하여 매력을 어필
- EDM, 힙합, 흑인음악 등 최근 트렌드를 종합한 K-pop 스타일에 충실하면서 멤버 각자가 랩과 댄스에서 탁월한 퍼포먼스 보임
- 기존의 K-pop 그룹과의 차별성으로는 K-pop의 전형적 특징에서 벗어나 글로벌 트렌드에 더 집중해서 보편적이고자 함
- 전세계 청소년들이 Youtube를 통해 커버 댄스를 시도할 만큼 매력적인 군무를 선보임

슬라이드 5

니다. 바로 60~70년 전에 비틀즈라는 밴드가, 영국과 유사한 문화적 배경을 가진 미국의 ‘에드 설리번 쇼’에 출연하고 나서야 겨우 인기를 얻을 수 있었던 것과는 굉장히 다른, 새로운 기회가 아닐까 싶습니다.

② 내적이고 역량적인 요인

그러면 BTS의 내적이고 역량적인 요인들, 앞서 말씀드린 외적이고 환경적인 요인들은 사실 BTS에만 해당되는 것이라기보다는, 한국에서 K팝으로 성공하고자 하는 아이돌 밴드에 함께 적용되는 문제가 아닐까 생각됩니다. BTS가 가진 고유한 장점이 무엇일까 생각해 보면, 역시 예술적인 능력일 것 같습니다 (슬라이드 5). 음악 스타일 면에서 보면 아까 말씀드린 하이브리드로서 BTS는 EDM(일렉트로닉 댄스 뮤직), 힙합, 흑인음악 등 최근 트렌드 등을 종합해 자기들만의 메시지, 고민과, 같은 청춘으로서 동료들에게 전하고자 하는 진정성 있는 내용들이 결합됨으로써 참신함을 보여줬다고 생각됩니다. 이들 다수가 굉장히 훌륭한 댄서였고, 앞서 말씀드린 것처럼 대형기획

진정성과 정체성의 결합을 통한 공감의 확대

- 음악과 댄스 스타일이 글로벌 트렌드에 충실해서 좋아하게 만드는 배경이라면 가사 내용은 공감을 극대화하는 요인임
- BTS 힙합 음악의 가사가 갖는 매력적 특징은 다음과 같음
 - (1) 성장과 성공에 대한 자전적 서사의 구축
 - (2) 공감, 위로, 응원을 통한 부드러운 연대의식의 공유
 - (3) 향상심을 자극하는 메시지의 전달
- 성장과 인기의 단계에 따라 고민과 성찰, 아픔과 다짐을 가사에 담아 진정성을 보이고, 한국인으로서 정체성도 나타냄
- 긍정과 희망, 노력과 개선의 메시지로 글로벌 공감을 얻음

슬라이드 6

글로벌 팬덤으로서 아미의 강력한 지원

- 2017년 미국 언론의 BTS에 대한 관심의 주된 이유는 Twitter에서 가장 많이 언급된 뮤지션이었기 때문
- 한국에서 아이돌 팬덤은 2000년대 초반 소녀팬 중심의 과열된 양상에서 진화해 다양한 연령층 아우르며 분화되고 조직화됨
- BTS의 팬덤인 아미는 연령층의 다양화와 함께 글로벌하게 분포되어 한국 외 미국이 비슷한 규모임.
- 신곡 발매, 공연, BTS 관련 논란 등에 즉각 반응하며, 소속사에 대해서도 자신들의 입장을 내세우는 등 강한 영향력 발휘
- BTS는 다양한 디지털 매체를 통해 아미와 지속적 접촉을 유지

슬라이드 7

사에서 고된 훈련을 통해 만들어진, 인위적이지 않고 자신들이 즐기면서 만들어낸 창의적 콘텐츠를 갖고 있었습니다.

두 번째는 음악, 멜로디, 댄스뿐만 아니라, 그들이 전달하고자 하는 가사의 내용입니다 (슬라이드 6). 진정성과 관련된 얘기입니다. BTS의 가사를 분석한 제 동료 학자 이야기를 같이 말씀드려 보자면, ‘청춘이기 때문에’, ‘젊은 사람이기 때문에’ 성장과 성공에 대한 자기 경험을 서사로 표현하고 있습니다. 두 번째, 아까 고하리 교수님이 말씀해 주셨지만, 공감과 위로, 응원을 통해 연대를 하되 그것을 강하게 하는 것이 아니라 부드럽게 하는 연대의식, 그리고 향상심, 더 좋은 사람이 되고자 하는 희망적인 메시지들이 인류의 많은 젊은 사람들에게 공감을 불러일으키고 있지 않나 싶습니다. 특히 유엔에 가서도 자신들의 이야기를 당당하게 할 수 있는 만큼, 이들의 고민이 상당히 깊이가 있었다는 이야기들을 많이 합니다.

세 번째가 글로벌 팬덤으로서 아미의 강력한 지원입니다 (슬라이드 7). 한국에서 아이돌 팬덤은 꽤 오래된 현상입니다. 2000년대 초반 한류가 막 시

작될 무렵 한국 아이돌 그룹에 대한 팬덤 역시 굉장히 많은 인기와 관심이 있었지만, 부작용도 많았습니다. 왜냐하면 공부해야 할 소녀들이 빠져서 부모를 걱정스럽게 만든다는 것이었는데, 지금의 팬덤은 아미는 물론이고, 대부분 연령층이 다양합니다. 덧붙여 아미는 국제적인 분포를 갖고 있어서, 어떤 의미에서는 기획사와 아이돌 그룹만이 아니라, 기획사와 팬덤과 아이돌 그룹이 서로 긴장관계를 가지면서, 서로가 잘못되지 않도록 경계해주는 역할을 하고 있습니다.

3.BTS 이후의 K 팝과 한류의 현주소 · 전망

이제 한 5 분이 안 남았는데, 이런 BTS 현상에 대해 제 개인적인, 그리고 최신 한류에 대해 제 개인적인 경험을 몇 가지, 특히 한일관계를 중심으로 말씀드리고 마무리를 할까 합니다. 고하리 선생님께서도 말씀하셨지만, 한일 관계가 2010 년대 중반을 넘어서면서 굉장히 어려워졌습니다.

제 개인적인 이야기 두 가지만 말씀드리면, 저는 요리 클래스를 듣고 있는데, 선생님이 한국에 결혼해 오신 일본분입니다. 그런데 한일관계가 나빠지면서 열심히 듣던 수강생들 중에 그만두겠다고 하는 사람들이 나왔습니다. 저는 그것을 보면서 굉장히 가슴이 아팠는데, 국가 간의 관계가 외교적인 측면에서 아니면 정치적인 이유에서 나빠질 수는 있지만, 갑자기 그것 때문에 친하던 사람이 안 친해진다는 것은 가장 불행하고 가슴 아프고, 많은 사람을 괴롭게 만드는 일이 아닐까 하는 생각입니다.

한국에서는 최근 정치적으로 서로 다른 입장에 있는 사람들의 인간관계가 나빠지는 현상들이 있는데, 그런 경험들을 거치면서 조금 더 우리가 대범해지고 의연해지고, 정치적인 문제나 외교적인 문제와는 또 다른 민간 차원의 교류는 굉장히 중요하다는 생각이 듭니다.

저는 올해 한국사회학회 회장을 맡고 있습니다. 제가 부회장을 3년 전에 했는데, 그때 한일관계가 나빠지면서 일본사회학회와 함께 제가 회장님을 모시고 일본 동경에 가서 한국과 일본의 문화적 교류를 통해서 지금 현재 어려운 상황을 더 좋게 만들어야 한다는 희망적인 공동 선언을 했던 경험이 있습니다. 그런 의미에서 보면 앞으로 점점 더 노력을 통해서 저희가 극복해야 하지 않을까 하는 생각이 듭니다. 고하리 선생님도 말씀하셨지만, BTS 와 같이 때로 그들의 한마디 한마디가 자극이 될 수도 있지만, 기본적인 메시지가 글로벌하고, 인간적인 차원에서 인권적이고 가치를 공유하자는 메시지는 저는 굉장히 좋은 것이 아닐까 하는 생각이 듭니다.

마지막으로 한국 입장에서 BTS 가 인기가 있는 것, 그리고 많은 아이돌 그룹들이 세계시장을 노리는 것에 대해 우려의 목소리도 사실 있습니다 (슬라

BTS 이후 K-pop과 한류 현황과 전망

- BTS 이후 글로벌 K-pop 스타로의 도약을 원하는 아이돌 그룹이 빠르게 증가
- 비슷한 시기에 '기생충', '미나리' 등 한국 영화와 '오징어 게임' 등 한국 드라마도 글로벌 인기 누리며 영화제 수상
- K-pop 제작시스템의 변화가 없다면 BTS와 같은 후속 글로벌 스타는 어려울 가능성 존재
- 글로벌 스타가 되려는 아이돌의 경우 한국 팬덤에서는 '내한공연 오는' 아이돌로 거부감 갖기도 함
- 동아시아 첨예한 국가간 감정 대립 속에서 곤란한 상황도 발생

슬라이드 8

이드 8). 그 중 하나가 바로 처음부터 영어로 노래를 만들고 외국에 나가서 활동을 하다 보면, 결국은 아이돌들이 외국 스타가 되어버리는 딜레마가 아닐까 생각합니다. 그래서 농담처럼 그들 팬덤에서는 '내한 공연오는 아이돌'이라고 하는 표현을 쓰기도 합니다.

저는 BTS를 통해서도 일본에서 한국에 대한 많은 관심과 애정이 생겨나길 바라지만, 또 제 자신이 일본 영화나 드라마를 굉장히 좋아하는데, 한국의 젊은 사람들은 일본 문화나 일본과의 교류에 대해 열린 마음을 갖고 있다고 생각이 됩니다. 한일 간 항공편이 곧 많이 열리고, 늘어난다고 하는데, 제 주위에서는 일본에 빨리 가보고 싶다는 분들도 많이 계십니다. 저는 오늘 같은 행사들이 앞으로도 계속 열려서 좀더 많은 이해와 교류가 이어지기를 기대합니다. 발표 들어 주셔서 대단히 감사합니다.

【제 2 부】

미니보고



베트남에서의 K 팝 · J 팝

츄 · 스완 · 자오

베트남 사회과학원 문화연구소 상석연구원

[원문은 일본어 . 번역 : 윤재언 (릿쿄대)]

안녕하세요 , 베트남의 츄 · 스완 · 자오입니다 . 저는 베트남 사회과학원 문화연구소에서 상석연구원으로 근무하고 있습니다 . 아쓰미재단 장학생 출신입니다 .

오늘 발표는 아래 세 가지로 축약해 말씀드리고자 합니다 .

- 베트남에서의 K 팝 · J 팝
- 베트남으로부터의 K 팝 · J 팝
- 문화연구적 시점에서의 약간의 고찰

1. 베트남에서의 K 팝 · J 팝

베트남이라는 나라는 1990년대부터 도이모이정책 (역주 : 개혁개방정책)을 실행하고 있습니다 . 이전에는 전쟁이 계속됐지만 , 통일 후 사회주의공화국이 돼 , 도이모이정책을 실행했습니다 . 즉 해방 뒤 시장경제 국가가 돼 , 특히 국제교류가 활발해졌습니다 . 우선 베트남에서 본 동아시아 주요 국가의 이미지를 말씀드리겠습니다 (슬라이드 1).

우선 중국인데요 , 중국 제품은 값이 싸기 때문에 환영받습니다 . 중국 영화도 아주 좋아합니다 . 처음에는 중국 영화만 봤습니다 . 그 뒤 중국어 교육도 활발해졌습니다 . 그러나 중국 음악과 중국 팝은 전혀 그렇지 않습니다 . 그런 문화는 없는 상황입니다 .

일본에 대해선 , 일본 제품은 베트남 사람이 보면 튼튼한 제품이라 매우 좋아합니다 . 영화는 베트남 사람에게 이해하기 어려운 점이 많아서 그다지 좋아하지는 않습니다 . 만화는 인기가 있습니다 . 일본 기업이 진출해 있어 , 일본어 교육도 활발합니다 . 현재는 일본 음악 J 팝도 활발하게 즐기고 있습니다 .

한국의 경우 , 베트남에서 가장 인기가 있는 한국 제품은 화장품입니다 . 특히 여성용 화장품이 크게 인기를 끌고 있습니다 . 그리고 한국 영화 인기가 더 많아졌습니다 . 이를 계기로 한국어 교육도 활발해졌고 , 현재는 K 팝이 젊은

베트남에서의 K팝 · J팝 - 1

- 1990년대 : 베트남의 도이마이정책 (개방 · 시장경제 · 국제교류)
- 중국 : 제품 · 영화 · 중국어 교육
- 일본 : 제품 · 영화 · 만화 · 일본어 교육 · 음악 · J-POP
- 한국 : 화장품 · 영화 · 한국어 교육 · 음악 · K-POP
- 베트남 : 쌀 · 이주 노동자 · 베트남어 교육 (V-POP)

슬라이드 1

베트남에서의 K팝 · J팝 - 4

- 팬층: 1020세대(초,중,고, 대학생)
- 베트남의 1020세대 사이에서는 K팝이 보다 더 인기.
이유 : 멋있고, 즐겁고, 알기 쉽다.
- V팝 : K팝과 J팝의 영향을 받아 베트남 아이돌 그룹이 증가. 'V-POP' 이 서서히 인기를 얻고 있다.

슬라이드 2

이들 사이에서 아주 인기가 많습니다 .

자국 베트남은 우선 쌀 수출국이라는 점과 전세계에 노동자를 내보내는 나라라는 점이 있습니다 . 세계에서도 베트남어 교육은 활발해지고 있고 , 국내에서는 베트남의 팝 , 즉 V 팝이라는 것도 나오고 있습니다 .

베트남에서 지명도가 높은 J 팝은 , AKB48, BiSH, 노기자카 46, EXILE, 모모이로클로버 Z, back number 등입니다 . 젊은이들은 이런 뮤지션들의 뮤직비디오를 자주 봅니다 . K 팝의 경우도 여러가지 있는데요 , 그 가운데서도 블랙핑크 , 트와이스 , ITZY, BTS 등입니다 . 제 아이들도 뮤직비디오를 자주 봅니다 .

J 팝이나 K 팝도 모두 베트남 팬은 젊은 층 중심입니다 . 초등학교부터 중학교 , 고등학생 , 대학생입니다 . J 팝과 K 팝을 비교해 보면 , 베트남 젊은 층에게는 K 팝 쪽이 더 인기가 있습니다 . 그 이유는 “멋있다” , “즐겁다” , “알기 쉽다” 라는 세 가지입니다 (슬라이드 2).

2. 베트남으로부터의 K 팝 · J 팝

베트남은 J 팝과 K 팝의 영향을 받으며 최근에는 국내 아이돌도 늘어나, 독특한 베트남 V 팝도 서서히 인기를 얻고 있습니다. 대표적인 베트남 남성 아이돌은 Son Tung-MTP입니다. 지금 아주 인기가 많습니다. 대표적 여성 아이돌은 Hoang Thuy Linh이라는 가수입니다. 저도 이 쪽을 좋아합니다. 이 여성 아이돌은 민간적인 것, 베트남의 독특한 문화를 활용하고 있습니다.

최근에는 K 팝, J 팝 그룹에 참가하거나, 함께 공연하는 베트남 아이들도 많아졌습니다. 예를 들어, Ngoc Hung은 ‘Hanbin’이라는 한국명도 있습니다. 2022년 3월 한국 TEMPEST라는 그룹에 참가하고 ‘Bad News’라는 뮤직비디오에도 등장했습니다. 젊은 세대에게 아주 높이 평가받고 있습니다. J 팝에서는 2017년부터 일본의 BUZZ-ER라는 밴드에 참가하고 있는 Hau라는 남성도 있습니다.

베트남발 아이돌도 받아들여져, 방금 소개한 여성 아이돌 Hoang Thuy Linh의 뮤직비디오는 일본, 한국에서도 인기를 모으고 있습니다. 한국이나 일본 젊은이도 Hoang Thuy Linh의 뮤직비디오 댄스를 흉내 낸 영상을 인터넷에 올리고 있습니다.

3. 문화연구적 시점에서의 약간의 고찰

마지막으로 문화연구자 입장에서의 고찰을 말씀드리고자 합니다(슬라이드 3). 우선 문화산업에 대해 말씀드리겠습니다. 전체상으로 보자면 콘텐츠 산업은 일본과 한국이 앞서 가고 있습니다. 그 뒤 중국이 쫓아 가고, 가장 늦은 것은 베트남입니다.

문화연구적 시점에서 약간의 고찰

- 문화산업 :
- 콘텐츠산업 : **한국과 일본** (선발) ---- **중국**----**베트남** (가장 늦음)
- K팝 & J팝 : **한국** (대중화 · 국제화 중시) --- **일본** (일본다움을 중시)
- 진취적인 민간기업: 아직도 베트남 정부는 ‘문화산업’에 대해 생각만 하고 막상 정책은 펴지 않고 있다. 그러나 민간기업은 대담하게 먼저 ‘문화산업’을 시도하고 있다.

문화자원이라는 관점에서 V-POP의 가능성을 정부에서는 여전히 의문시하고 있다.

슬라이드 3

베트남의 눈으로 보면 한국은 대중화 · 국제화를 중시하고 , 일본은 일본
다움을 중시하고 있는 것으로 생각됩니다 . 이는 베트남인인 제 이미지입니다 .

다음으로 베트남 민간기업에 대해 말씀드리겠습니다 . 지금 베트남 정계는
'문화산업' 이라는 것에 대해 토론중입니다 . 명확한 모습을 띤 정책은 아직
나오지 않고 있습니다 . 그러나 지금까지 말씀드린 것처럼 젊은이들과 , 젊은
이들을 지탱하는 민간기업은 앞서서 용기 있게 문화산업에 힘을 쏟고 있습니다 .
정계는 문화자원으로서의 V 팝의 가능성은 아직 의문시하고 있지만 , 민
간기업은 대담하게 문화산업에서 활동하고 있습니다 .

시간이 되어 끝내겠습니다 . 들어주셔서 감사드립니다 .

[제 2부]

강연자와 토론자의 자유토론

사회 : 김웅희 (인하대 교수)

강연자 : 고하리 스스무 (시즈오카현립대 교수)

한준 (연세대 교수)

츄 · 스완 · 자오 (베트남 사회과학원 문화연구소 상석연구원)

토론자 : 김현욱 (국민대 교수)

히라타 유키에 (일본여대 교수)

(발언은 모국어)



김웅희

자오 선생님, 좋은 발표 감사드립니다. 베트남에서의 K 팝, J 팝, 그리고 V 팝의 현황에 대해서 아주 생생한 사진 정보를 바탕으로 좋은 분석을 해 주셨습니다. 마지막으로 V 팝의 가능성과 문화교류 시점에서 K 팝, J 팝을 비교해 주셨습니다. 좋은 발표 감사드립니다.

이어서 한국의 김현욱 선생님과 일본의 히라타 유키에 선생님께서 코멘트와 질문을 해 주시겠습니다. 먼저 김현욱 선생님부터 부탁드리겠습니다.

김현욱

안녕하십니까? 국민대학교 일본학과의 김현욱입니다. 저는 일본의 전통예술 문화 중에서 노(能)를 전공하고 있는 사람입니다. 오늘 이 자리에 가장 어울리지 않는 사람일 겁니다. 그래서 김웅희 선생님께서 의뢰해 주셨던 한달 전부터, 옛날 것을 하는 사람이 대중문화를 어떻게 하나 싶어 한달째 잠을 이루지 못했습니다. 이마니시상과 김웅희 선생님께서 책임을 지셔야 할 것 같습니다.

오늘 테마에 대해 제가 아는 분야가 아니라 질문 드리기도 어렵고 해서, 제가 공부하고 있는 분야에서 착안점을 찾아서 'BTS의 글로벌 매력'이라고 하는 부분에 하나라도 보탤 수 있는 요소, 아니면 연관성을 찾아볼까 하는 생각에 공부를 조금 했습니다. 공부하기보다 제 분야를 통해서 찾아보려고 노력했습니다. 오늘 한준 선생님이 발표하신 'BTS의 글로벌 매력'과 연동된 이야기가 될 것

같습니다. 특히 한준 선생님 말씀 중에, ‘내적 요소로서 공감, 위로’, ‘응원을 통한 연대의식의 공유’라는 점을 지적해 주셨던 부분에 가장 귀를 기울이며 들었습니다. 대중 예술이든, 전통 예술이든 문화적으로 어떤 가치를 가지는지, 또는 문화 속에서 주목받을 수 있는 위치를 만들 수 있느냐, 없느냐가 중요할 텐데, BTS의 매력 또는 인기배경을 저의 전공분야 노를 통해서, 착안점을 찾아서 접근해 보았습니다. 이를 통해 BTS의 인기배경이라는 점에서 연관성, 공통점을 발견할 수 있지 않을까, 조금 생각하게 되었습니다.

제가 공부하고 있는 노의 경우를 예로 들어 보면, 1920년대 출생하신 분으로, 1940~70년대 활약한 간제 히사오 (觀世壽夫)라고 하는 ‘간제류’ 중흥의 중요한 역할을 맡았던 분이 있습니다. 이 분이 활약했던 시기, 노는 물론 일본 예술 세계에 굉장히 큰 영향을 끼친 분입니다. 무사정권 에도시대가 끝난 후 조금 인기가 없어졌던 노의 세계에 다시 한번 불을 일으켰다고 말할 수 있는 분입니다. 이 분 한 분의 활약으로 인해 그런 시대를 맞이했다고 해도 과언이 아닌 예술가입니다. 간제 히사오는 예술가가 ‘호소력’, ‘호소’라는 단어를 인터뷰에서 쓰면서 노의 특징을 이야기했던 기사가 있습니다. 일본어로는 ‘웃타에카게 (訴えかけ)’, 한국말로는 호소력, 호소라고 번역하면 좋을 것 같습니다. 이 부분이 지금의 BTS 인기 배경에 적용되지 않을까 생각했습니다.

간제 히사오가 1967년에 했던 인터뷰에서, 세계의 연극 중에서 노가 갖는 특징은 웃타에카게, 즉 호소력이라고 말하면서 독자적인 특징이라는 얘기를 합니다. 간제가 말하는 호소력은, 드라마든 음악이든 댄스든, 어떤 분야에서든 춤을 추고 노래하고 연기하는 주인공과, 관객인 자신이 일체가 된 것 같은 것을 말합니다. 동화된 마음을 갖고 그 세계에 자신이 포함되어 가는 것으로 느끼면서, 그에 대한 매력과 재미를 느낀다고 얘기합니다.

13~14세기 무렵에 발생한 예술인 노는 가면극으로, 긴 생명력을 가지고 지금까지 계승되고 있는 가장 오래된 연극이라고 할 수 있습니다. 호소력이라고 하는 점에서 생각해보면, 무사들이 갖고 있던 ‘삶의 무상함’을 연기자는 물론 일반 관객도 공감할 수 있었다는 점이 중요한 것 같습니다. 연기자의 호소력과 호소력에 의한 공감이 노를 굉장히 오랫동안 일본에 살아남게 했던 요인이 아니었을까 생각합니다.

현대에 있어서도 재해나 재난이 일어나면 노 그룹들이 앞장서서 일본인들의 진혼이나 위로를 위해 공연을 하면서 적극적인 활동을 합니다. 이것 역시 노 예술인들이 자신들만의 세계에 빠져 있지 않다는 것을 보여줍니다. 제가 한준 선생님의 책을 사서 열심히 읽으면서 봤습니다. 여기서 말씀하셨던 것 같은데, 자신들만의 세계에 빠져 있지 않고 항상 사회와 소통하고 있다는 것을 BTS 매력의 하나로 들고 계시는데요, 바로 이게 노를 하는 사람들도 자기들만의 세계에 빠져 서 공연하는 게 아니라, 사회의 어려움 속에서 당신과 소통하고 있다는 것을 보여주는 부분입니다. 시대적인 거리감이 느껴질 수는 있는데, 이런 점에서도 노의 퍼포먼스가 갖는 매력을 호소력이라고 하는 말로도 표현할 수 있지 않을까, 대중의 감화라는 점에서 노와 BTS를 견줘봤습니다.

그리고 또 한 가지는, 노 예술인들이 아마추어 제자들을 이끌고 있어서, 지금 젊은 제자들이 많이 출고 있기는 하지만, 그 제자들에 의해서 경제적으로 도움을

받고 있고, 동시에 그 제자들이 ‘충성팬’입니다. 이것이 노 예술인들을 유지해 가는 원동력입니다. 공연에 달려가거나, 항상 응원해주고 있으니까요. 이런 충 성팬이라는 점에서, BTS ‘아미’와 직접 비교를 하기에는 적절치 않다고 현대 문화 전공 선생님들께서 말씀하실 수 있겠지만, 제 입장에서는 그런 공통점이 있지 않을까, 그게 바로 오랫동안 인기 있는 비결, 살아 남는 비결, 이런 것과 연동 시켜 생각할 수 있지 않을까 생각했습니다.

마지막으로 비전문가 입장에서 감상에 가까운 발언이 되겠는데요, 세대를 아우르는 퍼포먼스라는 점은 많은 평론가들이 말씀하셨을 것 같습니다. 그래서 이번 LA 공연을 찾아보니까, BTS 공연에 할머니, 딸, 손녀, 이렇게 비행기 티켓 끊어서 여행 삼아 오신 분들도 있었습니다. 예를 들어, 저스틴 비버 같은 굉장히 인기 있는 아티스트는 오히려 젊은 사람들에게 인기가 많고, 우리가 아주 잘 아는 레이디 가가는 젊기보다 조금 윗세대, 어른이라고 할까요, 세대가 갈라져 있는 팬층을 갖고 있는 데 비해, BTS는 3대가 즐길 수 있는 예능이라는 것입니다. 싸이 공연에서도 싸이가 “10 대 손들어, 20, 30 대 손들어” 외치고 손들고 열광 합니다. 이런 장면에서 목격하듯이 BTS 역시 세대를 아우르는 매력, 세대가 모두 공감해서 동참할 수 있게 하는 매력을 갖고 있다는 얘기를 할 수 있을 것 같습니다. 비전문가적 입장에서 제 감상입니다. 저는 노의 세계에서의 호소력과 감상적인 부분을 곁들여 얘기했습니다. 질문이라고 하기엔 별로 아는 게 없어서 여기까지 제 생각을 말하는 것으로 마치도록 하겠습니다.

■ 김용희

네, 김현욱 선생님 감사드립니다. 주로 BTS에 관련해서 한준 선생님 발표에 대한 감상 코멘트로 생각하고, 한준 선생님께 답변 준비를 기다리도록 하겠습니다. 혹시 이외에 나중에 한 번 더 기회를 드릴 테니까, 고하리 선생님 발표에 대해 질문이 있으시면 나중에 말씀해주시면 고맙겠습니다. 이어서 히라타 유키에 선생님 코멘트 부탁드리겠습니다.

■ 히라타 유키에



안녕하세요. 히라타 유키에라고 합니다. 주로 일한 팝 문화, 최근에는 오로지 드라마에 대해 연구하고 있습니다. 고하리 선생님, 한준 선생님, 강연, 그리고 이러한 일련의 한류 현상을 다른 각도로 개관해주신 자오 선생님의 미니 보고, 모두 대단히 흥미롭게 들었습니다. 감사드립니다. 각 선생님의 발표에 대해 코멘트 형태로 말씀드리고자 합니다.

우선 고하리 선생님 발표는, 일본에서 K 팝 현상을 통해 문화와 정치의 관계를 고찰한다는 대단히 흥미로운 내용이었습니다. 제목의 ‘개운치 않음’이라는 부분부터 조금 코멘트하겠습니다. 선생님 발표 가운데 거론하셨던 가토 케이키 세미나에서 폐낸 『‘일한’의 개운치 않음과 대학생인 나(「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし)』는 저도 흥미 깊게 읽었고, 학생에게도 추천하고 있습니다.

과거 제가 대학생이었던 1990년대 이미 이 개운치 않음을 경험했고, 아마 2000년대 초반 배용준 팬 등도 포함해, 줄곧 이 개운치 않음이라는 문제가 있었습니다. 그리고 한국의 팝 문화에 빠지는 ‘두근거림’과 역사문제나 주위의 발언 등에서 오는 개운치 않음 사이 어딘가에서, 일본 팬의 정체성이 형성되는 측면이 있지 않은가 생각합니다.

다만 이 두근거림 부분에 대해서는, 젠더화되어 그다지 중시되지 않는 풍조가 있었지만, 실은 최근 가장 중요한 부분으로 부상하는 것은 아닌가 생각하고 있습니다. 그리고 이 두근거림과 개운치 않음 사이에 있는 사람들이 증가해, 그 층의 다양화와 함께, 저연령화해 온 것이 현재 상황이 아닌가, 고하리 선생님 발표를 들으며 느꼈습니다. 물론 한편으로, 이러한 개운치 않음과 그다지 관계없는 곳에 있는, 다른 곳에 관심을 가진 팬도 확실히 존재감을 높이고 있다고도 말할 수 있을 것입니다.

여기서 한 가지 여쭤보고 싶은 것은 선생님이 정리 발언 중에서 제시하신 ‘정치 · 외교와 문화, 이대로 좋은가’라는 부분과 ‘문화소비는 문화이해로 이어지는가’라는 물음에 대해서입니다. 선생님 나름의 의견을 들려주셨으면 합니다.

이어서 한준 선생님 발표는 K팝 아이돌 그룹 BTS의 글로벌한 성공 요인에 대해, 안과 밖에서 분석하신 대단히 중요한 내용이었다고 생각합니다. 그 가운데에서도 특히 신성성(神聖性)과 정체성의 결합을 통한 공감의 확대에 대해 저 나름대로 코멘트하고자 합니다.

이와 크게 관련되는 것은 역시 한 선생님이 지적하신 ‘개인화한 디지털 매체가 매스 미디어를 대체하고 있다’는 부분으로, ‘화양연화’나 ‘LOVE YOURSELF’ 등, BTS의 이야기성과 같은 것이 크게 관련돼 공감 확대로 이어지고 있다고 봅니다. 그리고 그에는 디지털 매체의 역할을 빼놓을 수 없습니다. 트위터 등에서 팬의 발신과 연결의 중요성은 말할 나위도 없지만, 일본에서 바라보면, 이는 BTS 뿐만 아니라 다수 K팝 아이돌에게도 말할 수 있는 부분이라고 봅니다. 한국에서 출발한 웹툰이나 웹드라마 같은 것도 그 독자적 이야기를 확산시키는 도구가 되어 있다고 생각합니다.

BTS의 경우, 웹툰에서는 ‘화양연화’, ‘SAVE ME’ 등의 작품이 공개돼 있습니다. 뮤직 비디오 등과 함께 이는 명백히 글로벌하게 유통하기 쉬운 특성을 가진 콘텐츠라 말할 수 있겠습니다. 디지털 매체를 통해 이야기를 보여줌으로써, 이야기가 여기저기에 접재하게 되고, 그것들을 팬이 부유하며 따라가는 구도로 이뤄져 있습니다.

여기에서 한준 선생님에게 한 가지 여쭤보고자 하는데요, 이 매스 미디어에서 개인화한 디지털 매체로의 변화 프로세스의 한국적 특징과 K팝의 연결점에 대해 조금 구체적으로 가르쳐 주셨으면 합니다.

마지막으로 자오 선생님 발표에서 K팝과 베트남에 관해 말하자면, 발표에 나온 Hanbin 이 멤버인 TEMPEST 는, 중국을 거점으로 한국에 지사를 둔 위에화 엔터테인먼트 소속이고, 수년 전이지만 한국의 RBW 등 프로듀스에 의한, 멤버 전원이 베트남이고 베트남을 거점으로 한 D1Verse라는 보이즈 그룹의 데뷔도 있었습니다. K팝이라는 말 자체가 2018년쯤부터 트랜스 내셔널한 전개에 의해, K라는 글자의 의미 변용이 지적되어 왔고, 이를 보여주는 사례가 자오 선생님 발표이지 않았나 싶습니다. K가 초래하는 부작용 등도 포함해, 글로벌한 관점에서 계속해 분석해 나갈 필요를 새삼 느꼈습니다. 이상입니다. 감사합니다.

김웅희 예, 감사드립니다. 제가 놓친 게 있어서, 한준 선생님에 대한 질문을 히라타 선생님, 다시 간략히 한번 정리해 주셨으면 좋겠습니다. 한국 매체와 한국적 특

정에 관련한 질문을 하셨잖아요. K 팝과 연계해 그 부분에 대한 질문을 다시 한번 정리해주시면 고맙겠습니다.

히라타 유키에 매스 미디어에서 개인화한 디지털 매체로의 변화 프로세스가 있었다고 생각되는데, 한국 미디어 상황에서 그 변화 프로세스 속에서 한국적인 특징과 K 팝 확산 관계에 대해 조금 더 구체적으로 가르쳐 주셨으면 한다는 질문이었습니다.

김용희 네, 잘 알겠습니다. 감사드립니다. 그리고 김현욱 선생님 혹시 추가적으로 하실 질문, 코멘트 있습니까?

김현욱 기초적인 질문이어서 고하리 선생님께 실례일지도 모르겠습니다. 예를 들어, 아미라는 팬 클럽에 대해 일본의 보통 사람들, 한국에 별로 관심이 없는 분들의 반응은 어떤지에 대해, 개인적으로 줄곧 알고 싶었습니다. 고하리 선생님이 조사하신 내용이나 거기에서 받은 느낌, 뭔가 아시는 게 있으시면 가르쳐 주셨으면 합니다.

고하리 스스무 죄송합니다. 질문 전반이 잘 안 들렸는데요, 팬 클럽은 한국에 있는 팬 클럽인가요? 아니면 일본인가요?

김현욱 일본인 팬 클럽입니다. 일본인의 아미 팬에 대해 다른 일본 분들은 어떻게 생각하고 있는지 질문입니다.

고하리 스스무 네, 알겠습니다.

김용희 네, 추가 질문 감사드립니다. 그러면 질문이 여러 개 나왔는데, 한준 선생님 먼저 코멘트와 질문에 대해 답변해 주실까요?

한준 네, 김현욱 교수님, 그리고 히라타 선생님 대단히 감사합니다. 김현욱 선생님께서 말씀하신 대로, 많은 대중들의 공감을 불러일으키는 예술은 사람의 마음을 움직이는 것이 중요한 것 같습니다. 예술의 내용이 사람의 마음을 움직이려면, 그 사람과 공유하고 있는 내용들이 먼저 전제가 되어야 하지 않을까 하는 생각이 듭니다. 그런 면에서 좋은, 새로운 사례를 말씀해 주셔서 감사하게 생각합니다.

유키에 선생님 말씀하신 부분들을 생각해 보면 이런 것 같습니다. 2000년대 초반 한국 아이돌들은 PC 통신이라고 하는 아주 초보적인 IT 커뮤니케이션이 있었습니다만, 그것들은 대중매체를 대체할 만한 수준까지는 못 됐던 것 같습니다. 그런데 한국의 지금 K 팝 아이돌들이 많이 시도하고 있는 것이긴 합니다만, BTS 가 좀 특징적으로 많이 했던 것이 있습니다. 트위터 같은 것들을 통해 아미들에게 메시지를 보내고, 유튜브로 자신들의 뮤직비디오를 올리는 것뿐만 아니라 ‘브이라이브’라고 해서 네이버와 같은 플랫폼과 함께 자신들의 일상생활들을 끊임 없이 팬들과 밀착해서 보여주는 노력들이 있었다는 생각이 듭니다.

그것보다 더 큰 맥락에서 보자면, 저는 이런 것 같습니다. 아미가 한국에도 많

지만, 미국이 그 다음으로 굉장히 많습니다. 일본도 그 다음 많은 것으로 알고 있습니다. 그들과 커뮤니케이션하는 것은 사실 쉽지 않은 것 같습니다. 자신들의 노래가 언제 나올 것이다, 그리고 내가 어떤 생각들을 하고 있고, 내 일상생활이 어떻게 하는 것을, 계속 끊임없이 보여주는 것들이 K팝 아이돌들의 일상이 되어가고 있지 않은가 싶습니다.

히라타 선생님이 사회학도 조금 공부하셨어서, 사회학에서는 어빙 고프만이라는 학자가 있습니다. 1950~60년대 활동을 했는데 이 분이 얘기하는 것은, 내가 보여주는 모습이 아니라, 남이 보는 나를 어떻게 매니지할 것인가, 인상 관리, '임프레션 매니지먼트'라는 표현을 쓰는데, 저는 지금 K팝 아이돌들에게는 이것이 굉장히 중요한 몫을 차지하는 게 아닌가 하는 생각이 듭니다. 그래서 어떻게 보면 실수 하나 하는 것이 굉장히 큰 위기를 낳기도 하고, 때로는 아주 감동을 주는 한 마디나 표정, 연사가 큰 반향을 불러일으키기도 하는 것 같습니다.

드라마나 영화, K팝, 특히 BTS 같은 경우에 공통된 케이컬처의 특징적인 면 중 하나로 한국말로 '신파'라고 합니다. 일본말로는 찾아보기가 쉽지 않았지만, 영어로는 '멜랑콜리'라고 하지만 그와는 또 다른 의미입니다. 어떻게 보면 감정을 자극하지만 동시에 개인적인, 그리고 말씀하신 것처럼 정말 호소력 있는 것들을 한국에서는 신파라고 합니다.

'오징어게임'이라는 드라마나 '기생충'이라고 하는 영화, 아니면 BTS의 많은 노래를 보면 저는 신파적 요소를 느낍니다. 왜냐하면 굉장히 잔혹한 내용인 오징어게임에서도 사람들은 살아남아 안도하는 것이 아니라 눈물을 흘립니다. 동료가 사라졌기 때문입니다. 기생충에서도 서로 적대적일 것 같은 집주인과 거기에 세 들어 사는 사람 사이에서도 아주 미묘한 정감들이 교류되고 있습니다. BTS 노래에서 보면 나의 얘기를 하는 것 같지만, 그것을 통해 뭔가 상대방에게 말을 걸려고 하고, 그것들이 아프거나 힘들거나 해도 희망적인 것을 하면서 사실 서구적인 입장에서는 굉장히 쿨하지 못한 것으로 느껴질 수 있다고 생각합니다.

그런데 전세계 젊은이들이 지금 쿨하기에는 너무 힘든 삶을 살고 있는 것이 아닌가, 힘든 것을 힘들다고 얘기하는 것을 실시간으로, 굉장히 개인화된 SNS 같은 매체를 통해 직접적으로 같이 한번 느껴보자는 이야기에 공감을 하는 것이 아닐까, 이렇게 제 개인적인 느낌을 말씀드리겠습니다. 감사합니다.

김웅희 감사합니다. 이어서 바로 고하리 선생님께 부탁드리겠습니다.

고하리 스스무 저부터 발언해도 괜찮을까요? 김 선생님, 히라타 선생님, 질문 감사드립니다. 우선 히라타 선생님 질문부터 답변하겠습니다. 히라타 선생님에게 개운치 않음 외에 두근거림이라는 말이 나와서, 조금 '두근거렸습니다'. 이 말은 앞으로 써야겠다고 생각했습니다. 말씀 가운데 "지금까지도 줄곧 개운치 않음이 있었던 건 아니냐"는 부분이 있었습니다.

분명히 저 스스로 한국을 조사하면서부터 이 개운치 않은 감정이 계속 있었습니다. 다만 많은 사람들에게 아마도 한국의 정치와 문화를 접하게 된 기간은 상당히 한정돼 있거나, 그렇게 깊이 생각하지 않았던 기간이 길어서 말이 일반화되지 않은 건 아닌지 모르겠습니다.

아까 사회자 김 선생님에게, 한국에서도 개운치 않음이 있었다는 얘기가 나왔는데, 제가 마침 90년대 한국에 있었고, 그 때 한국의 상당히 많은 사람들이 갖고 있던 일본 문화, 예를 들면 아무로 나미에나 엑스재팬 등에 대한 열광적 관심사가, 실은 지금 한국의 일본에 대한 대중 문화보다 강했던 느낌이 듭니다. 그 사람들 입장에서 보자면 예전 식민지 시대나 여러 의미로 일본과의 연결점 속에서 개운치 않음이 있었던 것으로 생각됩니다. 그러니 말씀대로 개운치 않음은 지금 시작된 얘기가 아닐지도 모르겠습니다.

처음 질문에 있던 ‘정치와 외교의 관계, 이대로 좋은가’를 말씀드리면, 물론 이대로 좋을 리가 없습니다. 그러면 무엇이 부족한가 하면, 문화는 문화로 순수하게 즐기면 된다는 ‘공통의 개념’이라고 할까요, 그러한 것이 일본, 한국 모두 조금 부족한 듯한 느낌이 듭니다. 무언가 일이 생기면, 그 문화를 즐기는 데 대한 위화감이나 이의 제기, 그리고 정치인의 발언 등으로, 아까 ‘친일 프레임’이라는 말을 썼는데, 그러한 것이 한국에서 상당히 간단하게 나오게 됩니다. 일본에서도 협한에 편승하는 듯한 발언 등을 느끼곤 합니다. 이러한 것을 없애는 것과 같은 일을 생각해야 하지 않을까 합니다.

한 가지 더 생각해야 하는 것은, 상업에 기반한 것은 그대로 두면 된다고 봅니다. 다만 한편으로, 상업에 기반하지 않은 중요한 교류라는 것도 몇 가지 있을 것입니다. 불가피하게 하게 되는 청소년 간 교류 같은 것입니다. 지금 걱정스러운 것은 코로나로 이 같은 교류가 없어졌다는 점입니다. 예전에는 관성으로 한 것일지 모르겠으나, 1년이나 2년에 한 번 열리는 교류 자체가 없어질 가능성이 있습니다. 이러한 것은 조금 더 지원하거나 의식적으로 진행하면 좋을 것입니다.

지금까지 무언가 문제가 생기면, 문화 교류나 청소년 교류가 없어지는 일이 있었습니다. 이러한 때, 예를 들면 한국 지자체가 일본 지자체와 교류를 하다 뭔가 문제가 생겼을 때, 한국이라면 한국 대통령실이, “정치 · 외교와 문화 관계는 상관없으니 문화교류는 계속 하세요”라고, 한마디라도 해주면 영향이 달라질 것으로 봅니다. 이러한 의미에서 말하자면, 정치 · 외교와 문화는 다르지만, 정치를 악화시키지 않기 위한 관리를 정치 쪽에서 조금 더 노력함으로써 바뀌지 않을까 생각합니다.

다른 질문인 “소비가 문화이해로 이어질지”에 대해서인데요, 이에 관해서는 아까 말씀드린 90년대 한국에서의 일본문화 소비가 좀처럼 이해로 이어지지 않았다고 저는 보고 있고, 윤사마 봄 때 ‘문화 소비 = 한국 이해’였는가 하면, 그렇진 않았던 것 같습니다.

여기에서 젠더 문제 등을 보자면, 일본에서는 ‘한국도 일본에서 느끼는 것과 같은 문제를 공통 과제로 안고 있구나’라 느낀 사람이 많았다고 생각합니다. 제가 있는 대학에서 ‘너는 여자니까 도쿄에 있는 대학에 가지 말고 지역 대학에 가’라는 말을 들었다는 학생이 있다고 할 때, 『82년생 김지영』에도 유사한 장면이 나옵니다.

무슨 말을 하고 싶은가 하면, 일본과 한국의 국력이 과거 수직적 관계였지만, 점점 수평적 관계로 변해왔습니다. 수평이라는 것은 경제면이기도 하고, 국제사회에서의 영향력이기도 한데, 무엇보다 아까 BTS의 메시지 발신에 대해 얘기했을 때 ‘인간의 안전보장’이라는 말을 썼습니다만, 젠더 등을 포함해 상당한 공

통과제가 있습니다. ‘과제 선진국’이라는 부분에서 상당히 겹친다고 한다면, 서로 완전히 떨어진 나라는 아닌 셈입니다. 완전히 발달한 나라도 아니고, 뒤쳐진 나라도 아니라는 의미에서 말씀드리면, 의외로 이해할 수 있는, 이해하려고 하는 측면이 나오게 된다고 봅니다.

아까 김현욱 선생님의 BTS 팬덤에 대한 질문과도 연관되는데, 조금 표현에 주의를 할 필요가 있긴 합니다만, BTS 팬들 중에 오피니언 리더 같은 사람이 당당하게 ‘늪에 빠졌다’라고 말하기도 합니다. 이는 온사마 때에 그다지 볼 수 없었던 것 같습니다. 제대로 조사한 건 아니라 명확하게 말씀드리기는 어렵지만, 그러한 층에서 무언가 좀 더 깊이 공부하고자 하는 사람이 나올 수도 있겠습니다.

다만 한국에서 일본을 봤을 때, 지금 한국에는 일본 대중 문화 붐이 일어나고 있지 않기 때문에, 어떤 계기로 일본 대중문화에 관심을 갖고 더욱 이해하고자 하는 분위기가 나타나는 데는 시간이 걸리지 않을까 싶습니다. 이렇게 방금 하라타 선생님의 질문에 대해 우선 답변드립니다.

다음으로 김현욱 선생님 말씀인데요, 일본 국내에서 일반인과 BTS 팬의 움직임에 관해, 물론 이런저런 일들은 있지만, 아까 말씀드린 원폭 티셔츠와 같은 민감한 문제를 다룬 티셔츠를 입었던 것에 대한 반발은 크게 있었습니다. 저도 대단히 부적절한 행동을 했다고 느꼈습니다. 다만 다른 몇 가지 측면에 대해선 그렇게 반발이 있는 이미지는 없습니다. 눈에 띄게 무언가 대단히 반발이 일어나거나, 커다란 운동이 생기거나 하는 눈에 보이는 형태로는 원폭 이외에 없는 것으로 생각됩니다. 지금은 이 정도로 답변 드리겠습니다.

김웅희 네, 고하리 선생님 답변 감사드립니다. 마지막으로 시간이 조금 오버가 되긴 했는데, 자오 선생님 코멘트가 있었으니까 간단히 한 말씀 해주시고, 2부 순서를 마칠까 합니다.

츄·스완·자오 하라타 선생님 코멘트 감사드립니다. Hanbin에 대해 실은 저도 잘 모릅니다. 이번에는 갑작스레 발표 기회를 얻어, 공부가 부족한 부분이 많습니다. 아까 선생님이 말씀하신 대로, 앞으로 여러가지 정보를 모아 지금부터는 Hanbin을 비롯해, 더욱 베트남 아이돌에 대해 공부하도록 하겠습니다. 감사드립니다.

김웅희 네, 감사합니다. 이것으로 2부 순서를 마치도록 하겠습니다. 강연자 선생님, 토론자 선생님, 진심으로 감사의 말씀을 드립니다. 이어서 제3부 질의응답 시간으로 들어가도록 하겠습니다. 3부 질의응답 진행은 두 분의 선생님들이 맡아주십니다. 부경대 일어일문학부 김승배 교수님, 부산대 사회학과 김은혜 교수님께서 제3부 순서를 진행해 주시겠습니다. 부탁드리겠습니다.

[제 3 부] 질의응답

사 회 : 김웅희 (인하대 교수)

진 행 : 김승배 (부경대 일어일문학부 조교수)

김은혜 (부산대 사회학과 조교수)

답변자 : 고하리 스스무 (시즈오카현립대 교수)

한준 (연세대 교수)

히라타 유키에 (일본여대 교수)

(발언은 모국어)



김승배 지금부터는 Q&A 기능을 사용해 시청자 질문과 코멘트를 중심으로 답변해주세요. 해주신 순서대로 읽어 가도록 하겠습니다. 처음은 한국분의 질문입니다.

“한일은 군사적 분쟁상태가 아님에도, 정치외교관계나 편견, 역사인식 혹은 교육의 왜곡, SNS 상 치우친 특이한 발언, 차별적 언동 등에 의해 양국 문화교류가 저해되는 건 슬픈 일입니다. 일본은 한국, 대륙에서 다양한 문화적 혜택을 입었고, 그것이 일본의 문화적, 정신적, 사상적, 정치적, 경제적 진보에 크게 기여해 왔습니다. 결코 문을 닫아 걸어서는 안된다고 생각합니다. 여러분께 드리는 질문은 이러한 소중한 이웃나라인 양국의 발전을 위해, 지금 특히 문화적 측면에서 한일 양국민은 서로 무엇을 해야 할지, 어떤 행동이 필요하다고 생각하시는지요?”

라는 질문입니다. “여러분께” 라 돼 있으나. 시간 관계 상 제 독단으로 한준 선생님께 여쭤보고자 합니다. 한준 선생님, 어떻게 생각하시는지요?

한준 저는 1990년대 한국에서 오랫동안 일본의 대중문화나 문화적인 교류를 막아왔던 것을 열었다는 것이 굉장히 중요한 의미를 갖는다고 생각합니다. 그리고 그런 자극이 한국 대중문화가 발전하는 데도 굉장한 큰 영향을 미쳤다고 생각합니

다. 왜냐하면 일본의 굉장히 발달했던 아방가르드적 문화나, 일본이 소화했던 서구 문화가 한국의 문화적인 잠재력을 키우는 데 큰 영향을 미쳤습니다. 그리고 나서 인적 교류도 많았습니다.

그런데 정치적으로 한일관계가 경색될 때마다 제도적으로는 아니지만, 사회 분위기적으로 오늘 말씀하신 ‘모야모야’ 한 분위기 때문에 주춤주춤하게 되는 것 같습니다. 저는 그런 분위기들이 점점 줄어들어야 되는 것이 아닐까 생각을 합니다. 전세계적으로 보면, 굉장히 불편했던 이웃나라들이 많이 있습니다. 그리고 지금 한국과 중국의 젊은이들, 또는 일본과 중국의 젊은이들 사이에 불편한 부분이 있을 것이라고 생각합니다. 중국은 정치적으로 굉장히 권위적이기 때문에 이런 문제를 해결해 나가는 데 있어서 좀 더 제약이 많다고 생각합니다. 하지만 한국과 일본은 외교적으로 지금 여러 가지 어려움이 있지만, 그 이전에 적어도 일본 문화를 한국에서 즐기는 데, 혹은 한국 문화를 일본에서 즐기는 데 법적인, 제도적인 제약은 없습니다.

그렇다면 사회 분위기적으로 그것이 조금 더 열려서, 고하리 선생님께서 말씀하신 것처럼 우리의 인식을 바꾸는 방향으로 갈 수 있는 것이 우리에게 중요하지 않을까 싶습니다. 제한된 수의 정치인들이 민족적 문제를 이용하는 것이, 국민들 서로 공유하고 교류하는 것에 의해 조금 더 세련되고, 서로에 대해 배려할 수 있는 방향으로 관계가 바뀌어 가는 것이 필요하지 않을까 생각합니다. 이상입니다.

김은혜 안녕하세요, 김은혜라고 합니다. 고하리 선생님께 질문이 들어왔고, 저는 (동시통역을 통해) 일본어로 질문이 들어왔지만 한국어로 이미 번역을 해 주셨기 때문에, 제가 읽고 전달하는 것으로 하겠습니다.

“개운치 않음”은 상당히 흥미로운 개념입니다. 이는 스스로 ‘최애’ 대상이 세간에서 정당하게 평가되지 않는 것에 대한 막연한 부정형의 불안 심리라 이해해도 괜찮을까요? 팬덤과 (평균치로서의) 국민감정과의 차이? 관심이 있는 것은 이 ‘개운치 않음’이라는 심리 상태 다음에 오는 것입니다. ‘개운치 않음’의 해소를 위해, 즉 이 정서적인 갭을 메우기 위해, 팬덤 자체가 무언가를 행동으로 옮길 필요성이 있는 것인지요? 팬덤의 정치화?”

고하리 선생님 어떠신지요?

고하리 스스무 우선 개운치 않음의 정의인데요, 지금 질문 안에 있는 대로, 자신의 ‘최애’ 대상이 평가받지 못하거나, 자신이 느끼는 것과 자국민 안에서, 일본으로 말하자면 한국에 대한 감정이겠죠. 이 갭이 있는 것이 아닐까 하는 얘기였습니다. 물론 양쪽 다 그렇겠지요. 그리고 두 가지 정도 더 예를 들면, 자신은 이렇게 한국에 관심이 있는데, 상대국 정치가나 여론에서는 왜 반일적인 목소리가 나오는 걸까라는 것이 하나입니다. 다른 하나는 객관적 상황으로, 문화 교류가 이렇게 진전돼 있는데 왜 정치외교는 제대로 돌아가지 않을까라는 것입니다.

간단하게 정리하면 ‘최애 대상에 대한 평가가 다르다’, ‘자국민과의 갭이 있다’, ‘상대국으로부터 납득 안가는 언동이 나온다’, ‘객관적으로 일한관계가

순조롭게 돌아가지 않는다’ , 이 네 가지 정도라고 생각합니다 . 그러나 이에 따라 일본 팬들 사이 무언가 불만을 느끼는 사람들이 사회적 행동이나 정치적 행동을 일으키는 건 생각하기 어렵지 않을까요 ?

다른 문제에서도 트위터 상에 몇 가지 의견이 나온 경우 일본에서 바로 사회적 행동으로 이어질 것이라고는 생각하기 어렵고 , 그렇게 되지 않으리라 봅니다 . 그렇게까지 하게 되면 자신들이 ‘문화는 별개’ 라 생각하고 싶은 사람이 많음에도 불구하고 , 더 깊숙이 들어간다는 용기를 포함해 , 설불리 꺼내기 어려운 얘기가 아닐까 생각합니다 . 이상입니다 .

김승배 네 , 감사합니다 . 계속해서 Q&A 에서 질문을 받고 있으니 , 시청자 여러분 , 질문이 있으시면 올려주세요 . 다음은 제가 질문 드리도록 하겠습니다 .

이번에는 히라타 선생님께서 답변해주시면 좋겠습니다 . ‘정경분리’ 라는 말이 있습니다 . 예전 일본과 중국 관계에서 정치와 경제를 분리하는 사고방식이 있었는데 , 그러면 정치와 문화에서 ‘정문분리’ 가 성립할지에 대해서입니다 . 이 말을 쓰는 분도 있을 거라 생각하는데 , 아직 시민권을 획득한 말은 아닌 것 같습니다 . 정치 · 경제와는 다르게 , 정치와 문화라는 것은 떼어낼 수 없는 것이 아닐까 싶습니다 .

방금 고하리 선생님도 정치와 문화에 대해 말씀하셨는데요 , 제가 알아들은 뉴 앙스트로는 고하리 선생님도 아마 정치와 문화는 그렇게 떼어낼 수 없는 것이 아닐까 하는 생각이라고 느꼈습니다 .

이건 제 생각이지만 , 정치는 기본적으로 권력 투쟁이나 힘에 주목합니다 . 저는 정치학자라서 그렇게 생각하지만 , 그러면 문화는 무엇인지 생각해보면 , 힘보다는 정체성 문제라고 생각됩니다 . 다소 질문이 커져 벼려 죄송합니다만 , 정치와 문화의 관계성에 대해 히라타 선생님께 뭔가 생각이 있으시면 답변 부탁드리겠습니다 .

히라타 유카에 질문 감사합니다 . 굉장히 커다란 질문이라 어떻게 답변하면 좋을지 바로 정리는 안됩니다만 .

아까 고하리 선생님 발표에 대한 코멘트에서 말씀드렸던 것은 , 지금까지도 정치적 관점에서 일본에서의 한국 팝 문화가 거론되는 일은 꽤 있었습니다 . 그러나 반대로 , 예를 들어 2000 년대 초 윤사마 봄 때를 봐도 알 수 있는 것처럼 , 아까 저는 두근두근한 부분이라 했는데요 , 팬들이 자신의 정체성 부분을 중요시하는 경향은 그렇게는 없었다고 생각합니다 .

다만 , 지금 아미 등이 굉장히 커다란 힘을 갖고 있고 , 팬의 존재가 중요시되지 않았던 풍조에서 , ‘아니야 , 역시 (팬이라는 것은 팝 문화를 말하는 데 있어서) 무시할 수 없는 중요한 부분이 아닐까’ 라는 식으로 (윤사마 봄 때보다도) 더욱 널리 인식되기 시작했다는 변화가 일어나고 있다는 게 현재 상황이지 않을까요 ?

그렇기 때문에 어떤 위치에서 말하는가 하는 문제가 될 텐데요 , 지금까지 문화를 소비하는 쪽이 과연 얼마나 정치적 부분에 관심을 갖고 행동하고 , 생각하는지라는 것과는 다른 부분에서 , (일한 팝문화를 엮어) 정치적인 얘기가 논해져 왔다고 생각합니다 .

저는 (팝 문화를 말하는 데에서) 팬의 힘이나 정체성적인 부분을 중요시하는 입장이고, 답변이 되었는지는 모르겠습니다만, 정치와 문화를 연결 짓는 것이 좋다, 나쁘다는 논의가 아니라, 팝 문화가 소비되는 과정을 어디서 볼지라는 ‘관점의 문제’가 아닐까 합니다. 이상입니다.

김은혜 김승배 선생님, Q&A에 시청자 분 질문이 있습니다. 부탁드려도 될까요?

김승배 네, 소개하겠습니다.

“한류 블, BTS 블이라 해도, 그건 우선 소프트 콘텐츠의 거래라는 비즈니스 레벨에 그치는 건 아닐까요? 일정 레벨의 (우수한?) 콘텐츠를 능숙하게 팔려고 하는 거래 쌍방의 비즈니스 노력이 성공을 거뒀다는 경제현상에 그치는 것은 아닌가요? 그렇다면 우선 ‘제품’ 품질 분석에 더해 예능 프로덕션 등의 판매촉진전략 분석이라는 비즈니스 분석은 어느 정도 되고 있는지요?”

라는 질문입니다. 이것도 고하리 선생님께 답변 받을 수 있을까요?

고하리 스스무 갑자기 질문을 받아서 바로 대답하기는 어렵네요. 아까 한 선생님 발표나, 서울대 흥 선생님 책도 그러하지만 비즈니스만은 아닙니다. 물론 어디까지 비즈니스 전략이고, 어디까지 그렇지 않은가는 분석하기 좀처럼 쉽지 않을지도 모르겠습니다.

예를 들어, 아이돌 판촉 방식이나, 지금까지의 K 팝 방식을 보면, 자니즈 것이라거나 일본 것을 상당히 모델로 하는 케이스도 있습니다. 아마 BTS 도 그러한 측면이 있겠습니다만, 그 이외에 어떤 비즈니스적인 것이 다른 모델과 다른지 분석할 필요가 있을 것입니다.

본인들의 저작권을 굉장히 느슨하게 대하는 게 아마 BTS 였을 겁니다. 아미가 여러 영상 콘텐츠 같은 것을 권리 관계 상관없이 만들어 올리는 일이 있습니다. 예를 들어, 콘서트 장면 등도 자신이 찍은 것을 그대로 SNS에 올려도 (기획사 측은 그냥) 묵인한다고 합니다. 이 묵인이 (확산을 노린 전략적인) 비즈니스 행위라 한다면 비즈니스 행위일 것이지만 그렇지 않고 그건 팬이 맘대로 한 자연발생적으로 일어난 것일지도 모르고, 생각에 따라 다소 달라지지 않을까 싶습니다. 지금 단계에서는 이 정도로 하겠습니다.

김승배 감사합니다. 그러면 아직 시간이 있어서 아까 토론이나 발표에서 뭔가 덧붙이고 싶은 게 있으시면 부탁드리겠습니다.

고하리 스스무 그럼 제가 말씀드리겠습니다. 아까 김현욱 선생님이 노에 대해 말씀하셨습니다. 이것도 의표를 찔린 느낌이 들어 굉장히 흥미로웠는데, 역시 대중문화연구 안에는 고전문화와 대중문화를 잘라내 생각하는 부분이 있습니다. 다만 왜 노가 남게 되었는가 하면, 노가 갖고 있는 보편적인 것, 고전문화로서의 재미만은 아닌 무언가가 있기 때문이라고 생각합니다.

BTS 가 몇 백 년 지나도 남아있을지 생각해보면 , 아마도 그렇게 될 것으로는 생각하기 어려운데 , 다만 고전과 대중문화가 어떻게 다른지 생각해야 한다고 느꼈습니다 . 느낀 점을 하나 말씀드렸습니다 . 이상입니다 .

김승배 네 , 감사드립니다 . 아직 시간이 있으니 그 밖에 다른 것 , 발표자분 , 토론자분 , 어떠신가요 ?

김용희 우리가 굳이 시간을 다 Q&A 에 쓰지 않아도 될 것 같습니다 . Q&A 를 효율적으로 해 주셔서 앞에서 오버한 부분이 상쇄된 것 같습니다 . 제가 한 말씀드리고 , 전체 세션을 마쳐야 될 것 같습니다 .

오늘 회의 부제에 ‘신한류현상’ 이라는 단어가 붙어 있는데 , 강연자 선생님 , 그리고 토론자 선생님들 , 그리고 질의응답 시간을 이끌어준 선생님들도 많이 언급하신 부분입니다 . 지금의 BTS 현상이 바로 이전의 한류와는 다른 신한류현상을 구성하는 주된 내용을 갖고 있지 않은가 하는 생각이 듭니다 . 그 개념이 오늘 구체적으로 나오지는 않았지만 , 지나고 보니까 부제를 잘 달았다는 생각이 듭니다 .

오늘 키워드 중에 하나가 ‘모야모야’ 감정 아니겠습니까 ? 지금 서로 간에 불편하게 개운치 않게 바라보는 상황 , 그러한 불편한 감정들이 한일 간에 가로놓여 있는데 , 어떻게 하면 한일 간에 서로의 문화를 서로 개운하게 즐길 수 있을까 , 깔끔한 기분으로 즐길 수 있을까 하는 것이 중요한 과제인 것 같습니다 .

현재 이러한 것들을 어렵게 하는 것이 정치의 늪입니다 . 정치적 갈등의 늪인데 , 문화가 정치적 갈등의 늪에 빠져 있는 것 같습니다 . 이런 부분들을 타개해 나가려면 , 상식적인 주장이긴 합니다만 , 양국의 리더십 , 매스컴 , 여론 , 시민단체를 포함한 트라이앵글 속에 갇혀 있는 여러 가지 정치와 문화의 악순환 구조 같은 것들과 단절하고 , 그 간의 갈등 경험에서 벗어나서 대체하고 유연하게 성숙한 길을 찾아야 될 것입니다 . 그것이 바로 정치와 매체 , 여론과의 우호적 관계 , 선순환 관계를 구축하는 것이 아닐까 하는 생각이 들었습니다 .

지극히 상식적인 말씀입니다만 , 여기에 계시는 모든 선생님들이 이 문제를 풀어 가기 위해 노력해야 할 텐데 , 그러한 문제의식의 출발점으로 의미가 있지 않을까 생각이 듭니다 . 여기까지 1, 2, 3부 전체 세션을 마치도록 하겠습니다 . 참석해 주신 선생님들 감사드리고 , 이어서 마지막 순서로 미래인력연구원 서재진 원장님으로부터 폐회사가 있겠습니다 . 서재진 원장님 , 부탁드리겠습니다 .

폐회사

서재진 미래인력연구원 원장



네, 안녕하세요. 저는 미래인력연구원 원장을 맡고 있는 서재진입니다. 작년에 이어 이번에도 제가 회의에 참석하고 폐회사를 담당하게 됐습니다. 아쓰미재단과 미래인력연구원은 아주 오랫동안 학술교류를 하면서 한일관계 발전에 학자들이 어떤 기여를 할 수 있을까, 이런 취지로 관계를 유지해왔습니다. 올해 2022년에도 이 회의가 열리게 된 것에 대해 대단히 기쁘게 생각합니다. 회의에 참석하신 모든 분들께 유익한 학술 회의에 함께 참여하신 것에 대해서 축하 말씀을 드리고 싶습니다.

오늘 두 분 선생님께서 발표하시고, 또 여러 선생님들께서 토론을 해 주셨는데, 발표와 토론이 대단히 흥미가 있고 유익했다고 생각합니다. 우선 한준 교수님께서 발표하신 내용을 보면서, BTS라는 그룹의 영향력에 대해서 ‘대중문화가 SNS 시대에 이렇게 변해가고 있구나’라는 것을 배우게 돼 개인적으로 아주 흥미 있는 학술 회의였다고 생각합니다. 우리는 언필칭 ‘SNS 시대’라고 얘기하는데, 대중문화가 이렇게 큰 변화를 겪고 있다는 것을 알게 됐습니다. 얼마 전까지 서구 문화가 주도적인 문화적인 영향력, 지배력을 행사했는데, 동양 문화가 지금 BTS를 기점으로 해서 세계적인 영향력을 행사하는 것도 순전히 SNS가 아니었다면 상상할 수 없는 현상이 아니었을까 하는 생각이 들었습니다.

두 번째로 고급 문화와 대중 문화의 경계를 허물었다는 SNS라는 것이 정말 흥미 있는 사실의 발견이었던 것 같습니다. 그 다음으로 대중매체, TV, 라디오, 영화관, 이런 대중 매체에 대비되는 개별화된 디지털 매체, SNS, 유튜브, 페이스북, 트위터, 이런 것들이 오늘날 BTS가 되게 한 결정적인 계기였다는 것을 알게 됐습니다. 문화들을 이해하는 새로운 프레임을 발견해서 기쁘게 생각합니다. 그로 인해, 팬들도 소녀팬, 소년팬에서 1대, 2대, 3대에 걸쳐 다양한 연령이 함께 공유하는 문화가 됐다는 것을 재미있게 들었습니다.

또한 고하리 선생님 강연을 통해 일본에서 일어나고 있는 한국 대중문화에 대한 현상을 ‘개운치 못한 감정’이라고 표현한 것이 오늘 이 학술회의의 최고의 기억 아닌가 하는 생각이 들었습니다. 이 부분도 참 의미 있게 생각합니다. 왜 일본 사람과 한국 사람들이 서로 가장 가까운 이웃으로 있으면서, 또 문화를 즐기면서도 기꺼이 즐기지 못하는 이 현상, 개운치 못한 이 감정이 왜 생겼을까,

아까 김웅희 교수님께서도 한번 언급하셨습니다만, 제가 보기에는 문화와 정치의 불일치 때문이 아닐까 하는 생각이 듭니다.

저는 한국과 일본이 상당히 많이 정치적으로 서로 교류하고, 이해하는 추세가 컼다고 생각합니다. 그런데 아쉽게도 지난 5년 동안 문재인 정권이 집권하면서 한일관계를 역행시키는 데 큰 악영향을 미쳤다고 봅니다. 아까 고하리 선생님께서 “우익은 내셔널리스트”라고 말씀하셨는데, 한국은 그것이 반대로 돼 있습니다. 우익은 오히려 대단히 개방주의적입니다. 저도 한국에서는 우파에 속하는데, 일본에 대해서는 아주 개방적인 마인드를 갖고 있습니다. 그런데 좌익이 오히려 일본에 상당히 적대적인 반일 감정을 의도적으로 불러일으켰습니다. 국내 정치적인 세력을 구축하기 위해서. 그리고 여기에 동조했던 사람들은 젊은 세대인데, 젊은 세대는 전교조가 친북, 반일, 이런 사상을 어린 학생들에게 가르쳤습니다. 그런 것이 한국에서의 좌익입니다. 시대에 역행적인 사조가 한국에 있다는 것이 불행하다고 생각합니다.

일본에서는 아베 정권이 비슷한 시기에 있었기 때문에, 일본 아베 정권과 한국 문재인 정권이 한일 관계를 역행시키는 데 아주 부정적인 영향을 미쳤다고 봅니다. 다행히 일본에서는 아베 정권이 아니고, 한국에서는 윤석열 정부가 집권하면서 바로 일본에 대해 전향적이고 개방적인 정책을 표방하고 있기 때문에, 한일관계는 상당히 전향적으로, 긍정적으로 발전할 여지가 있지 않을까 이런 생각을 하게 됩니다.

여러분들이 말씀하신 대로, 대중 문화라는 것이 마음을 움직이는 것인데, 우리 학자들이 대중문화에 관심을 가지고 이런 학술회의를 했으니, 이것을 계기로 일본 사람과 한국 사람의 마음을 움직여서 한일관계가 더 잘 발전되도록, 아쓰미재단과 미래인력연구원은 지난 몇십년 동안 교류를 한 성과의 방향이 이렇게 잡히는 것이 아닌가 하는 생각이 듭니다. 오늘 학술회의가 이런 점에서도 상당히 의미가 있고 성과가 있었다고 생각이 듭니다. 제 말씀은 여기까지 하겠습니다. 감사합니다.

강연자 약력

■ 고하리 스스무 / KOHARI Susumu

시즈오카현립대 교수. 1963년생. 시즈오카현립대학 국제관계학부 교수. 전공은 현대한국·조선사회론, 동북아시아 지역연구. 동경외국어대학 조선어과 졸업, 서강대학교 공공정책대학원 석사과정 수료, 서울대학교 행정대학원박사과정 중퇴. 특수법인 국제관광진흥회 동경본부 직원, 동 서울사무소 차장, 외무성전문조사원(주한일본대사관 근무) 등을 거쳐 현직. 게이오대학 강사 등을 겸무. 저서로 『최서면과 한일의 정재관학 인맥—한국 지일파 지식인의 오렐 히스토리』(편저, 同時代社, 2022년), 『문재인 정권기의 한국사회·정치와 한일관계』(柘植書房新社, 2021년), 『한중일의 상호 이미지와 패플러문화—국가 브랜딩정책의 전개』(공편저, 明石書店, 2019년), 『한일관계의 쟁점』(공편저, 藤原書店, 2014년), 『한류핸드북』(공편저, 新書館, 2007년), 『한국인은 이렇게 생각한다』(新潮新書, 2004년) 등.

■ 한준 / HAN Joon

연세대 교수. 1988년 서울대학교 사회학과 졸업. 1990년 서울대학교 대학원 사회학 석사. 1998년 미국 스탠포드대학교대학원 사회학 박사. 연세대학교 사회학과 교수. 하버드대학 엔칭연구소 방문교수(2009-2010년). 한국사회과학자료원 원장(2011-2015년). 주요 저서로 『한국 사회의 제도에 대한 신뢰』(한림대학교출판부, 2008년), 『BTS의 글로벌 매력 이야기』(공편, EAI, 2020년), 『4차 산업혁명, 일과 경영을 바꾸다』(공저, 삼성경제연구소, 2019년), 『대한민국 시스템, 지속가능한가?』(공저, EAI, 2018년), 『초고령 사회, 조직활력을 어떻게 높일까』(공저, 클라우드나인, 2017년) 등. 주요논문으로 「사회과학에서의 복잡계 연구」(『새물리』67권 5호, 한국물리학회, 2017년), 「한국의 사회이동: 현황과 배경」(『현상과 인식』40권 4호, 한국인문사회과학회, 2016년), 「한국인 삶의 질의 사회적 결정요인」(『국정관리연구』10권 2호, 성균관대학교, 2015년) 등.

■ 쥐·스완·자오 / Chu Xuan Giao

베트남 사회과학원 문화연구소 상석연구원. 2006년도 아쓰미국제교류재단 장학생. 베트남 사회과학원 문화연구소 고급 연구원. 2007년 3월 동경외국어대학 지역문화연구과 박사후기과정(문화인류학) 수료. 2015년 종합연구대학원대학문화과학연구과 지역문화학전공 박사학위(문화인류학) 취득.

후기를 대신하여

김웅희 인하대 교수



2022년 5월 14일(토) 신종 코로나바이러스가 ‘막판’ 기승을 부리는 가운데 제 20 회 한일아시아미래포럼이 지난회와 마찬가지로 온라인 방식으로 개최되었다. 그동안 두 차례 연속 한일관계의 ‘어두운’ 부분을 다뤄왔지만 이번에는 이마니시 준코 대표의 제안으로 ‘밝은’ 부분에 대해 논의하기로 하고 방탄소년단(BTS)의 문화력에 초점을 맞춰 ‘진격의 K-컬쳐——신한류 현상과 그 영향력’에 대해 논의를 나눴다. 한일, 그리고 베트남에서 전문가를 초청하여 BTS 문화력의 원천이 무엇인지, BTS 현상은 한일관계, 지역협력, 그리고 세계화에 어떤 임플리케이션을 갖는 것인지 등에 대해 폭넓은 관점에서 검토하였다.

포럼에서는 아쓰미국제교류재단 SGRA의 이마니시 준코 대표의 개회사에 이어 일본과 한국을 대표한 2명의 전문가 기조보고가 이뤄졌다. 우선, 고하리 스스무(小針進) 시즈오카현립대학 교수는 ‘문화와 정치·외교를 둘러싼 개운치 않은 “바라보기”’라는 제목으로 정치와 문화를 분리할 수 없는 갈등, 정치뉴스에서 보는 한국과 인스타그램에 나타나는 한국과의 거리감에 대한 갈등, 문화소비와 정치적 가치관·세대 간의 차이에 대한 갈등, 매력적인 문화와 불안정한 대통령의 나라에 대한 갈등, 반일·친일 소동과 혐한 조장에 관한 갈등, 정치적 표명과 그 반발에 대한 갈등, 정치문화에 대한 개입과 ‘죄애’의 반일 의혹에 대한 갈등, 팬덤의 SNS 업로드와 솔직하게 즐길 수 없는 갈등, K팝 가수를 비판하는 혐한론에 대한 갈등, 예전에는 일본이 한국의 본보기였다는 것에 대한 갈등 등 여러 측면에서 문화와 정치를 둘러싼 일본 대학생들이 겪는 갈등과 개운치 않은 바라보기의 실체에 대해 생생하게 소개했다.

한준 연세대 교수는 ‘BTS의 글로벌 매력’에 대해 외적 환경적 요인과 내적 역량적 요인으로 나눠 고찰한 연구 결과를 보고했다. 우선 외적, 환경적 요인으로 글로벌 문화에서의 중심 - 주변관계의 약화 또는 해체, 문화적 취향에서의 위계의 약화와 잡식성(omnivore)의 등장, 문화적 가치로서 혼종(hybrid)과 진정성의 결합, 개인화된 디지털 매체에 의한 대중매체의 대체를 꼽았다. 그리고 내적, 역량적인 요인으로 음악 스타일과 퍼포먼스 능력의 탁월성, 진정성과 정체성의 결합을 통한 공감의 확대, 글로벌 팬덤 아미(BTS 공식 팬클럽)의 강력한 지원을 들었다.

2부에서는 미니보고를 통해 추 스완 자오(Chu Xuan Giao) 베트남 사회과학원 문화연구소 상석연구원이 베트남에서의 K팝·J팝, 베트남 출신의 K팝·J팝 현황을 소개하고 문화자원으로서의 V팝의 가능성에 대해 전망했다. 자유론에서는 김현욱 국민대 교수가 일본 전통 예능의 한 분야인 노(能)와의 비교

의 관점에서, 히라타 유기에 일본여자대학 교수가 미디어 문화연구 차원에서 각각 흥미로운 코멘트를 했다.

3부에서는 김승배 부경대 교수와 김은혜 부산대 교수의 도움으로 웨비나 화면의 Q&A 기능을 사용해 일반 참가자와의 질의응답이 이뤄졌다. 마지막은 서재진 미래인력연구원 원장의 한일 아시아미래포럼의 경위와 역할에 대한 열띤 코멘트와 폐회사로 마무리됐다. 이번 포럼에는 250 건이 넘는 일반 참가 신청이 있었고 순간 최다 참가자가 170 명을 웃돌았다. 시즈오카현립대, 인하대에서 참가한 젊은 학생들도 많았다. 충분한 질의응답이 이뤄졌다고 단언할 수 없는 부분도 있지만 설문을 통해 많은 참석자들로부터 포럼 소감 등이 접수됐다. 설문에서 “포럼은 기대한 대로였다” (“역시 기대한 대로” 56.6%, “대체로 기대한 대로” 38.4%) 고 답한 사람의 비율이 95%를 차지했고, 신한류 현상이나 ‘개운치 않은 (모야모야) 바라보기’의 정체를 알 수 있어서 좋았다는 소감도 있었다.

이번회가 제 20 회를 맞이한 기념비적인 포럼이었음에도 불구하고 아쉽게도 코로나 19 사태로 기념행사나 한일아시아미래포럼만의 ‘변외’는 없었다. 다음 포럼에서는 지난 20년을 돌아보면서 꼭 공식 만찬주 ‘하루시카’와 폭탄주를 즐길 수 있는 모임이 되었으면 한다. 마지막으로 제 20 회 포럼이 성공적으로 마무리될 수 있도록 지원을 아끼지 않은 이마니시 SGRA 대표와 이진규 미래인력연구원 전 이사장 (함경도지사), 그리고 지난번과 마찬가지로 웨비나 준비에 만전을 기하고 완벽한 포럼으로 마무리해준 스태프 여러분의 노고에 감사를 표한다.



■ 김웅희 【金雄熙】 KIM Woonghee

89년 서울대 외교학과 졸업. 94년 쓰쿠바대학 대학원 국제정치경제학 연구과 석사, 98년 박사. 박사논문 「동의조달의 침투성 네트워크로서의 정부자문기관에 관한 연구(同意調達の浸透性ネットワークとしての政府諮詢機関に関する研究)」. 99년부터 한국전자통신연구원 전임연구원. 2000년부터 인하대 국제통상학부 전임강사, 06년부터 부교수, 11년부터 교수. SGRA 연구원. 대표저작에 「한일기본조약의 의의와 한계」『일본연구논총』제43호, 2016년; 「일본의 자유롭고 열린 인도태평양 구상과 포섭적 경쟁의 딜레마」『일본연구논총』제54호, 2021년; 『현대일본정치의 이해』, 공저, 한국방송통신대학교 출판부, 2022년. 최근에는 국제개발협력, 지역무역협정에 관심을 갖고 있으며 동아시아 지역협력과 통합을 둘러싼 미·일과 중국의 경쟁과 협력에 대해 연구를 진행하고 있음.

SGRA レポート バックナンバーのご案内

- SGRA レポート 01 設立記念講演録 「21世紀の日本とアジア」 船橋洋一 2001. 1. 30 発行
- SGRA レポート 02 CISV国際シンポジウム講演録 「グローバル化への挑戦：多様性の中に調和を求めて」
今西淳子、高偉俊、F.マキト、金雄熙、李來賛 2001. 1. 15 発行
- SGRA レポート 03 渥美奨学生の集い講演録 「技術の創造」 畑村洋太郎 2001. 3. 15 発行
- SGRA レポート 04 第1回フォーラム講演録 「地球市民の皆さんへ」 関啓子、L.ビッヒラー、高熙卓 2001. 5. 10 発行
- SGRA レポート 05 第2回フォーラム講演録 「グローバル化のなかの新しい東アジア：経済協力をどう考えるべきか」
平川均、F.マキト、李鋼哲 2001. 5. 10 発行
- SGRA レポート 06 投稿 「今日の留学」「はじめの一歩」 工藤正司 今西淳子 2001. 8. 30 発行
- SGRA レポート 07 第3回フォーラム講演録 「共生時代のエネルギーを考える：ライフスタイルからの工夫」
木村建一、D.パート、高偉俊 2001. 10. 10 発行
- SGRA レポート 08 第4回フォーラム講演録 「IT教育革命：ITは教育をどう変えるか」
臼井建彦、西野篤夫、V.コストブ、F.マキト、J.スリスマンティオ、蔣惠玲、楊接期、
李來賛、斎藤信男 2002. 1. 20 発行
- SGRA レポート 09 第5回フォーラム講演録 「グローバル化と民族主義：対話と共生をキーワードに」
ペマ・ギャルポ、林泉忠 2002. 2. 28 発行
- SGRA レポート 10 第6回フォーラム講演録 「日本とイスラーム：文明間の対話のために」
S.ギュレチ、板垣雄三 2002. 6. 15 発行
- SGRA レポート 11 投稿 「中国はなぜWTOに加盟したのか」 金香海 2002. 7. 8 発行
- SGRA レポート 12 第7回フォーラム講演録 「地球環境診断：地球の砂漠化を考える」
建石隆太郎、B.ブレンサイン 2002. 10. 25 発行
- SGRA レポート 13 投稿 「経済特区：フィリピンの視点から」 F.マキト 2002. 12. 12 発行
- SGRA レポート 14 第8回フォーラム講演録 「グローバル化の中の新しい東アジア」 +宮澤喜一元総理大臣をお迎えして
フリーディスカッション
平川均、李鎮奎、ガト・アルヤ・プートゥラ、孟健軍、B.ヴィリエガス 日本語版2003. 1. 31 発行、
韓国語版2003. 3. 31 発行、中国語版2003. 5. 30 発行、英語版2003. 3. 6 発行
- SGRA レポート 15 投稿 「中国における行政訴訟—請求と処理状況に対する考察—」 吳東鎬 2003. 1. 31 発行
- SGRA レポート 16 第9回フォーラム講演録 「情報化と教育」 苑復傑、遊間和子 2003. 5. 30 発行
- SGRA レポート 17 第10回フォーラム講演録 「21世紀の世界安全保障と東アジア」
白石隆、南基正、李恩民、村田晃嗣 日本語版2003. 3. 30 発行、英語版2003. 6. 6 発行
- SGRA レポート 18 第11回フォーラム講演録 「地球市民研究：国境を越える取り組み」 高橋甫、貫戸朋子 2003. 8. 30 発行
- SGRA レポート 19 投稿 「海軍の誕生と近代日本－幕末期海軍建設の再検討と『海軍革命』の仮説」 朴栄濬
2003. 12. 4 発行
- SGRA レポート 20 第12回フォーラム講演録 「環境問題と国際協力：COP3の目標は実現可能か」
外岡豊、李海峰、鄭成春、高偉俊 2004. 3. 10 発行
- SGRA レポート 21 日韓アジア未来フォーラム 「アジア共同体構築に向けての日本及び韓国の役割について」 2004. 6. 30 発行
- SGRA レポート 22 渥美奨学生の集い講演録 「民族紛争—どうして起こるのか どう解決するか」 明石康 2004. 4. 20 発行

-
- SGRA レポート 23 第13回フォーラム講演録 「日本は外国人をどう受け入れるべきか」
宮島喬、イコ・プラムティオノ 2004. 2. 25 発行
- SGRA レポート 24 投稿 「1945年のモンゴル人民共和国の中国に対する援助：その評価の歴史」 フスレ 2004. 10. 25 発行
- SGRA レポート 25 第14回フォーラム講演録 「国境を越えるE-Learning」
斎藤信男、福田収一、渡辺吉鎧、F.マキト、金 雄熙 2005. 3. 31 発行
- SGRA レポート 26 第15回フォーラム講演録 「この夏、東京の電気は大丈夫？」 中上英俊、高 健俊 2005. 1. 24 発行
- SGRA レポート 27 第16回フォーラム講演録 「東アジア軍事同盟の過去・現在・未来」
竹田いさみ、R.エルドリッヂ、朴 栄濬、渡辺剛、伊藤裕子 2005. 7. 30 発行
- SGRA レポート 28 第17回フォーラム講演録 「日本は外国人をどう受け入れるべきか- 地球市民の義務教育-」
宮島喬、ヤマグチ・アナ・エリーザ、朴 校熙、小林宏美 2005. 7. 30 発行
- SGRA レポート 29 第18回フォーラム・第4回日韓アジア未来フォーラム講演録 「韓流・日流：東アジア地域協力における
ソフトパワー」 李 鎮奎、林 夏生、金 智龍、道上尚史、木宮正史、李 元徳、金 雄熙 2005. 5. 20 発行
- SGRA レポート 30 第19回フォーラム講演録 「東アジア文化再考－自由と市民社会をキーワードに－」
宮崎法子、東島 誠 2005. 12. 20 発行
- SGRA レポート 31 第20回フォーラム講演録 「東アジアの経済統合：雁はまだ飛んでいるか」
平川 均、渡辺利夫、トラン・ヴァン・トゥ、範 建亭、白 寅秀、エンクバヤル・シャグダル、F.マキト
2006. 2. 20 発行
- SGRA レポート 32 第21回フォーラム講演録 「日本人は外国人をどう受け入れるべきか－留学生－」
横田雅弘、白石勝巳、鄭仁豪、カンピラバーブ・スネート、王雪萍、黒田一雄、大塚晶、徐向東、
角田英一 2006. 4. 10 発行
- SGRA レポート 33 第22回フォーラム講演録 「戦後和解プロセスの研究」 小菅信子、李 恩民 2006. 7. 10 発行
- SGRA レポート 34 第23回フォーラム講演録 「日本人と宗教：宗教って何なの？」
島薙 進、ノルマン・ヘイヴンズ、ランジャナ・ムコパディヤーヤ、ミラ・ゾンターク、
セリム・ユジエル・ギュレチ 2006. 11. 10 発行
- SGRA レポート 35 第24回フォーラム講演録 「ごみ処理と国境を越える資源循環～私が分別したごみはどこへ行くの？～」
鈴木進一、間宮 尚、李 海峰、中西 徹、外岡 豊 2007. 3. 20 発行
- SGRA レポート 36 第25回フォーラム講演録 「ITは教育を強化できるか」
高橋富士信、藤谷哲、楊接期、江蘇蘇 2007. 4. 20 発行
- SGRA レポート 37 第1回チャイナ・フォーラムin北京講演録 「パネルディスカッション『若者の未来と日本語』」
池崎美代子、武田春仁、張 潤北、徐 向東、孫 建軍、朴 貞姫 2007. 6. 10 発行
- SGRA レポート 38 第6回日韓フォーラムin葉山講演録 「親日・反日・克日：多様化する韓国の対日観」
金 篓洙、趙 寛子、玄 大松、小針 進、南 基正 2007. 8. 31 発行
- SGRA レポート 39 第26回フォーラム講演録 「東アジアにおける日本思想史～私たちの出会いと将来～」
黒住 真、韓 東育、趙 寛子、林 少陽、孫 軍悦 2007. 11. 30 発行
- SGRA レポート 40 第27回フォーラム講演録 「アジアにおける外来種問題～ひとの生活との関わりを考える～」
多紀保彦、加納光樹、プラチャー・ムシカシントーン、今西淳子 2008. 5. 30 発行
- SGRA レポート 41 第28回フォーラム講演録 「いのちの尊厳と宗教の役割」
島薙 進、秋葉悦子、井上ウイマラ、大谷いづみ、ランジャナ・ムコパディヤーヤ 2008. 3. 15 発行

- SGRA レポート 42 第2回チャイナ・フォーラム in 北京&新疆講演録 「黄土高原緑化協力の15年—無理解と失敗から相互理解と信頼へ—」 高見邦雄 日本語版、中国語版 2008.1.30発行
- SGRA レポート 43 渥美奨学生の集い講演録 「鹿島守之助とパン・アジア主義」 平川均 2008.3.1発行
- SGRA レポート 44 第29回フォーラム講演録「広告と社会の複雑な関係」 関沢 英彦、徐 向東、オリガ・ホメンコ 2008.6.25発行
- SGRA レポート 45 第30回フォーラム講演録 「教育における『負け組』をどう考えるか～日本、中国、シンガポール～」佐藤香、山口真美、シム・チュン・キャット 2008.9.20発行
- SGRA レポート 46 第31回フォーラム講演録 「水田から油田へ：日本のエネルギー供給、食糧安全と地域の活性化」 東城清秀、田村啓二、外岡 豊 2009.1.10発行
- SGRA レポート 47 第32回フォーラム講演録 「オリンピックと東アジアの平和繁栄」 清水 諭、池田慎太郎、朴 榮濬、劉傑、南 基正 2008.8.8発行
- SGRA レポート 48 第3回チャイナ・フォーラム in 延辺&北京講演録 「一燈やがて万燈となる如く—アジアの留学生と生活を共にした協会の50年」工藤正司 日本語版、中国語版 2009.4.15発行
- SGRA レポート 49 第33回フォーラム講演録 「東アジアの経済統合が格差を縮めるか」 東 茂樹、平川 均、ド・マン・ホーン、フェルディナンド・C・マキト 2009.6.30発行
- SGRA レポート 50 第8回日韓アジア未来フォーラム講演録 「日韓の東アジア地域構想と中国観」 平川 均、孫 刎、川島 真、金湘培、李 鋼哲 日本語版、韓国語Web版 2009.9.25発行
- SGRA レポート 51 第35回フォーラム講演録 「テレビゲームが子どもの成長に与える影響を考える」 大多和直樹、佐々木 敏、渋谷明子、ユ・ティ・ルイン、江 蘇蘇 2009.11.15発行
- SGRA レポート 52 第36回フォーラム講演録 「東アジアの市民社会と21世紀の課題」 宮島 喬、都築 勉、高 熙卓、中西 徹、林 泉忠、ブ・ティ・ミン・チイ、劉 傑、孫 軍悦 2010.3.25発行
- SGRA レポート 53 第4回チャイナ・フォーラム in 北京&上海講演録 「世界的課題に向けていま若者ができること～TABLE FOR TWO～」近藤正晃ジェームス 2010.4.30発行
- SGRA レポート 54 第37回フォーラム講演録 「エリート教育は国に『希望』をもたらすか：東アジアのエリート高校教育の現状と課題」玄田有史 シム・チュンキャット 金範洙 張 健 2010.5.10発行
- SGRA レポート 55 第38回フォーラム講演録 「Better City, Better Life～東アジアにおける都市・建築のエネルギー事情とライフスタイル～」木村建一、高 偉俊、Mochamad Donny Koerniawan、Max Maquito、Pham Van Quan、葉 文昌、Supreedee Rittironk、郭 栄珠、王 劍宏、福田展淳 2010.12.15発行
- SGRA レポート 56 第5回チャイナ・フォーラム in 北京&フフホト講演録 「中国の環境問題と日中民間協力」 第一部（北京）：「北京の水問題を中心に」高見邦雄、汪 敏、張 昌玉 第二部（フフホト）：「地下資源開発を中心に」高見邦雄、オンドロナ、ブレンサイン 2011.5.10発行
- SGRA レポート 57 第39回フォーラム講演録 「ポスト社会主義時代における宗教の復興」井上まどか、ティムール・ダダバエフ、ゾンターク・ミラ、エリック・シッケタンツ、島薗 進、陳 繼東 2011.12.30発行
- SGRA レポート 58 投稿 「鹿島守之助とパン・アジア論への一試論」平川 均 2011.2.15発行

- SGRA レポート 59 第10回日韓アジア未来フォーラム講演録「1300年前の東アジア地域交流」
朴亨國、金尚泰、胡潔、李成制、陸載和、清水重敦、林慶澤 2012.1.10発行
- SGRA レポート 60 第40回フォーラム講演録「東アジアの少子高齢化問題と福祉」
田多英範、李蓮花、羅仁淑、平川均、シム・チュンキヤット、F・マキト 2011.11.30発行
- SGRA レポート 61 第41回SGRAフォーラム講演録「東アジア共同体の現状と展望」恒川惠市、黒柳米司、朴榮濬、劉傑、林泉忠、ブレンサイン、李成日、南基正、平川均 2012.6.18発行
- SGRA レポート 62 第6回チャイナ・フォーラム in 北京&フフホト講演録
「Sound Economy ~私がミナマタから学んだこと~」柳田耕一
「内モンゴル草原の生態系：鉱山採掘がもたらしている生態系破壊と環境汚染問題」郭偉
2012.6.15発行
- SGRA レポート 64 第43回SGRAフォーラム in 莊科講演録「東アジア軍事同盟の課題と展望」
朴榮濬、渡辺剛、伊藤裕子、南基正、林泉忠、竹田いさみ 2012.11.20発行
- SGRA レポート 65 第44回SGRAフォーラム in 莊科講演録「21世紀型学力を育むフューチャースクールの戦略と課題」
赤堀侃司、影戸誠、曹圭福、シム・チュンキヤット、石澤紀雄 2013.2.1発行
- SGRA レポート 66 渥美奨学生の集い講演録「日英戦後和解（1994-1998年）」（日本語・英語・中国語）沼田貞昭
2013.10.20発行
- SGRA レポート 67 第12回日韓アジア未来フォーラム講演録「アジア太平洋時代における東アジア新秩序の模索」
平川均、加茂具樹、金雄熙、木宮正史、李元徳、金敬默 2014.2.25発行
- SGRA レポート 68 第7回SGRAチャイナ・フォーラム in 北京講演録「ボランティア・志願者論」
(日本語・中国語・英語) 宮崎幸雄 2014.5.15発行
- SGRA レポート 69 第45回SGRAフォーラム講演録「紛争の海から平和の海へ－東アジア海洋秩序の現状と展望－」
村瀬信也、南基正、李成日、林泉忠、福原裕二、朴榮濬 2014.10.20発行
- SGRA レポート 70 第46回SGRAフォーラム講演録「インクルーシブ教育：子どもの多様なニーズにどう応えるか」
荒川智、上原芳枝、ヴィラーグ・ヴィクトル、中村ノーマン、崔佳英 2015.4.20発行
- SGRA レポート 71 第47回SGRAフォーラム講演録「科学技術とリスク社会－福島第一原発事故から考える科学技術と倫理－」崔勝媛、島薗進、平川秀幸 2015.5.25発行
- SGRA レポート 72 第8回チャイナ・フォーラム講演録「近代日本美術史と近代中国」
佐藤道信、木田拓也 2015.10.20発行
- SGRA レポート 73 第14回日韓アジア未来フォーラム、第48回SGRAフォーラム講演録「アジア経済のダイナミズム－物流を中心に」李鎮奎、金雄熙、榎原英資、安秉民、ドマンホーン、李鋼哲 2015.11.10発行
- SGRA レポート 74 第49回SGRAフォーラム講演録：円卓会議「日本研究の新しいパラダイムを求めて」
劉傑、平野健一郎、南基正 他15名 2016.6.20発行
- SGRA レポート 75 第50回SGRAフォーラム in 北九州講演録「青空、水、くらし－環境と女性と未来に向けて」
神崎智子、齊藤淳子、李允淑、小林直子、田村慶子 2016.6.27発行
- SGRA レポート 76 第9回SGRAチャイナ・フォーラム in フフホト&北京講演録「日中200年－文化史からの再検討」
劉建輝 2020.6.18発行
- SGRA レポート 77 第15回日韓アジア未来フォーラム講演録「これからの日韓の国際開発協力－共進化アキテキチャの模索」孫赫相、深川由紀子、平川均、フェルディナンド・C・マキト 2016.11.10発行

- SGRA レポート 78 第51回 SGRA フォーラム講演録「今、再び平和について—平和のための東アジア知識人連帯を考える—」南基正、木宮正史、朴栄濬、宋均營、林泉忠、都築勉 2017. 3. 27 発行
- SGRA レポート 79 第52回 SGRA フォーラム講演録「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性(1)」劉傑、趙珧、葛兆光、三谷博、八百啓介、橋本雄、松田麻美子、徐靜波、鄭淳一、金キョンテ 2017. 6. 9 発行
- SGRA レポート 80 第16回日韓アジア未来フォーラム講演録「日中韓の国際開発協力—新たなアジア型モデルの模索—」金雄熙、李恩民、孫赫相、李鋼哲 2017. 5. 16 発行
- SGRA レポート 81 第56回 SGRA フォーラム講演録「人を幸せにするロボット一人とロボットの共生社会をめざして第2回—」稻葉雅幸、李周浩、文景楠、瀬戸文美 2017. 11. 20 発行
- SGRA レポート 82 第57回 SGRA フォーラム講演録「第2回 日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性—蒙古襲来と13世紀モンゴル帝国のグローバル化」葛兆光、四日市康博、チョグト、橋本雄、エルデニバートル、向正樹、孫衛國、金甫桄、李命美、ツェレンドルジ、趙阮、張佳 2018. 5. 10 発行
- SGRA レポート 83 第58回 SGRA フォーラム講演録「アジアを結ぶ？『一带一路』の地政学」朱建榮、李彥銘、朴栄濬、古賀慶、朴准儀 2018. 11. 16 発行
- SGRA レポート 84 第11回 SGRA チャイナフォーラム講演録「東アジアからみた中国美術史学」塚本磨充、吳孟晉 2019. 5. 17 発行
- SGRA レポート 85 第17回日韓アジア未来フォーラム講演録「北朝鮮開発協力：各アクターから現状と今後を聞く」孫赫相、朱建榮、文昊鍊 2019. 11. 22 発行
- SGRA レポート 86 第59回 SGRA フォーラム講演録「第3回 日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性：17世紀東アジアの国際関係—戦乱から安定へ—」三谷博、劉傑、趙珧、崔永昌、鄭潔西、荒木和憲、許泰玖、鈴木開、祁美琴、牧原成征、崔姓姫、趙軼峰 2019. 9. 20 発行
- SGRA レポート 87 第61回 SGRA フォーラム講演録「日本の高等教育のグローバル化!?」沈雨香、吉田文、シン・ジョンチヨル、閔沢和泉、ムラット・チャクル、金範洙 2019. 3. 26 発行
- SGRA レポート 88 第12回 SGRA チャイナ・フォーラム講演録「日中映画交流の可能性」刈間文俊、王衆一 2020. 9. 25 発行
- SGRA レポート 89 第62回 SGRA フォーラム講演録「再生可能エネルギーが世界を変える時…？——不都合な真実を超えて」ルウェリン・ヒューズ、ハンス=ヨゼフ・フェル、朴准儀、高偉俊、葉文昌、佐藤健太、近藤恵 2019. 11. 1 発行
- SGRA レポート 90 第63回 SGRA フォーラム講演録「第4回 日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性：『東アジア』の誕生—19世紀における国際秩序の転換へ—」三谷博、大久保健晴、韓承勳、孫青、大川真、南基玄、郭衛東、塩出浩之、韓成敏、秦方 2020. 11. 20 発行
- SGRA レポート 91 第13回 SGRA-V カフェ講演録「ポスト・コロナ時代の東アジア」林 泉忠 2020. 11. 20 発行
- SGRA レポート 92 第13回 SGRA チャイナ・フォーラム講演録「国際日本学としてのアニメ研究」大塚英志、秦 剛、古市雅子、陳 龍 2021. 6. 18 発行
- SGRA レポート 93 第14回 SGRA チャイナ・フォーラム講演録「東西思想の接触圏としての日本近代美術史再考」稻賀繁美、劉 曜峰、塚本磨充、王 中忱、林 少陽 2021. 6. 18 発行
- SGRA レポート 94 第65回 SGRA-V フォーラム講演録「第5回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性：19世紀東アジアにおける感染症の流行と社会的対応」朴 漢珉、市川智生、余 新忠 2021. 10. 05 発行

- SGRA レポート 95 第19回日韓アジア未来フォーラム講演録「岐路に立つ日韓関係：これからどうすればいいか」
小此木 政夫、李 元徳、沈 援先、伊集院 敦、金 志英、小針 進、朴 栄濬、西野 純也
2021. 11. 17発行
- SGRA レポート 96 第66回 SGRA フォーラム講演録「第6回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性
人の移動と境界・権力・民族」塙出浩之、趙 阮、張 佳、榎本渉、韓 成敏、秦 方、大久保健晴
2022. 6. 9発行
- SGRA レポート 97 第67回 SGRA フォーラム講演録「『誰一人取り残さない』如何にパンデミックを乗り越え SDGs実現
に向かうか—世界各地からの現状報告—」佐渡友 哲、フェルディナンド・C・マキト、杜 世鑫、
ダルウェイッシュ ホサム、李 鋼哲、モハメド・オマル・アブディン 2022. 2. 10発行
- SGRA レポート 98 第15回 SGRA チャイナ・フォーラム講演録「アジアはいかに作られ、モダンはいかなる変化を生ん
だのか？—空間アジアの形成と生活世界の近代・現代—」山室信一 2022. 6. 9発行
- SGRA レポート 99 第68回 SGRA フォーラム講演録「夢・希望・嘘—メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性
を探る—」ハンブルトン・アレクサン德拉、バラニャク平田ズザンナ、于寧、洪ユン伸 2022. 11. 1発行

■ レポートご希望の方は、SGRA 事務局（Tel : 03-3943-7612 Email : sgra@aisf.or.jp）へご連絡ください。

SGRA レポート No. 0100

第20回日韓アジア未来フォーラム

進撃のKカルチャー——新韓流現象とその影響力

제 20 회 한일아시아미래포럼

진격의 K-컬쳐——신한류현상과 그 영향력

編集・発行 (公財) 渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA)

〒112-0014 東京都文京区関口3-5-8

Tel: 03-3943-7612 Fax: 03-3943-1512

SGRA ホームページ: <http://wwwaisf.or.jp/sgra/>

電子メール: sgra@aisf.or.jp

発行日 2022年11月16日

発行責任者 今西淳子

翻 訳 尹在彦

韓国語版監修 尹在彦

印刷 (株) 平河工業社

©関口グローバル研究会 禁無断転載 本誌記事のお尋ねならびに引用の場合はご連絡ください。

©Sekiguchi Global Research Association Copying is Prohibited. For inquiries or quotes, please contact us.

SGRA REPORT

SGRAレポート

NO.100

第20回
日韓アジア未来フォーラム

進撃のKカルチャー——新韓流現象とその影響力

